

山ノ田第1遺跡

- 県道高城・山田線緊急道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -

1996

宮崎県教育委員会

YAMA NO TA
山ノ田第1遺跡

-県道高城・山田線緊急道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書-

1996

宮崎県教育委員会



空中写真

東から山ノ田第1遺跡を望む

中央左の高地は前畠遺跡

序

宮崎県教育委員会では県道高城・山田線緊急道路整備事業に伴い、平成5年度より3カ年にわたり発掘調査を実施してまいりました。

今回の調査によって、弥生時代終末から古墳時代前半にかけての集落跡や古墳時代の地下式横穴墓などの貴重な資料を得ることができました。

これらの資料をとおして郷土の歴史が一層解明され、埋蔵文化財に関する理解と認識がさらに深まり、地域研究に幅広く活用していくだければ幸いです。

なお、本書の発行および調査に際して、都城土木事務所、都城市教育委員会、工事関係者をはじめ、地域の方々の御理解と御協力に対し、心から感謝申し上げます。

平成8年3月

宮崎県教育長

田 原 直 廣

例　言

1. 本書は、県道高城・山田線緊急道路整備事業に伴う山ノ田第1遺跡の発掘調査報告書である。
2. 今回報告する調査区の一部は丸谷第1遺跡（昭和52年・県教育委員会調査 昭和54年報告）の範囲に含まれると思われるが、山ノ田第1遺跡と丸谷第1遺跡との線引きが不明瞭であるため、今回は便宜上、山ノ田第1遺跡に統一して報告する。
3. 遺跡の調査は、平成5年度～7年度にかけて実施し、その調査報告は平成7年度におこなった。
4. 本遺跡で使用した遺構の実測図は、戸高真知子、山田洋一郎、東憲章、日高広人のほか整理補助員の協力を得てこれをおこなった。
5. 遺物・図面の整理は、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターで行い、遺物の実測、拓本、製図および計測の作業は、各調査担当者ほか整理補助員の協力を得てこれをおこなった。
6. 本書の執筆は、第1章1を谷口武範、第4章1を戸高、第4章2・5を山田、第4章4を東、他を日高がおこなった。
7. 本書に使用した位置図は国土地理院発行の5万分の1図『都城』をもとに作成し、周辺地形図は宮崎県土地改良事業団体連合会作成の千分の1図をもとに作成した。
8. 本書に使用した方位はすべて磁北である。レベルは海拔絶対高である。
9. 本書に使用した写真は各調査担当者が撮影し、遺跡の空中写真は、㈱スカイ・サーベイに委託した。
10. 本書に使用した記号は以下のとおりである。

S A - 竪穴住居 S C - 土坑 S E - 溝状遺構 S T - 地下式横穴墓

11. 本書の編集は日高がおこなった。
12. 出土遺物及び調査記録類は、宮崎県総合博物館埋蔵文化財センターに保管している。

本文目次

第1章 はじめに	
1. 調査に至る経緯	(谷口) 1
2. 調査組織 1
第2章 遺跡の位置と環境 2
第3章 調査の概要 4
第4章 調査の成果	
1. A区の調査	(戸高) 6
2. B区の調査	(山田) 10
3. C区の調査 19
4. D・E・G区の調査	(東) 38
5. F区の調査	(山田) 40
第5章 まとめ 57

報告書抄録

図版

挿図目次

第1図 遺跡位置図 3
第2図 遺跡周辺地形図 5
第3図 調査位置図 5
第4図 A-1区北壁土層実測図 6
第5図 A区位置図 7
第6図 A-1区遺構分布図 7
第7図 A区出土遺物実測図 8
第8図 B区位置図 11
第9図 B区遺構分布図 11
第10図 S A 1 実測図 12
第11図 S A 1 出土遺物実測図 12
第12図 S A 2 実測図 13
第13図 S A 2 出土遺物実測図 13
第14図 S A 7 実測図 14
第15図 S A 7 出土遺物実測図 14
第16図 B区出土遺物実測図(1) 15
第17図 B区出土遺物実測図(2) 16
第18図 C区位置図 17~18
第19図 C区遺構分布図 17~18
第20図 S A 4 実測図 20
第21図 S A 4 出土遺物実測図(1) 20
第22図 S A 4 出土遺物実測図(2) 21
第23図 S A 5 実測図 22
第24図 S A 5 出土遺物実測図 22
第25図 S A 6 実測図 23
第26図 S A 6 出土遺物実測図(1) 24
第27図 S A 6 出土遺物実測図(2) 25
第28図 S A 6 出土遺物実測図(3) 26
第29図 S A 8 実測図 27
第30図 S A 8 出土遺物実測図 28
第31図 S A 9 実測図 29
第32図 S A 9 出土遺物実測図 29
第33図 S A 10 実測図 30
第34図 S A 10 出土遺物実測図 30
第35図 S A 11 実測図 31
第36図 S A 11 出土遺物実測図 32

第37図	S A 12実測図	33
第38図	S A 12出土遺物実測図	33
第39図	S T 1 実測図	34
第40図	S T 1 出土遺物実測図	35
第41図	S C 実測図	35
第42図	S E 実測図	35
第43図	C区出土遺物実測図(1)	36
第44図	C区出土遺物実測図(2)	37
第45図	G区基本土層柱状模式図・ 出土土器実測図	38
第46図	F区位置図および遺構分布図	39
第47図	S A 3 実測図	40
第48図	S A 3 出土遺物実測図	40
第49図	F区出土遺物実測図	41
第50図	集落変遷	57

表 目 次

表 1	出土遺物観察表(1)	42
表 2	出土遺物観察表(2)	43
表 3	出土遺物観察表(3)	44
表 4	出土遺物観察表(4)	45
表 5	出土遺物観察表(5)	46
表 6	出土遺物観察表(6)	47
表 7	出土遺物観察表(7)	48
表 8	出土遺物観察表(8)	49
表 9	出土遺物観察表(9)	50
表10	出土遺物観察表(10)	51
表11	出土遺物観察表(11)	52
表12	出土遺物観察表(12)	53
表13	出土遺物観察表(13)	54
表14	出土遺物観察表(14)	55
表15	出土遺物観察表(15)	56
表16	出土勾玉観察表	56
表17	出土石器観察表	56

図 版 目 次

図版 1	61	図版 3	63	図版 5	65
・A-1区遺構分布状況		・S A 7		・S A 4 出土遺物 - 2	
・A-1区北壁土層断面の 状況		・S A 8		・S A 5 出土遺物	
・A-1区東隅部の遺物 出土状況		・S A 10		・S A 6 出土遺物	
・A-3区調査状況		・S A 11 (C-7区)		図版 6	66
・山ノ田第1遺跡遺景		・S A 11 (C-5区)		・S A 7 出土遺物	
図版 2	62	・S A 12		・S A 8 出土遺物	
・S A 1		・S T 1 閉塞状況		・S A 9 出土遺物	
・S A 2		・S T 1-1		・S A 10 出土遺物	
・S A 4		図版 4	64	・S A 11 出土遺物	
・S A 6 検出状況		・S T 1-2		図版 7	67
・S A 6 遺物出土状況		・作業風景		・S A 12 出土遺物	
・S A 6 (C-7区)		・S A 1 出土遺物		・S T 1 出土遺物	
・S A 6 (C-5区)		・S A 2 出土遺物		・B区出土遺物	
		・S A 3 出土遺物		・C区出土遺物	
		・S A 4 出土遺物 - 1		・F区出土遺物	

第1章 はじめに

1. 調査に至る経緯

都城土木事務所によって、主要幹線として交通量の多い高城・山田線の道路拡幅が計画され、それにともない工事区内における文化財の有無について照会がなされた。県文化課では工事区内において山ノ田第1遺跡と丸谷第1遺跡が含まれるため、その取扱いについて協議を進めてきた。その結果、工事施行上、計画変更等は困難であることから、遺跡に影響を及ぼす箇所について、用地買収および路線区内建物移転等の完了した区域から順次発掘調査を行うこととなった。調査は、平成5～7年度の3カ年にわたり実施した。なお、第2次調査において検出された住居跡が現道下に残存していることが確認された。このため土木事務所と協議し、第3次調査として現道下の住居跡の調査を工事施行業者が上部表七等を除去後行うこととした。調査は土木事務所および工事施行業者の協力を得て進めたが、道路の通行止めが難しいことから片側車線ごとに行うこととなり、作業の安全確保上、現道下全てを調査することはできなかった。なお、第1次調査から第4次調査の期間は以下のとおりである。

- 第1次調査 平成5年7月21日～平成5年9月21日 (405m²)
第2次調査 平成6年9月7日～平成6年10月31日 (459m²)
第3次調査 平成7年2月21日～平成7年4月15日 (359m²)
第4次調査 平成7年9月4日～平成7年9月20日 (488m²)

2. 調査の組織

山ノ田第1遺跡の調査組織は次のとおりである。

調査主体 宮崎県教育委員会

教育長 高山 義孝 (平成5年度) 田原 直廣 (平成6年度～)

教育次長 八木 洋 (平成5年度～) 中田 忠 (平成5年度～)

文化課長 甲斐 教雄 (平成5年度) 江崎 富治 (平成6年度～)

同課長補佐 田中 雅文 (平成5年度～)

庶務係長 稲田 輝彦 (平成5年度) 高山 恵元 (平成6年度～)

主幹兼埋蔵文化財
第二係長 岩永 哲夫 (平成7年度、主幹兼埋蔵文化財第一係長 平成5～6年度)

主任主事 戸高 真知子 (第1次調査 調査担当)

　　山田 洋一郎 (第2次調査 調査担当)

主事 東 憲章 (第4次調査 調査担当)

　　日高 広人 (第3次調査 調査担当)

第2章 遺跡の位置と環境

山ノ田第1遺跡の所在する都城市は、鰐塚山地と諸県山地に挟まれた盆地の中央部に位置する。北西には標高1,574mの秀峰高千穂の峰を仰ぎ、南西は鹿児島県に接する。

当遺跡の位置する丸谷町は、高千穂の峰を源とする丸谷川が東流し、蛇行しながら北流する大淀川に合流している。当遺跡はその丸谷川の左岸、標高約137mから約153mの河岸段丘の低位～中位段丘上に立地している。

遺跡周辺では近年の九州縦貫自動車道建設に伴う発掘調査をはじめ、丸谷川河川改修事業、ほ場整備事業に伴う丸谷地区遺跡群の発掘調査等がおこなわれ、歴史的環境が明らかになりつつある。

当遺跡に隣接する前畠遺跡は弥生後期から古墳初頭にかけての大集落跡が確認されている。また、丸谷第1遺跡では後期の堅穴住居跡が2軒確認されている。

遺跡の南西方向、丸谷川右岸の低位段丘上では、中大五郎第1・第2・下大五郎・上大五郎・本池遺跡が隣接するように立地している。中大五郎および下大五郎の両遺跡において弥生後期の集落跡、周溝状遺構が確認されている。これら弥生後期～古墳初頭にかけての住居跡には、この地域の特色のひとつと考えられており、方形および円形を基調とした間仕切りと突出壁を持ついわゆる花弁状住居が主体を占めている。

上大五郎遺跡では中世の豪族居館跡が確認されている。上大五郎遺跡に隣接する本池遺跡では、平安から中世にかけての掘立柱建物群、堅穴状遺構、土壙墓が確認されている。また谷ノ口遺跡・下川原遺跡は、中世以降の水田跡が確認されている。

また当遺跡の北東方向、大淀川と丸谷川に挟まれた台地上には前方後円墳1基（前方部消失）、円墳10基、地下式横穴墓1基からなる志和池古墳群（県指定史跡）が形成され、築池や平原などの地下式横穴墓群の存在も知られている。今回の山ノ田第1遺跡の調査で地下式横穴墓が確認されており丸谷川左岸では初例になる。

なお、丸谷第2遺跡の調査では縄文後期の遺物が出土し、下藪遺跡では手向山式の壺型土器が表採された等、この周辺の縄文の遺跡の存在も示唆される。

（参考文献）

都城市教育委員会 『都城市遺跡詳細分布調査報告書（市内東北部）』

都城市文化財調査報告書第8集 1989

『中大五郎第1遺跡・中大五郎第2遺跡（概報）』

都城市文化財調査報告書第20集 1992

『丸谷地区遺跡群 上大五郎遺跡（概報）』

都城市文化財調査報告書第22集 1993

『上大五郎遺跡 前畠遺跡（概報）』

都城市文化財調査報告書第26集 1994

『丸谷地区遺跡群 上大五郎遺跡』

都城市文化財調査報告書第31集 1995



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

- | | | | | |
|------------|---------------|---------------|-----------|------------|
| 1. 山ノ田第1遺跡 | 2. 前畠遺跡 | 3. 丸谷第1遺跡 | 4. 上大五郎遺跡 | 5. 本池遺跡 |
| 6. 谷ノ口遺跡 | 7. 中大五郎遺跡 | 8. 下川原遺跡 | 9. 下大五郎遺跡 | 10. 丸谷第2遺跡 |
| 11. 下菌遺跡 | 12. 篠池地下式横穴墓群 | 13. 平原地下式横穴墓群 | 14. 志和池遺跡 | ○県指定志和池古墳群 |

第3章 調査の概要

発掘調査は3カ年にわたり実施した。道路整備事業（道路拡幅）のため調査区が全長約860mにもおよぶこと、また今回調査を実施した部分には丸谷第1遺跡の範囲に一部含まれるが山ノ田第1遺跡との境界が不明瞭であることから民家の出入口や農道、畠の区画等を利用して便宜的に区切り、東より統一してA～G区を設定した。また、道路拡幅部分の調査幅が2～3m程度しがとれることからトレンチを設定して調査を開始した。

第1次調査はA区の道路拡幅部分を対象に調査をおこない、A-1区ではピット群と土壤状の落ち込み等が検出された。

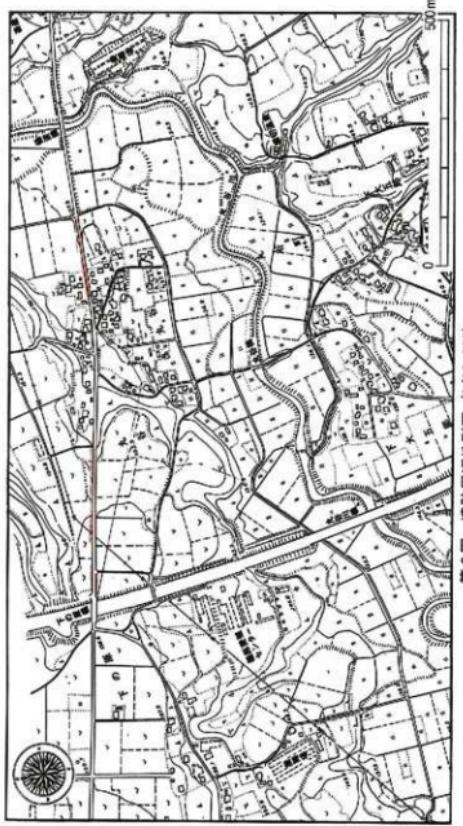
第2次調査では、B区およびC区、F区の道路拡幅部分を対象に調査をおこない、その結果B-1・2区、F-2・3・5区ではピット群をB-3・4、C-2・3、F-4区において弥生時代終末～古墳時代初頭にかけての住居跡7軒を、C-1区では溝状遺構1条および土坑1基を検出した。特にB-3・4区、C-2・3区において確認された住居跡、C-1区の溝状遺構および土坑については現道部分に残存する可能性がでてきた。

このため第3次調査では、現道部分を対象に調査を実施することになったが、緊急調査のため時間の都合上、やむおえず住居跡の残存する部分を対象に調査をおこなった。

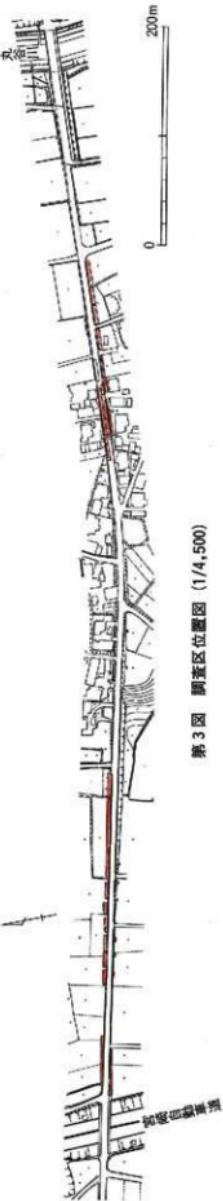
この付近は交通量が多く、また民家が密集していることなどの理由から、通行止めが困難なため片側車線ずつ調査することになった。調査は工事と平行しておこない、まず現道の北側車線部分の調査をおこなった。その後、現道の南側車線部分の調査を実施する段階において調査完了箇所さらに重機による掘削を進めた後、シラスを埋めローラーによる加圧・整地をおこなった状態で自動車等が通行させているため、残り部分をすべて調査をおこなうことは作業の安全上非常に危険と判断し、工事関係者との協議の結果、車線中央を約30cm～50cm間隔で壁を残した状態で調査区（C-4・5区）を設定し調査をおこなうこととした。調査期間中、集中豪雨により調査区の壁が一部崩れ、そこから反対車線に溜まった雨水とともにシラスが流入し、調査区内が完全に水没するアクシデントに見舞われ調査期間が延長する結果となった。

調査結果、C-4・5・7区においてC-2・3区で確認された住居跡3軒の残存部分と新たに弥生時代終末～古墳時代初頭5軒検出したほか、溝状遺構1条・地下式横穴墓1基検出した。またC-8区においてはピット群・溝状遺構を、C-6区ではピット群を検出した。なお、民家の出入口に住居跡の一部が残存する箇所については他に取り付け道路を設置する場所がないため、やむおえず限られた時間内で住居跡の範囲確認と遺物取り上げのみおこなった。なお、B-3・4区の住居跡の残存部分については検出されなかった。

第4次調査はD・E・G区を対象に調査をおこなったが、遺構は検出されずG区で弥生時代終末～古墳時代初頭の土器片が数点出土したのみであった。



第2図 潜勢周辺地形図 (1/10,000)



第3図 調査区位置図 (1/4,500)

第4章 調査の成果

1. A区の調査

第1次調査(平成5年度)、丸谷川西側の拡幅工事済みの部分を、さらに山田町方面に向けて115m延長する工事区間について実施した。調査は拡幅部分(第5図A-1~4区。以下、1~4区。)について、平成5年7月21日から9月2日までの期間に実施した。

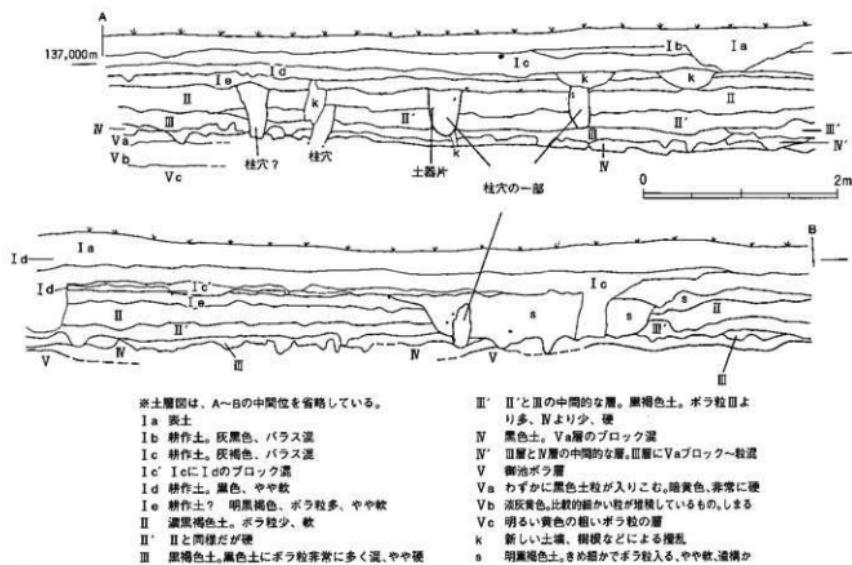
当地の原地形は、西から東へ緩やかに下がる傾斜地であるため、調査開始にあたっては、まず1~4各区にトレンチを設定し、原地形傾斜、包含層の内容・厚さを確認したうえで、重機で掘り下げる深さや遺構確認レベル、調査の進行を決めるにした。試掘の結果は以下のとおりである。

1区では、耕作土の下に厚さ約70cmの土器片を含む黒色土があり、その下に黄色の御池ボラ層が確認された。ボラ層面でピット数基が検出された。

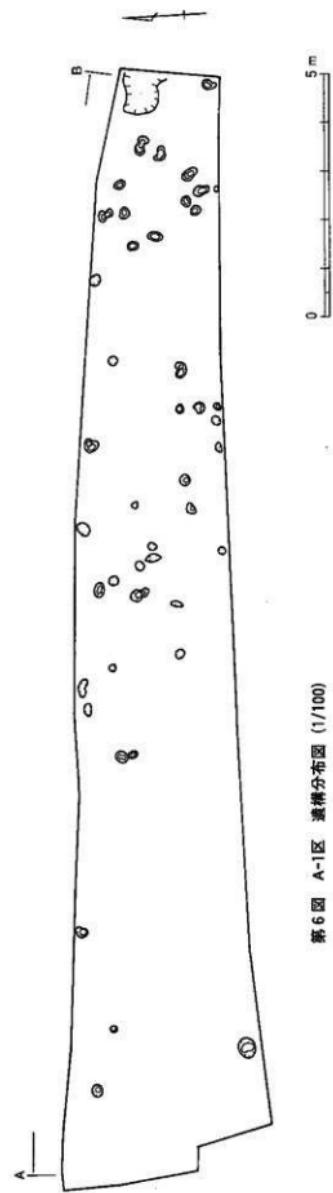
2区では、約2.5mの客土の下にボラ層が確認されたが、1区からの地形のつながりを考えるとボラ層のかなり下位まで掘削を受けていると考えられ、遺構残存の可能性はないと判断した。

3区では、隣接する水田への影響に配慮しつつ幅約2mのトレンチを随所に設定し掘り下げた。水田の床土下にボラ粒の混じる層が表れたが、上層約30cmはボラ層に黒色土・客土・水が混じり合い流動・堆積した状況が看取された。その堆積土中から土器片等が出土したもの、2区と同様に遺構残存の可能性がある層位はすでに失われていた。

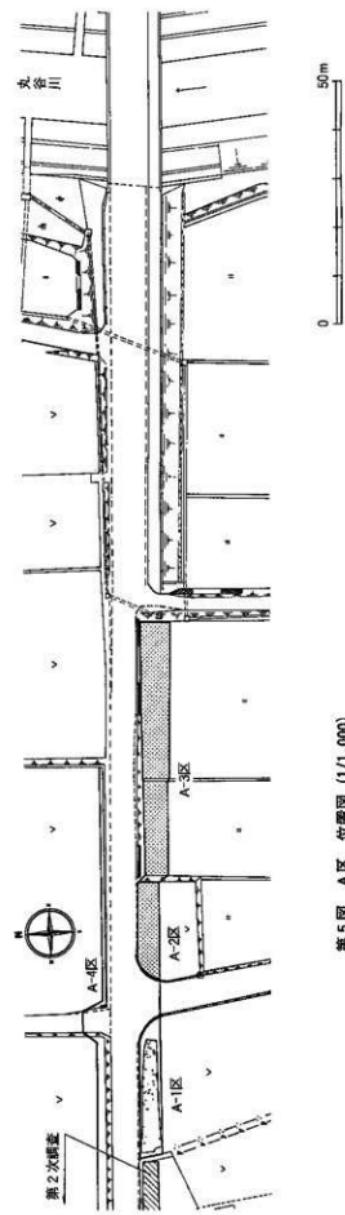
以上の結果から、1区のみ全面調査を実施することにした。また、1区で包含層が確認されたことから、北東の道路交差部拡幅部分(4区)にも幅1.5m長さ2mのトレンチを設定して掘り下げたが、



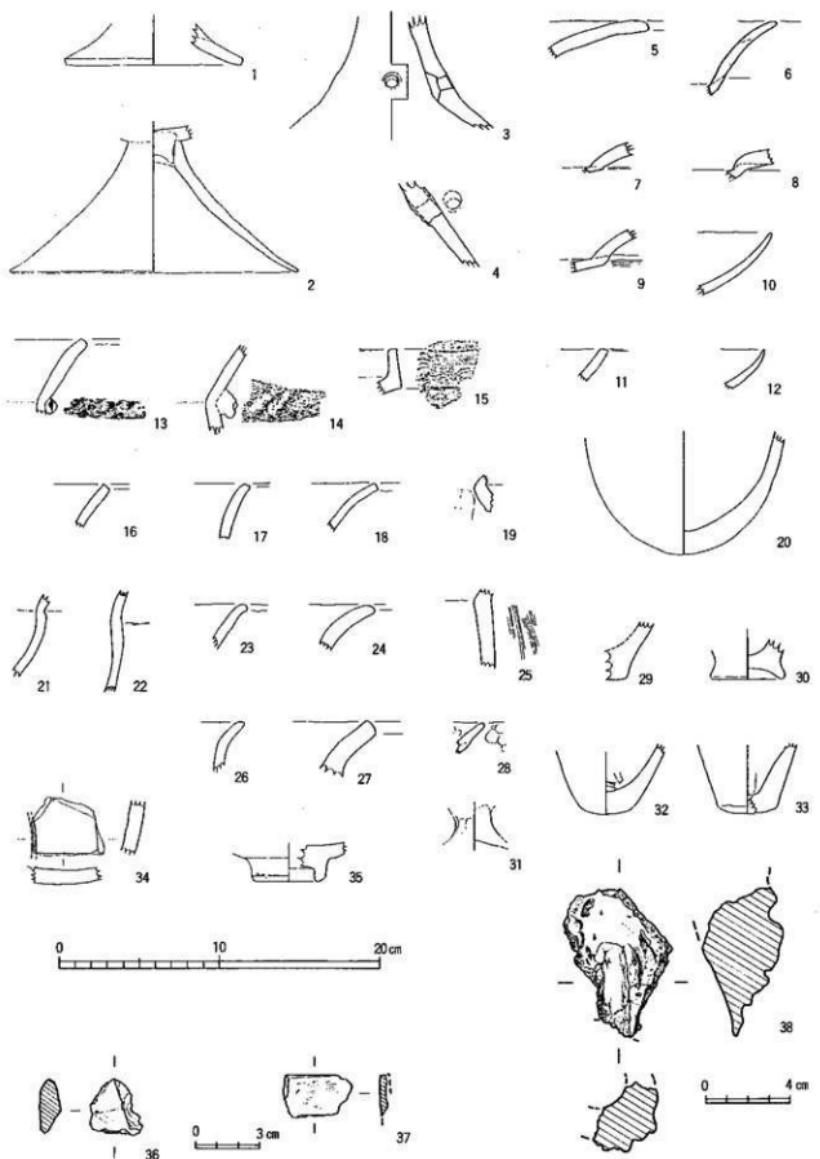
第4図 A-1区北壁土層剖面図 (1/50)



第6図 A-1区 造林分布図 (1/100)



第5図 A区 位置図 (1/1,000)



第7図 A区 出土遺物実測図

耕作土下の黒色土はボラ層まで約1mと深く、土器片が出土したのみで遺構は確認できなかった。

1区の調査は、トレンチャーによる搅乱部分の多さとその厚さ、遺物包含層である黒色土の遺構確認が困難な土色を理由に、まず重機でボラ上20cmほどの黒色土だけを残して掘り下げ、遺構確認面のボラ層面まで人力で掘り下げるにした。排土処理上の都合により東半部と西半部の2回に分けて調査した。

A-1区の調査結果

1区の基本土層は第4図に示したとおりである。Ia～e層は耕作土としているが、土器片の入るe層については耕作土か包含層か判定できなかった。北壁土層断面東部の黒色土中には、土器片の入る遺構埋土と思われる層（第4図下S層）が観察されたが、これが確実に遺構であれば、また、Ie層中で確認された柱穴が新しいものでなければ、これらに掘り込まれたIe層は包含層ということになる。

V層の街池ボラ層は約3,000年前に霧島より噴出されたもので、5～10mm大の黄色の軽石粒の堆積層である。この地域では厚さ約2.5～3mもあり、この下に縄文時代の包含層が存在する可能性もあるが、今回は狭小な範囲を対象としたので調査不可能だった。

1区で検出された遺構は、ピット群と東端部の土壤状の落ち込み1箇所のみである（第6図）。土壤状の落ち込みは、最深25cmで床面の形状にかなり起伏があり、小ピットも数ヶ所に見られる。検出直上で土器片1点が出土しているが、土壤か自然な土層の乱れか、東側の形状が不明なので判別できなかった。

S層については土壤や住居址の隅部に相当する可能性が考えられるが、平面形が不明であり、床面にあたるような硬化面がなかったので確定はできない。

1区出土の遺物は主として弥生時代後期の土器片で、黒色土やピットの中から約250点が出土した。

その出土状況を見ると、黒色土の最下層（人力で掘り下げる部分）で出土した土器片11点のうち7点は東端部、つまり先のS層の南側に集中しており、しかも出土レベルはS層最下層に相当する。これらの点からもS層は南側に続く遺構の一部である可能性が高い。

また、土器片の出土したピットは24基あるが、ピット群中のそれらの位置の疎密には特徴がみられない。

出土した土器片はほとんどが小片で、器形を復元できるものは少ない。しかし、器種を見ると甕、壺、高杯、鉢、ミニチュア土器と、当時の生活の場で用いられる器種のほとんどが揃っている。

以上その他、1区以外の調査区から土器片約40点と、1区表土および出土地点不明（1区の可能性が高い）の土器片約90点が出土している。これらA区全体の出土遺物のうち、少しがら選出して第7図に実測図を掲載した。所見については表1に記している。

38点のうち、1～33は弥生時代と思われる土器片である。34は4区出土の須恵器甕片で、内面にヘラ記号または文様かと思われる凹線の一部がある。35は3区出土の青磁で時期は不明。36・38は1区試掘時に出土したもの。出土位置不明。36は上下逆にすれば楔形石器に似るが、打製石器未製品とした。縄文時代の包含層の存在を裏付けるものである。38は時期不明の輪の羽口の破片。37は調査前に表採された石包丁の一部と思われる磨製石器片である。

2 B区の調査

B地区は、第2次調査として行った。まず最初にB-1区から始めていった。表土を剥いで黒色土層を手掘りですすめた。その結果、B-1・2区とも遺構としては柱穴群の遺構が確認されたが、掘立柱建物にはならなかった。B-3区は、最初は壁の立ち上がりがはっきりしなかったために溝状遺構としてとらえていたが、検討した結果、住居跡とした。B-4区は住居跡を2軒検出をした。第2次調査では、B-4区に接する現道部分はできなかつたので、後日工事の時に立ち合つたが、遺構等は、検出できなかつた。

S A 1

S A 1は、直径4.3mの方形プランと考えられる。深さは深いところで40cmくらいである。出土した部分が狭かつたので主柱穴は確認できていない。住居の東側の部分に住居跡内土坑があり、直径が90cmで深さが60cmの円形プランを呈するものと思われる。住居跡は御池ボラ面に掘り込まれており西側に床面が1段上がるところから、ベッド状遺構とも考えられるが面積が狭いために断言できない。

S A 1出土の遺物

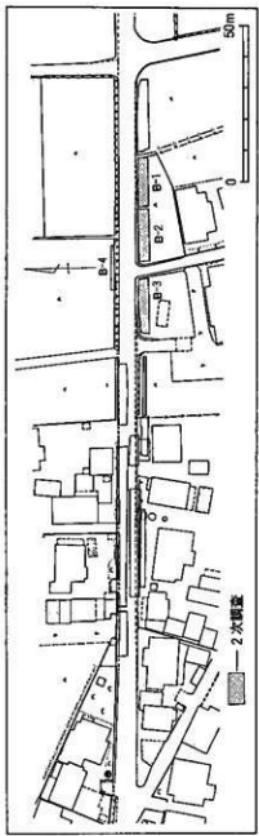
39と40は、壺の完形品である。39は、口縁部が緩やかに外反し、胴上部が張っている。40は口縁部が大きく「く」の字に外反し、左右対象ではなくいびつになっている。41は、壺の口縁部から頸部で39と同様に口縁部が緩やかに外反している。42は、壺の胴部で器面調整は内外面にナデや斜めなデを施している。43は、壺の頸部から胴部が球形の形をしているものと思われる。44は、壺の頸部から底部で43と同様に胴部が球形をしているものである。45は、高壺の完形品で壺の部分は碗状をしている。46~49は高壺の脚部から裾部で、48および49は、四方の透かしをもっている。50は、鉢の口縁部から胴部で口縁部が「く」の字状に大きく外反し胴部が張りだしているものである。51は、鉢の胴部から底部で平底の緩やかな丸みを帯びて立ち上がるものである。52は、小型鉢の完形品で口唇部が細く、底部は小さい平底である。53は、小型鉢の胴部から底部で底部から胴部にかけてわずかに内湾気味に立ち上がるものである。54は、ミニチュアの鉢の完形品で内外面にナデや指押さえ・指ナデ等が施されている。55は、穿孔土器で底部から胴部にかけて緩やかに外反しているものである。56は、コップ型土器のほぼ完形品で底部から口唇部までは直線的に立ち上がっている。

S A 2

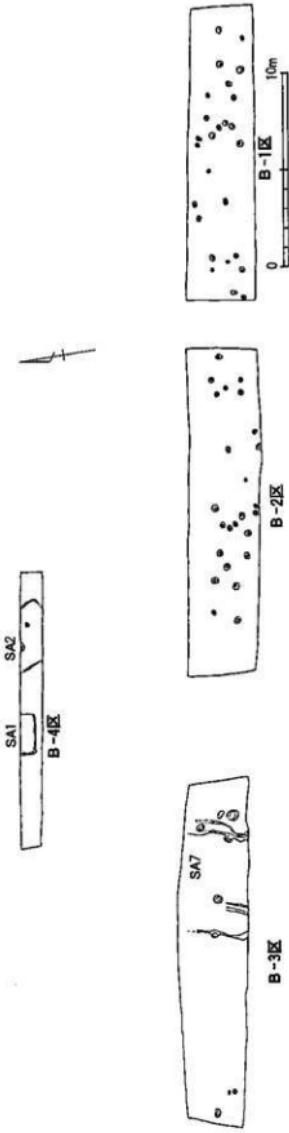
S A 2は直径が6.75mの方形プランで、主柱穴は発掘範囲が狭いため2本しかでていないが、プランの状態から4本柱と考えられる。深さは15cm程度である。検出面積が狭いために住居跡内土坑があるかは不明である。

S A 2出土の遺物

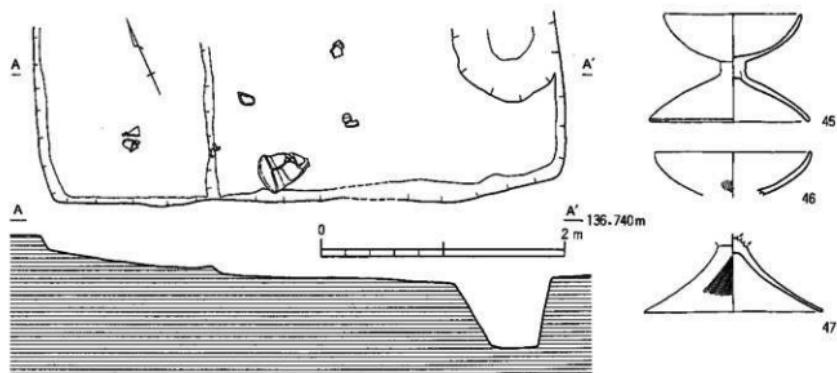
57は、壺の口縁部では直線的にのびている。58は、壺の口縁部から胴部で刻目の貼りつけ突帯がみられる。59は、壺の胴部でこれも貼付の刻目突帯を有している。60は、壺の胴部で貼り付け突帯を有し、頸部にかけて外反している。61は壺の頸部から胴部で貼りつけ刻目突帯を有し、60よりは緩やかに外反している。62は、壺の胴部で底部にかけて緩やかに丸みを帯びてくる。63は、壺の胴部で刻目突帯を有している。64は、壺の口縁部から胴部で刻目突帯を有しており胴部の張りは、少なく口縁



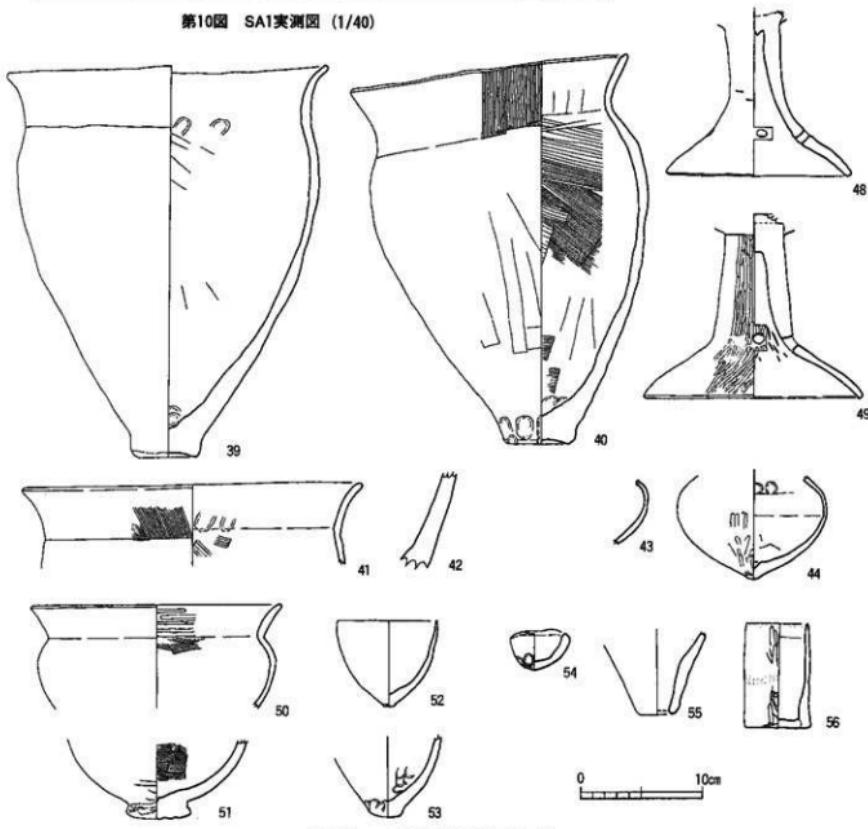
第8図 B区位置図 (1/1,500)



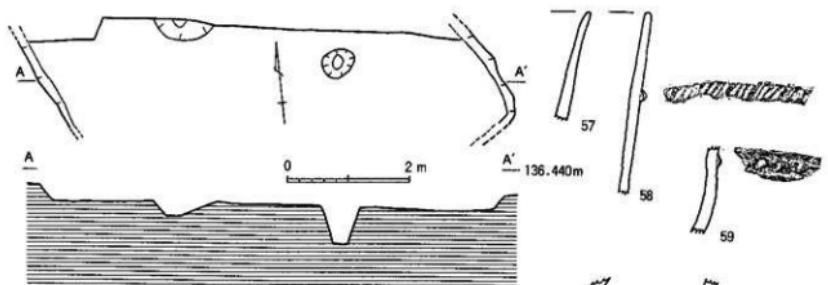
第9図 B区遺構分布図 (1/240)



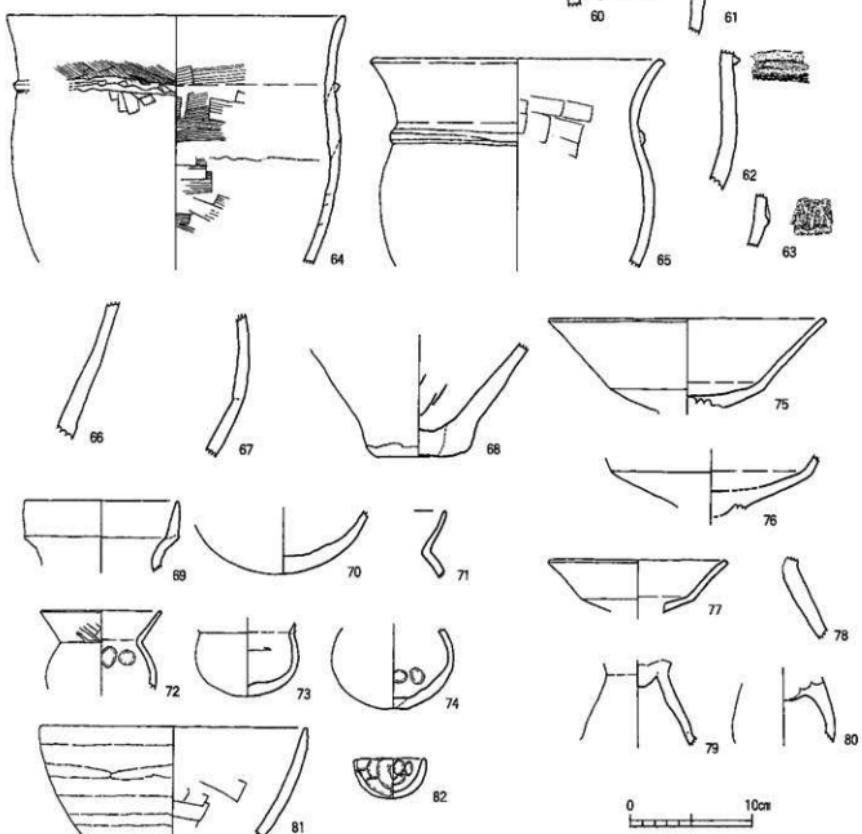
第10図 SA1実測図 (1/40)



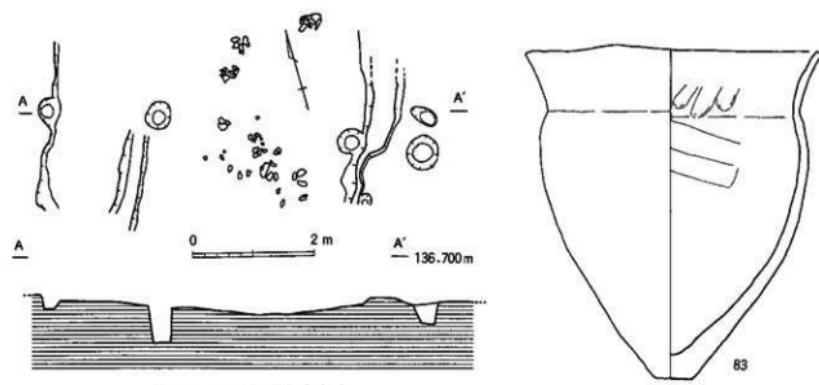
第11図 SA1出土遺物実測図 (1/4)



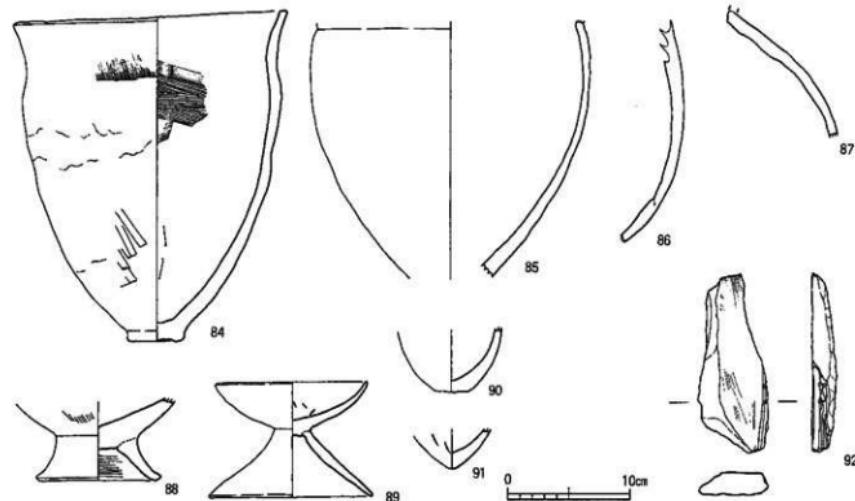
第12図 SA2実測図 (1/80)



第13図 SA2出土遺物実測図 (1/4)

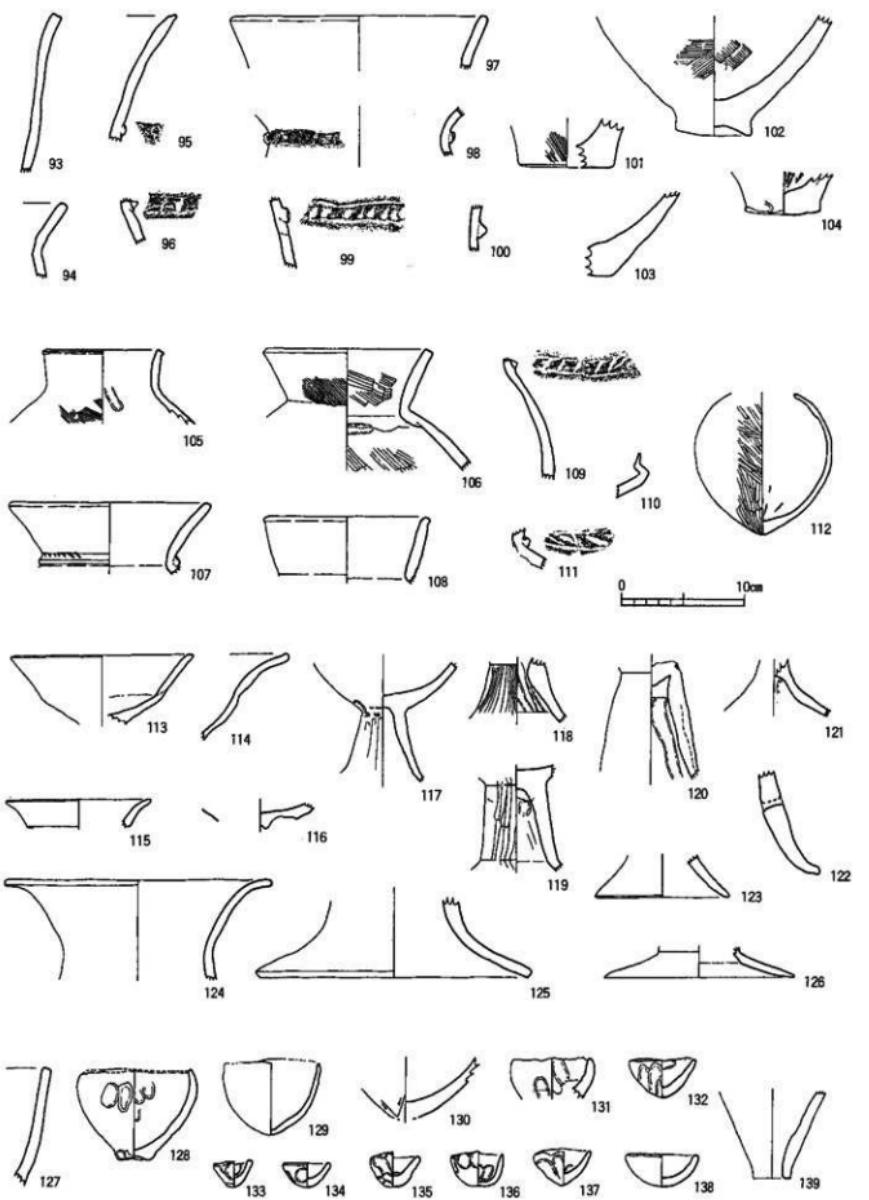


第14図 SA7実測図 (1/80)

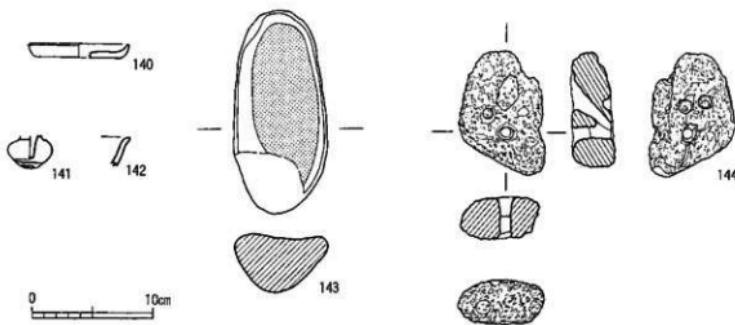


第15図 SA7出土遺物実測図 (1/4)

部は緩やかに外反する。65は、壺の口縁部から胴部で突帯をもつもので、64に比べ大きく口縁部が外反している。66は、壺の胴部で直線的に延びている。67も壺の胴部で丸みを帯びている。68は、壺の平底の底部で外反気味に立ち上がるるものである。69は、複合口縁壺の口縁部で口縁反転部に明瞭な稜を有しないものである。70は、壺の底部で丸底である。71は、小型壺の口縁部で「く」の字に大きく外反する。72は、小型丸底壺の口縁から胴部で71と同様に「く」の字に大きく外反するものである。73は、小型丸底壺の頸部から胴部で胴部から底部にかけて丸い張りをもっている。74は、小型丸底壺の胴部から底部にかけてのもので胴部に丸い張りをもっている。75～77は、高坏の坏部で坏部に一段有しながら脚部に至るものと思われる。78～80までは、高坏の脚部で内外面ともにナデや工具ナデの器面調整がみられる。81は、鉢で口縁部がわずかに内湾し口唇部が先細となるものである。82は、ミニチュアの鉢の完形品で指ナデやナデが施してあり、平捏ねのものである。



第16図 B区出土遺物実測図(1) (1/4)



第17図 B区出土遺物実測図(2) (1/4)

S A 7 (第14図)

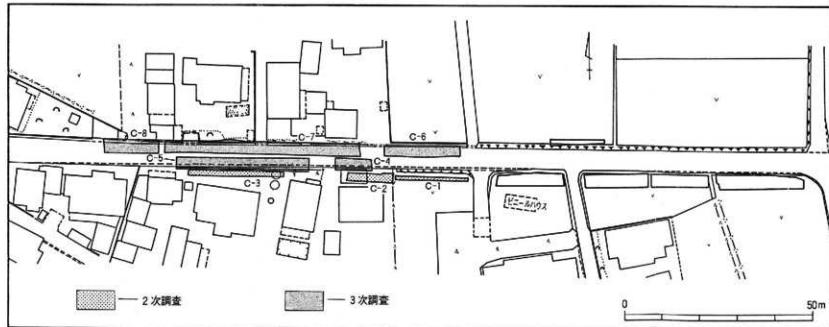
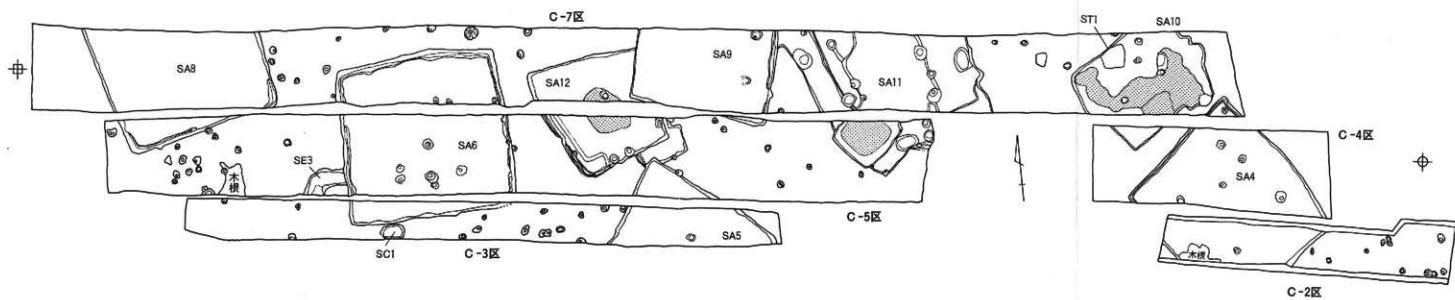
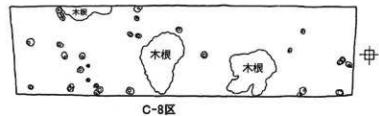
S A 7は、直径が1.45mの方形プランと考えられる。主柱穴は2本柱と考えられ住居跡内土坑は検出していない。

S A 7出土遺物 (第15図)

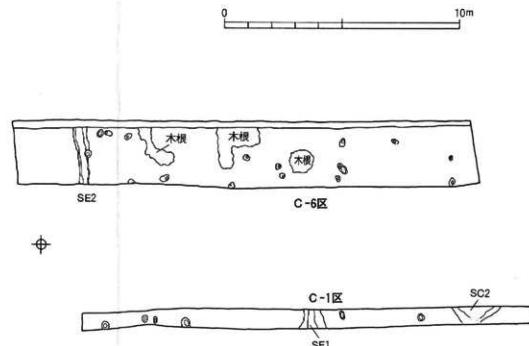
83・84は、壺の完形品である。83は、口縁部が緩やかに外反している。84は、83に比べ口縁部の外反が少ない。85と86は、壺の頸部から胴部で胴部から頸部にかけて緩やかに内湾している。87は、壺の頸部から胴部で大きな張りをもつものである。88は、台付鉢の底部で上げ底で底部から胴部にかけて「く」の字状に外反している。89は高坏の完形品で坏部は碗状で、脚部は「ハ」の字状に開く。90と91は、小型鉢で、90は平底で91は尖底である。92は、砥石で頁岩製である。

遺構外出土の遺物 (第17図)

93は、壺の口縁部から胴部にかけてのもので、口唇部がわずかに外反するものである。94は、壺の口縁で「く」の字状に外反するものである。95~99は、壺の口縁や頸部・胴部で貼付刻目突帯を有しているものである。101~104は、壺の底部で101は平底で底部から胴部に直線的にのびるもので、103と104も平底のタイプである。102は、上げ底で胴部が丸くなるものである。105~108と110は、壺の口縁部で105・108は、直線的に立ち上がり、106と107は外反するものである。109と111は、壺の胴部で外面に張付刻目突帯を有しているものである。112は、壺の頸部から底部が尖底で、胴部に丸みをもつタイプである。113と114は、高坏の坏部で114は、大きく外反するタイプである。115は、高坏坏部で口縁部が外反し、116は、高坏の坏部の底の部分である。117は、高坏の坏部から脚部で内外面の調整はナデやミガキや指頭痕がみられる。118~120は、高坏の脚部で内外面の調整は継ミガキや工具痕等がみられる。121は、小型高坏の脚部でラッパ状を呈している。122~124は、器台の脚部や裾部や器受部で、122は穿孔がみられる。125と126は、器台の脚部や高坏の裾部で扁平なラッパ状となっている。127は、鉢の口縁部から胴部でナデや横ナデ・工具ナデ等がみられる。128は、小型鉢の完形品で底部は上げ底気味である。内外面の器面調整は指頭ナデや斜めのタタキ等の調整が施されている。129は、小型鉢で底部が尖底気味である。130は、小型鉢の胴部から底部で尖底気味である。131~138は、ミニチュア鉢の完形品であり、平底や丸底等がある。139は、穿孔土器でナデや調整などを施している。140は、土師皿の口縁部から底部で、内外面は横ナデや指頭ナデがみられ、ヘラきりもみられる。141は壺形の土製品で内外面にナデ調整を施している。142は、青磁器の碗の口縁部で端反り碗で時期は14C~15Cで龍泉窯産である。143は、砥石で材質は砂岩で研磨痕がみられる。144は、軽石製品で穿孔が3つある。



第18図 C区位置図 (1/1,000)



第19図 C区構造分布図 (1/160)

3 C区の調査

C区、平坦面のほぼ中央、民家の密集する地域に位置する。第2次調査ではC-1区からC-3区において、竪穴住居跡3軒、土坑2基、溝状遺構1条、ピット群等が検出された。

その結果を受けて、第3次調査では工事と平行して片側車線ごとに調査をおこなった。当初、重機により舗装面からI層まで除去作業をおこない、II層より調査をおこなったが、黒色土層中の遺構検出が困難であること、工事と平行しているため、時間の制約上、立ち会いのもとV層直上まで重機により除去し、遺構確認をおこなった。その結果、新たに竪穴住居跡5軒、溝状遺構2条、地下式横穴墓1基、ピット群等が検出された。

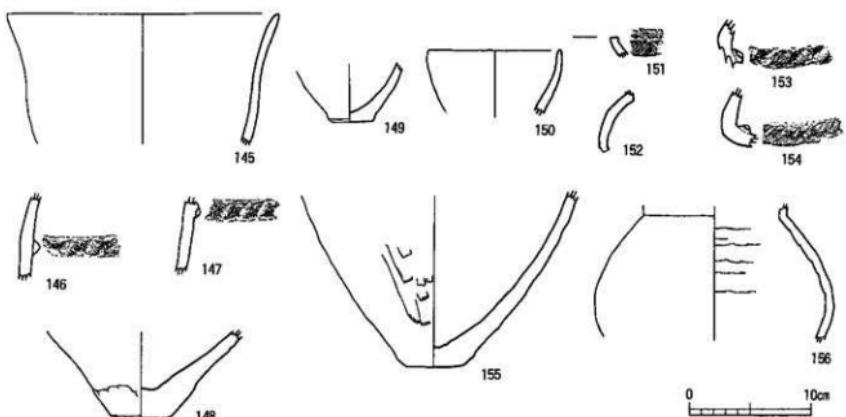
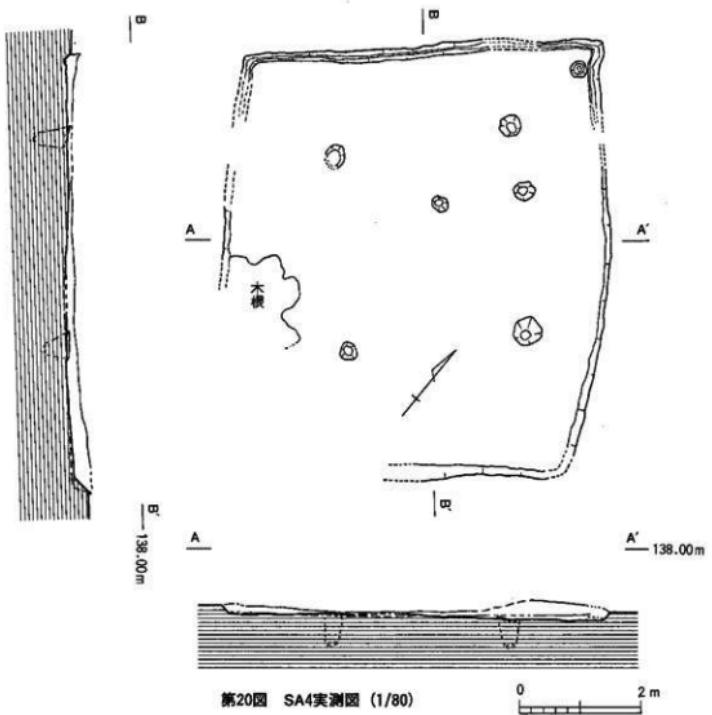
調査の結果、合計で弥生終末から古墳前半にかけての竪穴住居跡が8軒、土坑2基、溝状遺構3条、地下式横穴墓1基、ピット群が検出された。そのうち、竪穴住居跡(SA5・9・11・12)は4軒が切り合う形で確認されている。また、竪穴住居跡のほとんどが方形プランであるが、そのうち2軒は花弁状住居と思われる。(第19図)

S A 4 (第20図)

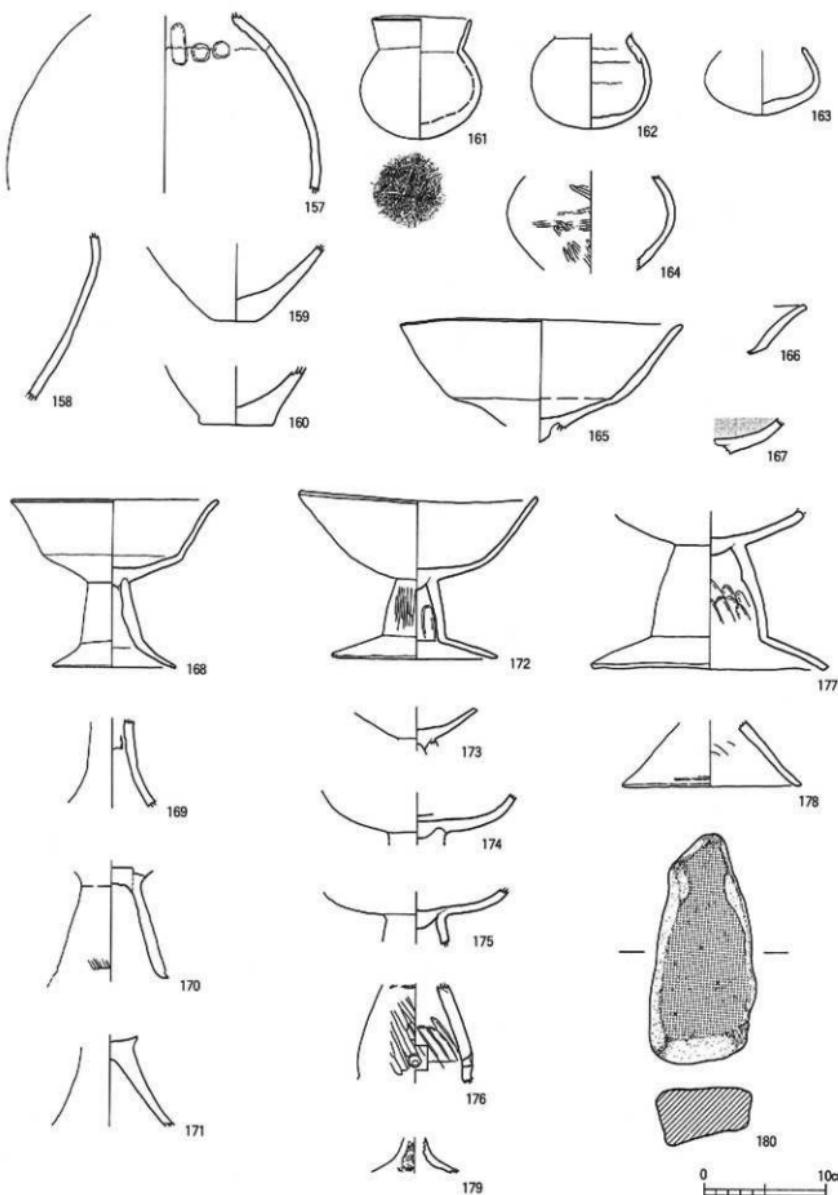
C-2区の西端・C-4区・C-7区の東端で検出されている。住居跡の一部は調査区外のため未発掘であるが、7.1m×6.3m規模の長方形プランを呈するものと思われる。検出面からの深さは、0.5mである。住居跡内部の北西壁際には幅13cm、深さ12cmの壁帶溝と思われる溝が巡らされている。なお、主柱穴と思われる柱穴を4本確認されており、柱間距離は南北3.24m、東西2.96mである。柱穴と竪穴部の主軸がずれる。なお、焼土等は見られなかった。

遺物は住居跡の中央から南側付近でまとまって見られ、甕(145~149)・壺(150~164)・高坏(165~178)・砥石(180)等が出土しており、そのうち148・149・162・168・172等は床面直下で出土し、その他は浮いた状態で出土している。(第22・23図)

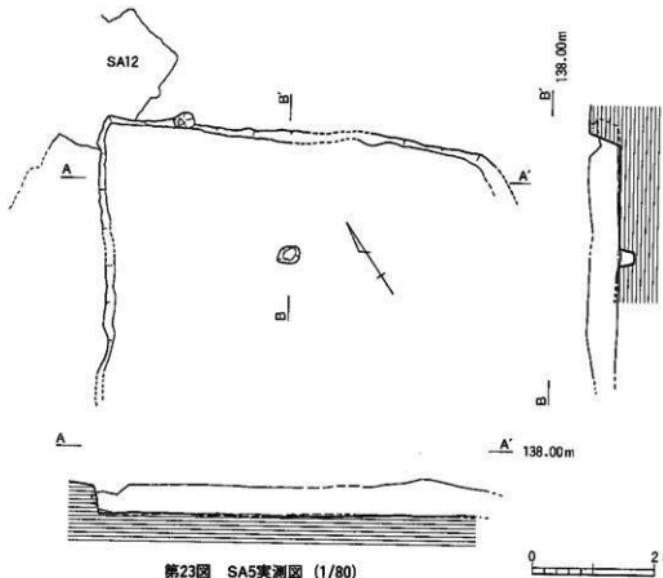
145は口縁部が開き、頸部のくびれがなく胴部があまり張らない。151は複合口縁壺で櫛描波状文が施されている。153・154は頸部に貼付突帯をもち、刻目には布目痕が認められる、155は甕の底部の可能性もあるが、平底で外面には工具によるナデ調整が認められる。156は球形の胴部で、口縁部が上方へ立ち上がる。161~164は小形丸底壺で、161は口縁部は短く「く」の字状に外反し、球状の胴部を持つ。底部にはヘラ記号が施されている。163は扁球形で胴部最大径を下位にもつ。164は外面にミガキのちナデ調整が施されている。165は屈曲部に稜をもち、内湾ぎみに開き、口縁部がわずかに外反する。167は受部の内面に丹塗りが施されている。168は屈曲部に稜をもち、口縁部は外反しながら開く坏部をもつ。脚部は直線的な脚柱をもち、屈曲して裾部が短く聞く。170も168と同様の脚部をもつ。169は内湾ぎみに聞く脚部である。172の屈曲部に明瞭な稜をもたず、内湾ぎみに聞く坏部をもつ。脚部はやや湾曲する脚柱をもち、屈曲して裾部が内湾ぎみに聞く。なお、脚部の外面は縱方向のミガキ調整がみられ、内面には指押さえ痕がみられる。174・175は半な受部をもち、湾曲ぎみに立ち上がる。176はエンタシス状の脚柱部で円形の透かしが施されている。外面にはミガキ調整がみられる。177は大型の高坏で、脚部は湾曲する脚柱をもち、屈曲して裾部が内湾ぎみに広がりながら聞く。ナデ調整が施されており、内面には指頭圧がみられる。178は「ハ」の字状で直線的にひらく脚部である。180は砂岩製で両面とも研磨痕がみられる。



第21図 SA4出土遺物実測図(1) (1/4)



第22図 SA4出土遺物実測図(2) (1/4)



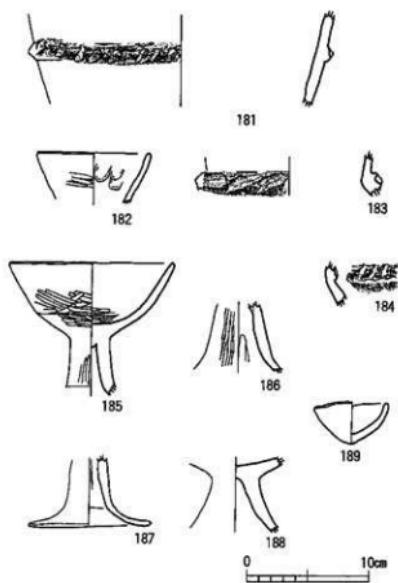
第23図 SA5実測図 (1/80)

S A 5 (第23図)

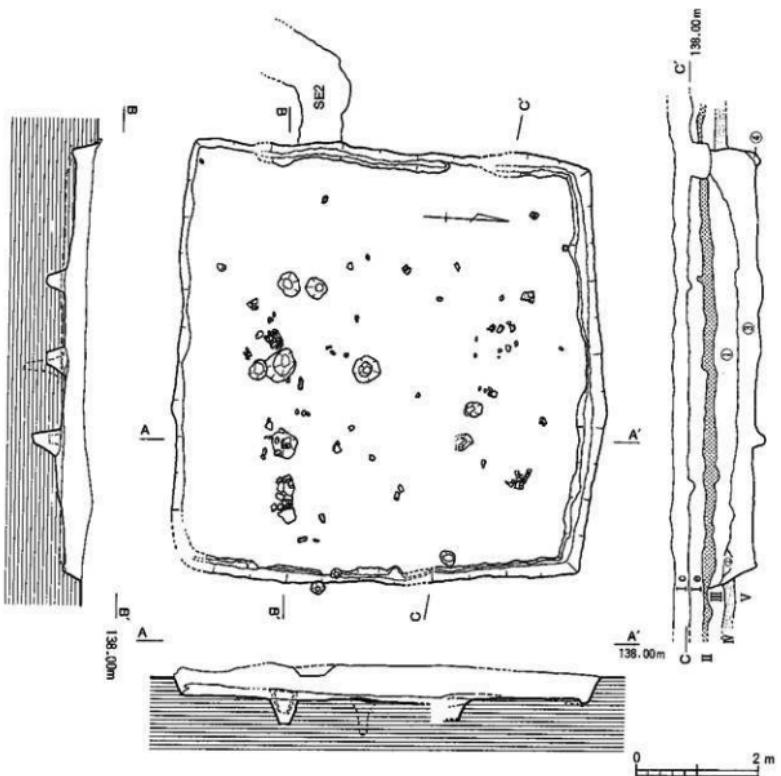
C-3区の東端およびC-5区の中央部分にかけて検出された。住居跡の一部(約1/2)は調査区外のため未発掘であるが、6.4m規模の方形を呈するものと思われる。柱穴は1本確認されており、2本柱と推定される。壁帶溝や焼土等は見られなかった。なお、住居跡のコーナー部分はSA12と切り合っている。土層の断面観察によりSA12-SA5の切り合いが認められた。

遺物量は少なく、甕(181)・壺(182・183)・高坏(185-188) 手捏ね土器(189)等が出土している。(第24図)

185は屈曲部に明瞭な稜をもたず、口縁部が内湾ぎみに開く坏部をもつ。脚柱は直線的である。外面および坏部内面にはミガキの後、ナデ調整がみられる。186は直線的な脚柱に裾部が外反しながら開く。裾部内面には稜をもつ。



第24図 SA5出土遺物実測図 (1/4)



SA6埋土 ①黒褐色土(ボラ粒多く含む、軟質)
②黒褐色土(ボラ粒含む)
③暗褐色土(ボラ粒、炭化物粒を多く含む、ややしまりがある)
④暗褐色土(ボラ粒、炭化物粒をより多く含む、しまりがある)

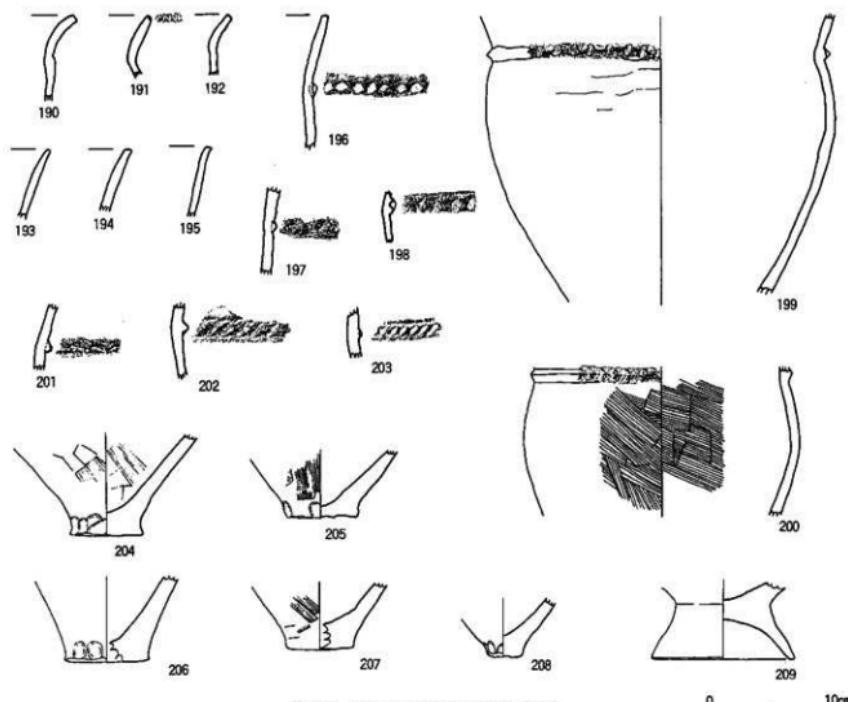
第25図 SA6実測図 (1/80)

S A 6 (第25図)

C—3・5区の中央および7区の西側部分にかけて検出された。住居跡の規模は $7.1\text{m} \times 7.06\text{m}$ の方形プランを呈する。床面積は 42.16m^2 である。検出面からの深さは58cmを測る。遺構は時間的制約上、V層で検出したが土層断面よりIII層から掘り込みが確認でき、深さは1.1mになると思われる。住居跡内部の壁際には幅16cm深さ8cmの壁帶溝と思われる溝が巡らされているが、南に進むにつれて壁帶溝が浅くなり、南壁では検出できなかった。住居跡西側ではS E 2を切っている。

主柱穴は調査区の設定上、すべてを確認することができなかつたが、他の柱穴より5本柱であると推定される。柱間距離は南北で2.84m、東西で2.6mである。なお、焼土等は見られなかつた。

埋土は大きく2層に分かれ、下層は炭化物を多く含む。遺物は壺(190~209)・壺(210~223)・高坏(224~236)・鉢(237~239)・ミニチュア土器(240~243)・勾玉(244)・砥石(245)・磨石(246)等が出土していており、下層から上層にかけてまんべんなく見られたが、そのほとんどが



第26図 SA6出土遺物実測図(1) (1/4)

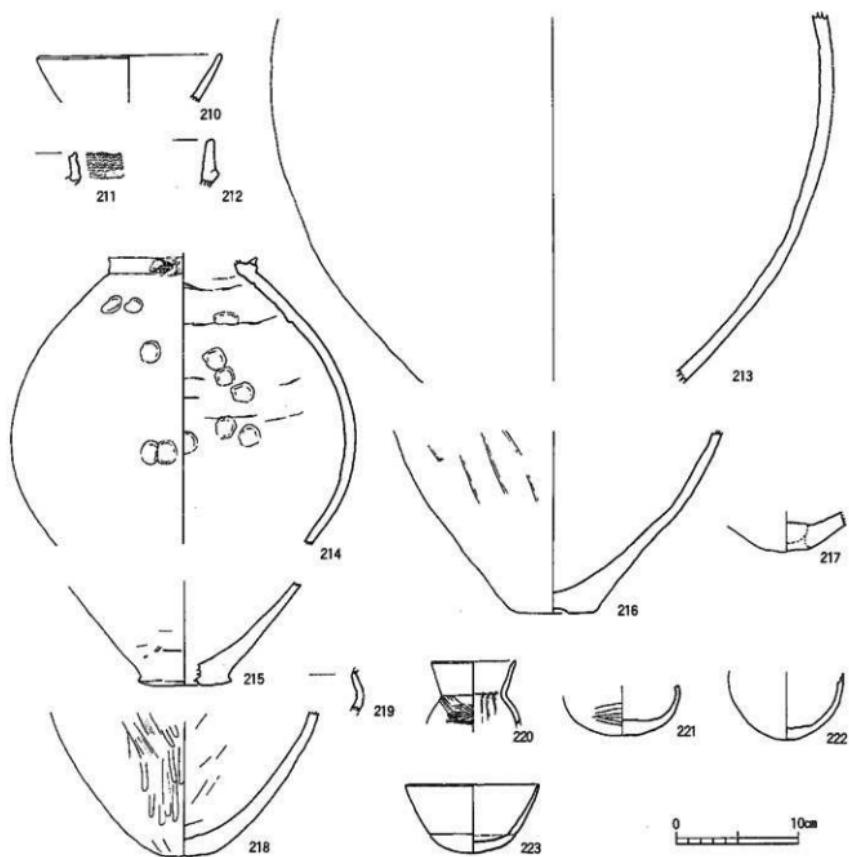
0 10cm

床面よりも浮いた状態で出土している。(第26図~第28図)

甕には口縁部が「く」の字に外反するものと緩やかに外反するものがあり、191は口唇部に刻みがみられる。197は頸部のくびれがなく、刻目の貼付突帯をもつ。刻目には布目痕が認められる。199は頸部に刻目の貼付突帯をもち、口縁部が「く」の字に外反する。胴部は上半部が大きく膨らむ。刻目には布目痕が認められる。200は頸部は断面三角形の貼付突帯をもち、胴部は中位で大きく膨らむ。外面および内面においてハケ目調整が認められる。204~208は平底で、204・205は外反し、指頭圧がみられる。209は台付きの甕であるが鉢の可能性もある。

211・212は複合口縁壺である。211は口縁部がやや内傾し、横描波状文が施されている。212は口縁部が直行する。214は扁球形の胴部に、口縁部が緩やかに外反すると思われる。頸部には刻目の貼付突帯が施されている。内面には粘土の繋ぎ目がみられる。215・216は平底である。216は中央へこみ、上げ底状である。217・218は丸底である。218の外面にはハケ目およびミガキ調整がみられる。219~223は小型丸底壺である。220は球形の胴部から直線状に伸び、口縁部が大きく開く。221は扁球形の胴部で底部は平底に近い丸底である。223は口縁部が内湾ぎみに大きく開き、頸部はわずかにへこむ。底部は丸底である。器形的には鉢型土器にはいるが、小型丸底壺の影響を受けていると思われる。

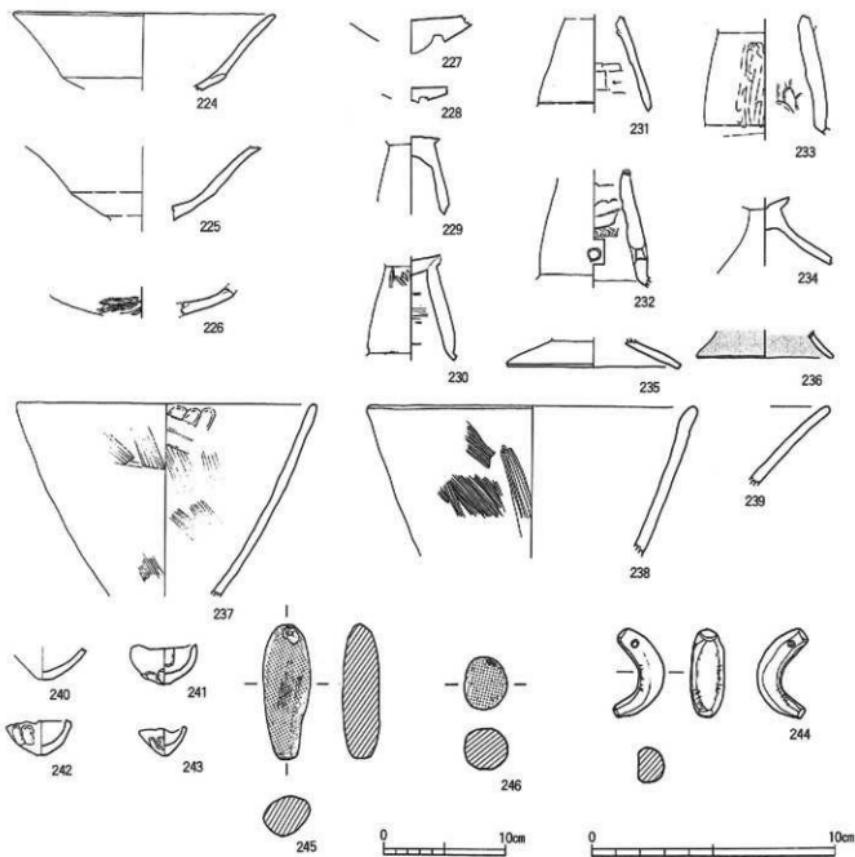
224は屈曲部に稜をもち、口縁部が外反し、大きく開く。屈曲部には接合痕が認められる。226は平



第27図 SA6出土遺物実測図(2) (1/4)

な受部をもち、湾曲ぎみに立ち上がる。外面にはミガキ調整がみられる。231は内湾ぎみに開く脚柱部で内面にはヘラケズリ調整がみられる。227は円形の充填である。230・232・233はエンタシス状の脚柱部で、232には円形の透かしが施されている。233の外面にはミガキ調整がみられる。234は脚部が「ハ」の字に大きく開く。236は裾部で外湾ぎみに聞く。外面および内面には赤色顔料（丹塗り？）が認められる。

237は内湾しながら口縁部が大きく開く。外面および内面にはハケ目調整がみられる。238は直線的に開きながら、口縁部でわずかに外反する。241～243は鉢型の手捏ね土器で、243は尖底である。244は土製勾玉で頭部と尾部の大きさに差はない、孔は両面より穿孔している。245・246は砂岩製で、245の表面には擦痕が認められる。246は表面上部に打撃痕が認められる。

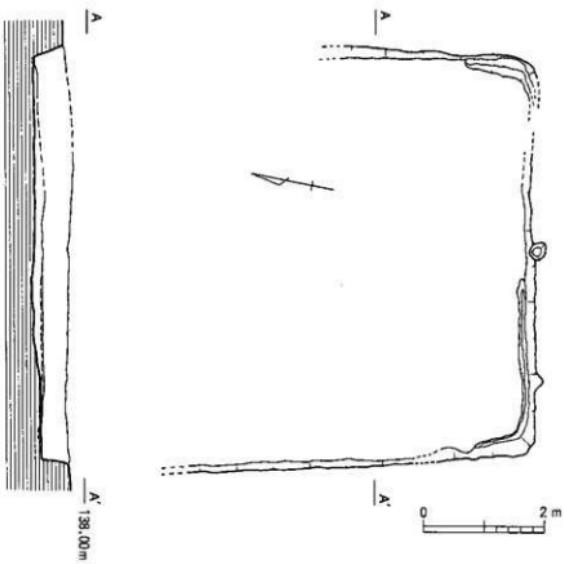


第28図 SA6出土遺物実測図(3) (1/4、244のみ1/2)

S A 8 (第29図)

C-5区および7区の西側部分にかけて検出された。住居跡の一部(約1/3)は調査区外のため未発掘であるが、住居跡の規模は6.9mの方形を呈するものと思われる。検出面からの深さは50cmを測る。住居跡内部の南壁の壁際には幅10cm深さ11cmの壁帶溝と思われる溝を確認されたが、中央部分は切れでし字状になっている。主柱穴は確認することができず、不明である。床面は、ほぼ平坦である。

埋土は大きく2層に分かれ、遺物は床面よりやや浮いた状態で甕(247-253)、壺(254-258)、高坏(259-261)、ミニチュア土器(265)等が出土している。(第30図)



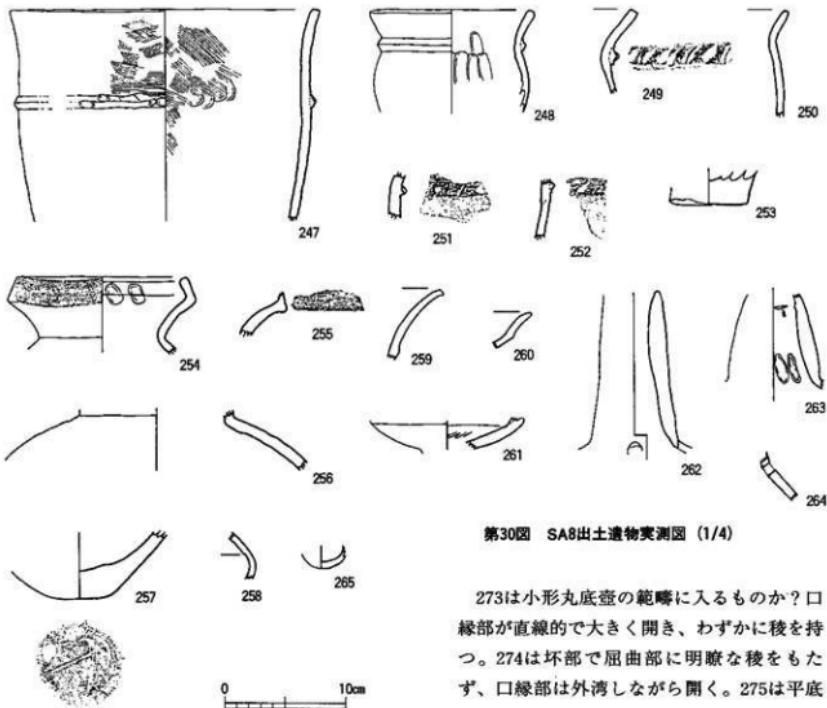
第29図 SA8実測図 (1/80)

247は厚手で頭部のくびれが不明瞭であり、胸部があまり張らない。248は小形の壺で、口縁部が緩やかに外反し、頭部のくびれが明瞭で胸部が張る。247・248の両方とも頭部に断面三角形の貼目突帯を施されている。249・251・252の頭部には斜め方向の刻目突帯が施されている。254・255は複合口縁壺で、口縁部に横描波状文が施されている。257は丸底に近い平底にヘラ記号が施されている。258は小形丸底壺である。259は口縁部が大きく外反し、受部との境に稜を持つ。262は脚部がまっすぐに伸び、裾部が大きく広がる。脚部と裾部の境には円形の透かしが見られる。

S A 9 (第31図)

C-5区東部分およびC-7区の中央部分にかけてSA11、SA12を切った状態で検出された。住居跡の北側(約1/3)は調査区外のため未発掘であるが、住居跡は6m規模の方形を呈するものと思われる。検出面からの深さは38cmを測る。また、住居跡内部の東壁の壁際には幅20cm、深さ27cmの壁帶溝が確認されているが、他の壁には見られなかった。その壁帶溝の北側付近においてベンガラ粒がまとまって確認されている。

柱穴は2本検出したが、どちらも深さは10cm程度のもので主柱穴になりうるか疑問が残る。遺物は少なく、壺(266-271)、壺(272-273)、高壺(274)、鉢(275-276)、砥石(277)等が床面よりやや浮いた状態で出土している。(第32図)



第30図 SA8出土遺物実測図 (1/4)

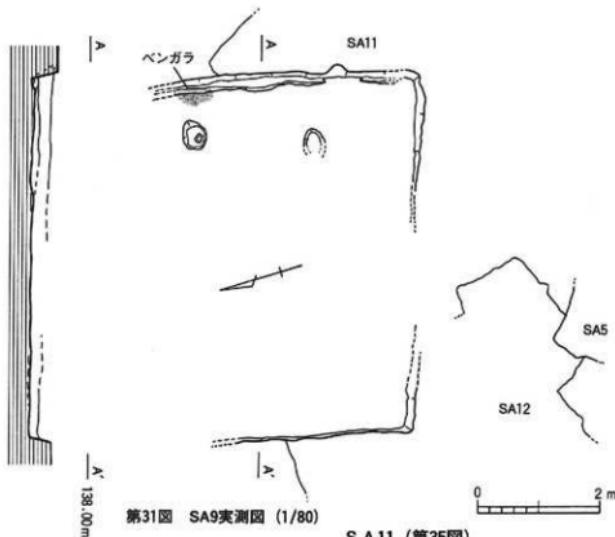
273は小形丸底壺の範疇に入るものの、口縁部が直線的で大きく開き、わずかに稜を持つ。274は壊部で屈曲部に明瞭な稜をもたず、口縁部は外湾しながら開く。275は平底で湾曲ぎみに立ち上がる。277は砂岩製で3面とも研磨痕が認められる。

S A 10 (第33図)

C-4区の西端およびC-7区の東端部分にかけて検出された。住居跡の一部は調査区外のため未発掘であるが、住居跡は4m規模の方形を呈するものと思われる。また、東および西部分には張り出しを持つ。深さは検出面より20cmを測る程度であり、そのため遺物量は少ない。主柱穴は2本であり、東側の柱穴のそばには長幅0.75m・短幅0.43m深さ0.26mの土坑を持つ。住居跡の中央部から南側にかけて御池ボラを多く含む黒色土による貼床が約15cmの厚さで貼られている。焼土等は検出できなかった。なお住居跡北側はST1に切られている。

遺物量は少なく、床面より浮いた状態で、壺(278-281)、高壙(282-283)、砥石(284)等が出土している。(第34図)

278・279は胴部は張らず、頸部のくびれが不明瞭で口縁部がわずかに外反する。断面三角形の貼付突帯が施されている。208は台付の壺の底部である。282は脚柱部で直線的に伸びる。外面にはミガキ調整、内面には粗いナデ調整が施されている。283は「ハ」の字状に開く壠部である。284は砂岩製で両面に研磨痕が認められる。片側端部には敲打痕がみられることから敲石としても使用されていたものと思われる。



第31図 SA9実測図 (1/80)

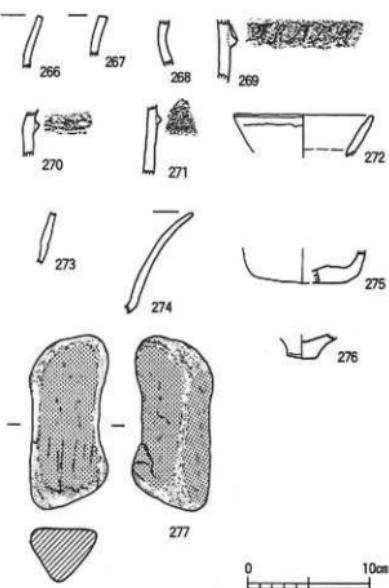
S A 11 (第35図)

C-5区の東端およびC-7区の東部分にかけて検出されている。住居跡の北側は調査区外のため未発掘である。また、南東側の一部は民家の出入口にかかり、確認できなかつた。住居跡は長方形プランを基調とし、張り出し部を有することから花弁状住居跡と推定されるが、建替えの可能性も有り得る。

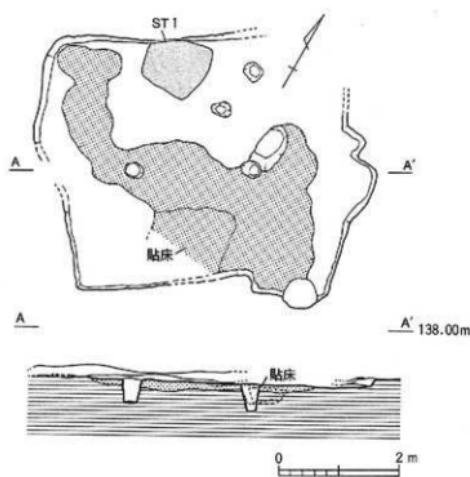
床面中央は一段低く、逆「L」字状を呈する。その南西部分の張り出し部には御池ボラを多量に含んだ黒褐色土による貼床がみられ、約6cmの厚さに貼られている。深さは検出面より32cmを測る。

周囲にはベット状遺構が付設されており、南東部分はもう一段高くなっている。床面よりの比高差12cmで、もう一段との比高差は6cmである。

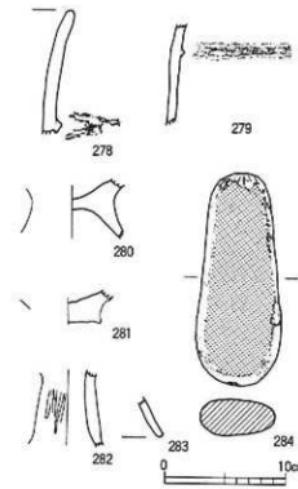
南側および東・西側には、楕円形を呈する土坑が設けられている。柱穴は10本検出されたが未発掘部分も含め、主柱穴は4本柱になるものと推定される。柱間距離は東西3.5m、南北1.9mである。なお西側には幅12cm、深さ8cmの溝が南北に延びる。



第32図 SA9出土遺物実測図 (1/4)



第33図 SA10実測図 (1/80)



第34図 SA10出土遺物実測図 (1/4)

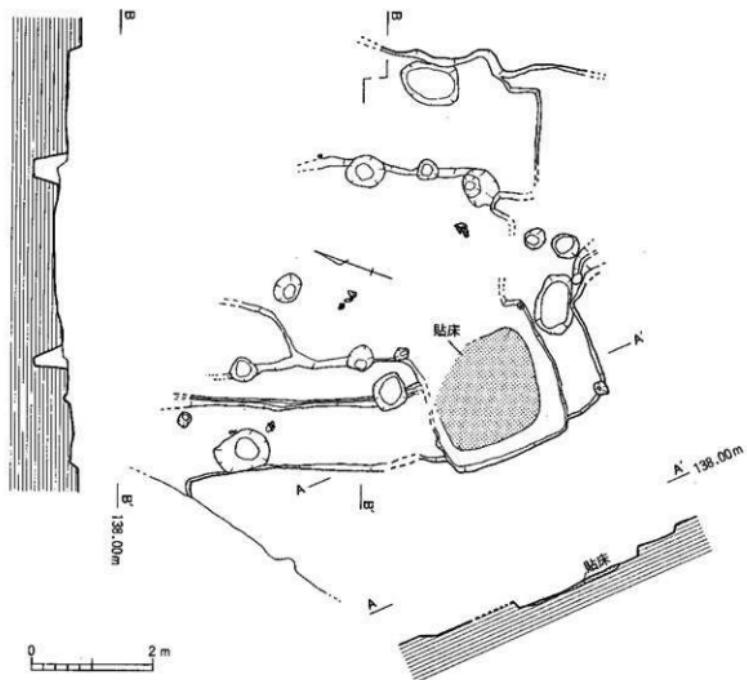
遺物は壺（285～292）・壺（293～296）・高壺（297～301）・鉢（302）・軽石製品（304）等が出土している。そのうち286・287・303は床面直上にて出土している。（第36図）

285は頸部のくびれが明確で口縁部が「く」の字に外反する。胴部は上半部で張る。286は頸部のくびれが明確で口縁部が「く」の字に外反する。胴部はあまり張らない。285・286とも外面にはスヌが付着する。287は小形の壺で頸部がくびれ口縁部が「く」の字に外反する。胴部は中位が張り、底部は上げ底である。外面にはヘラ状工具によるナデ調整が認められる。294は胴部であろうか。外面には線刻が施されている。276は偏球形の胴部で底部は丸底もしくは乳房状になるものと思われる。298・299は脚柱部で直線的に伸びる。外面にはヘラ状工具によるナデ調整もしくはミガキ調整が認められ、内面にはナデ調整が認められる。300・301は裾部で直線的に短く開くものと内湾ぎみに開くものとがある。302・303は小形の鉢で、底部は尖底ぎみの平底である。305は鋳型か？擾乱部分より出土しており、住居に伴うか不明である。外面にはスヌが付着している。

S A 12 (第37図)

C-5区およびC-7区中央部分にかけて検出された。住居跡の東側はS A 9に、南側においてはS A 5に切られている。4.66m×4.4mの方形プランを基調とし、南東側に2.2m×0.82mの長方形を呈する張り出し部を持つ花弁状住居跡である。床面積は推定で約18.5m²になるであろう。主空間の検出面からの深さは、40cmを測り、張り出し部は主空間より13cm高く造られている。

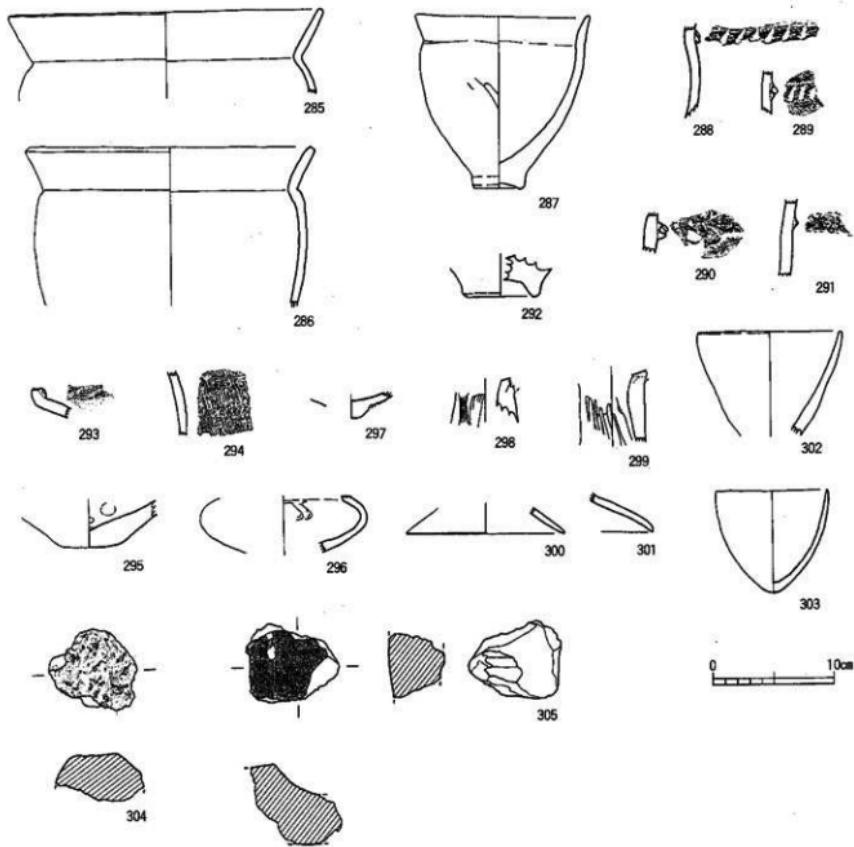
住居跡の西壁中央は若干くぼみ（突出部か？）、その左右には壁帶溝が巡る。西壁から南壁の一部にかけてベット状遺構「L」字状に付設されている。ベット状遺構は幅約20cm～50cm、床面との比高差は約15cmである。主柱穴は2本柱であり、柱間距離は2.5mである。中央には御池ボラを多量に含んだ黒色土による貼床が約15cmの深さで貼られている。



第35図 SA11実測図 (1/80)

遺物量は少なく、壺（306～308）・壺（309）・高坏（310～311）・鉢（312・313）が出土している。（第38図）

306は住居跡中央付近の床面直上にて横倒し、つぶれた状態で出土している。口縁部が緩やかに外反し、頸部がくびれ胴が張る。底部は上げ底状である。外面にはスヌが付着する。307・308は口縁部が緩やかに外反し、頸部がくびれが明瞭でなく、胴が張らない。308には刻目の貼付突帯が施されている。309は底部に粘土を張り付け、丸底状を呈する。310は坏部で屈曲部に稜をもち、口縁部は外反して開く。311はエンタシス状の脚柱部である。外面にはミガキ調整が認められる。小形の鉢の底部には尖底ぎみの平底（312）と平底（313）とがみられ、313には口縁部内面に段をもつ。

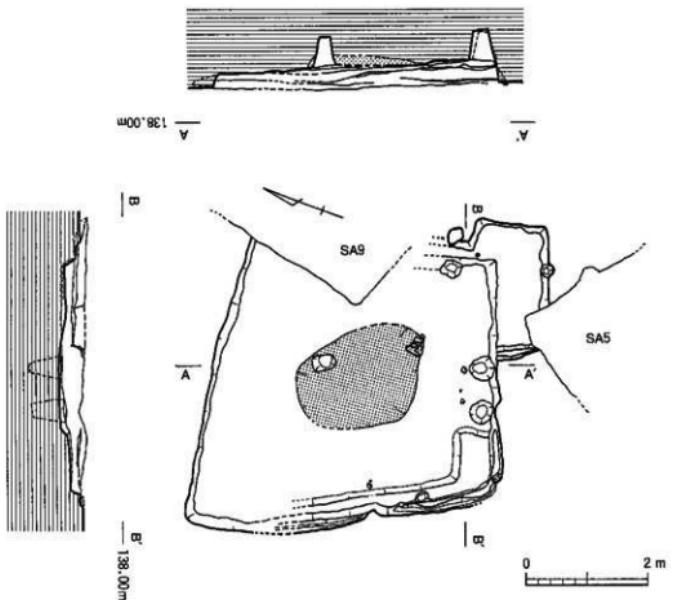


第36図 SA11出土遺物実測図 (1/4)

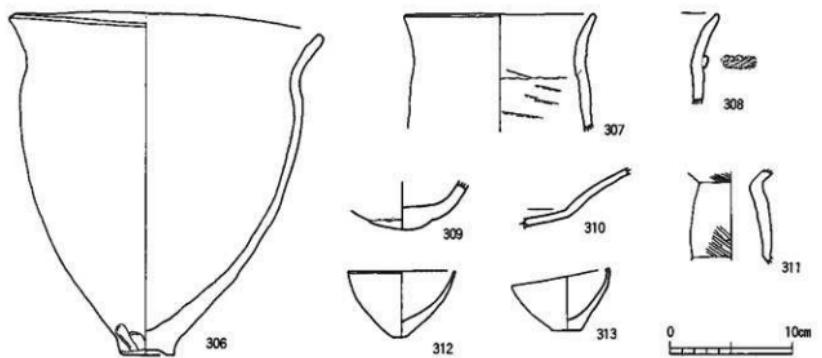
地下式横穴墓（第39図）

S T 1 は S A 10 を検出作業中、住居跡北側の中央付近を切る形で検出された。

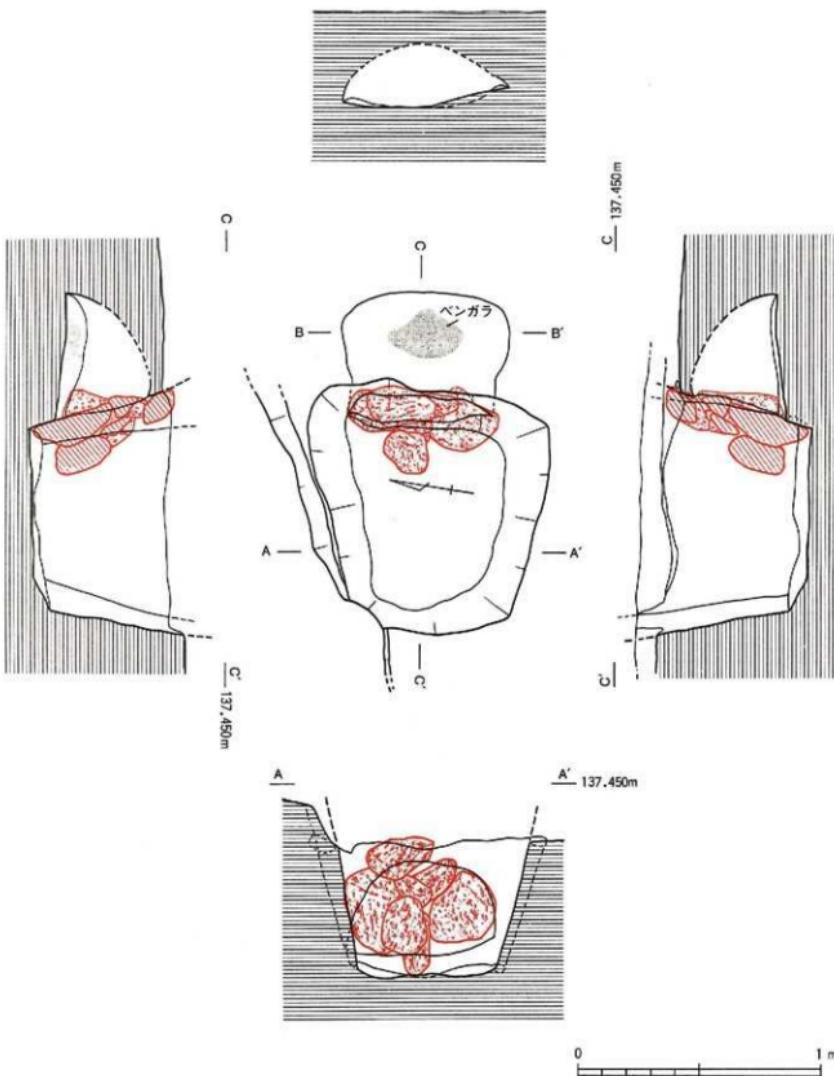
堅坑は長軸0.98m 短軸0.88m の隅丸長方形を呈し、検出面からの深さは54cmを測る。羨門部は堅坑底面より一段高く、人頭大の輕石による閉塞がなされている。羨道部分は不明瞭である。玄室は長軸0.68m、短軸0.4mの楕円形を呈する平入り構造で、天井形態はドーム形を呈し、高さは37cmを測る。底面中央付近にはベンガラ粒が散布されている。その規模より小児用と思われる。遺物は堅坑内で土器片が床面よりかなり浮いた状態で数点程出土している。（第40図）



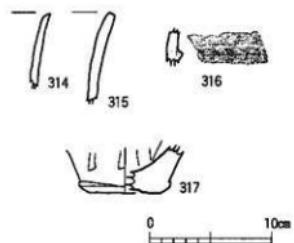
第37図 SA12実測図 (1/80)



第38図 SA12出土遺物実測図 (1/4)



第39図 ST1実測図 (1/20)



第40図 ST1出土遺物実測図

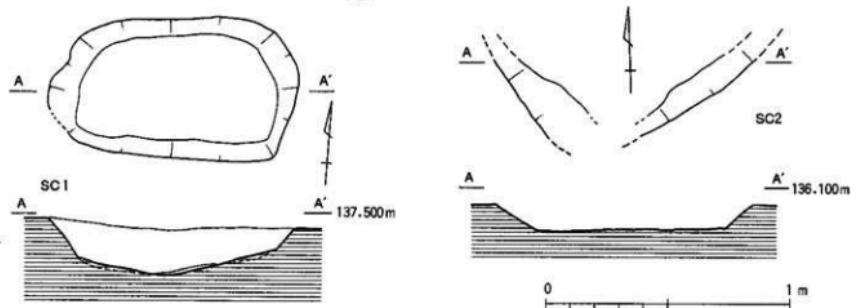
土坑（第41図）

土坑は2基確認されており、C-3区(SC1)およびC-1区(SC2)においてそれぞれ検出されている。

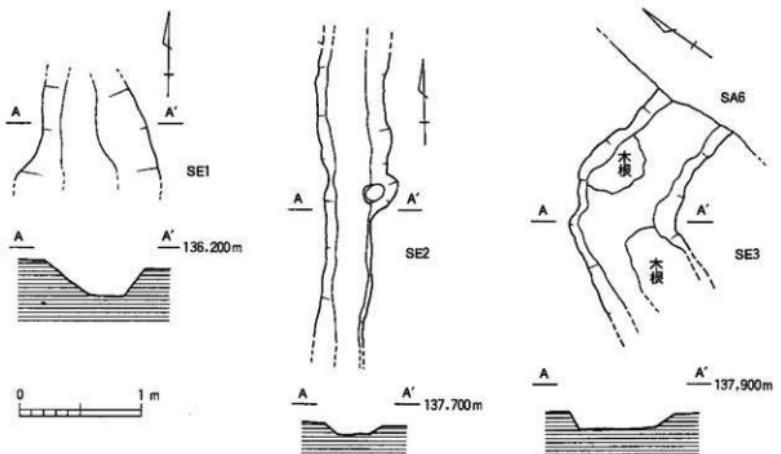
SC1はSA6の南側に隣接するように検出されている。長軸1.03m×短軸0.57mの梢円形を呈し、検出面からの深さは28cmを測る。

SC2は調整区の設定上、一部分の検出で全容は不明である。梢円形もしくは長方形を呈するものと思われる。検出面からの深さは12cmを測る。

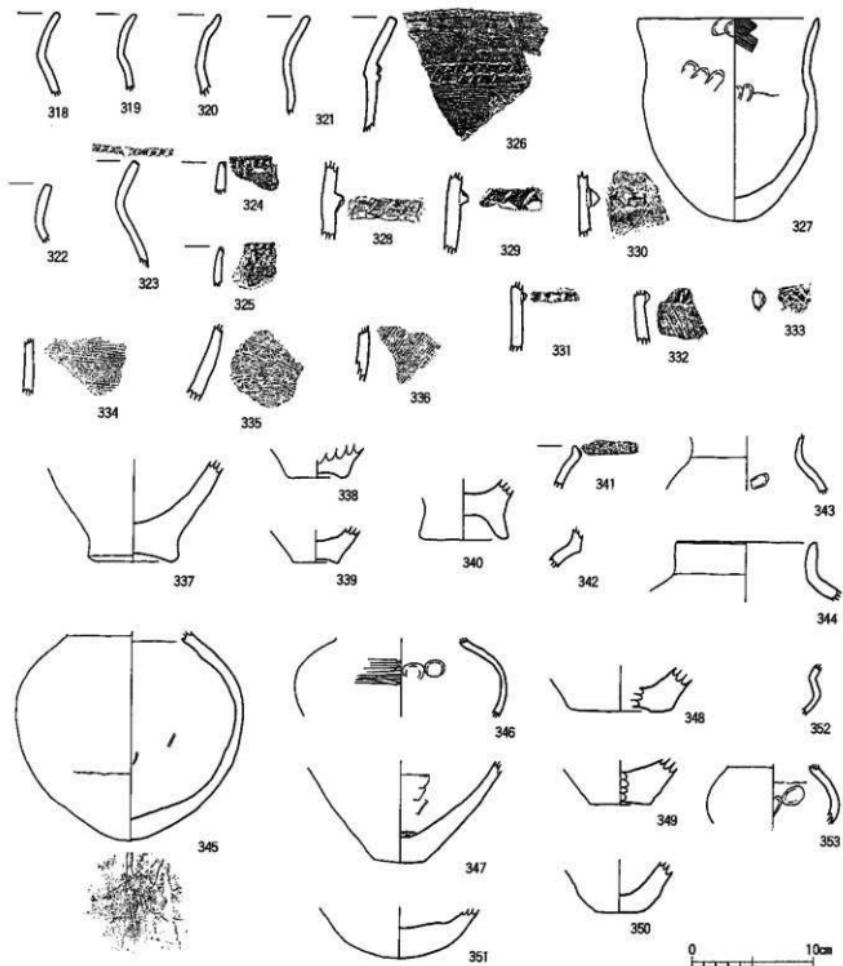
遺物等についてはSC1、SC2とも確認されていない。



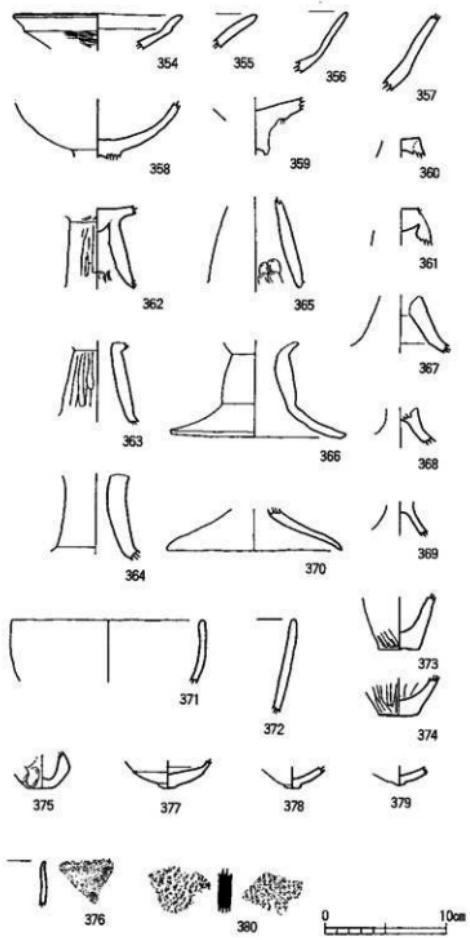
第41図 SC実測図 (1/20)



第42図 SE実測図 (1/40)



第43図 C区出土遺物実測図(1) (1/4)



第44図 C区出土遺物実測図(2)(1/4)

るもの（337・338・340）外反せずに上部底状になるもの（339）などがある。333・334は壺で口縁部が真直ぐに立ち上がる。345は扁球形の胴部で底部は丸底を呈し、底部にはヘラ記号がみられる。352・353は小形丸底壺である。胴部は扁球形で口縁部が大きく開くと思われる。

高壺には屈曲部に稜をもち、口縁部は短く外反するもの（354）、壺部が碗状であるもの（358）がみられ、脚部は直線的に伸びるもの（262・263）、外湾しながら伸びるもの（364）、内湾しながら伸びるもの（365・366）、「ハ」の字に開くもの（367～369）等がみられる。362・363には外面にミガキ調整がみられる。370は据部で内湾しながら開く。376～379は小形鉢で口縁部に櫛波波状文が施されているもの（376）や、底部に乳房状の突起が付くもの（377～379）がみられる。330は須恵器の壺であろうか。外面には格子目のタタキ、内面には同心円のタタキ調整がみられる。

溝状造構（第42図）

溝状造構は3条確認されており、C-1区（SE1）、C-6区（SE2）、C-5区（SE3）において検出されている。3条とも基本的には断面形が「U」字状を呈している。

SE1・SE2はともに南北方向に延び、検出面での幅はSE1は0.64m～1.18m、SE2では0.4m～0.56m、深さはそれぞれ28cm、10cmを測る。なおSE1は調査区の幅が狭いため土坑の可能性も有り得る。埋土はともに暗灰褐色土の單一層である。遺物等はSE2において土器小片が数点出土したのみである。

SE3は弧を描くように北から東へ延び、東側部分はSA6に切られている。C-3区に延びるものと思われたが、検出されていない。検出面での幅は0.68m～0.82mで深さは16cmを測る。遺物は土器小片が数点出土したのみである。

包含層出土遺物（第43・44図）

壺には口縁部が「く」の字に外反するもの（318・322・323）と緩やかに外反するもの（320・321）、頸部のくびれが不明瞭で胴部があまり張らないもの（327）、頸部のくびれがなく胴部が張らないもの（324・325、328～332）がみられる。323～325は口唇部に刻みが施されている。333は「X」字状の刻目突帯である。326・334～336には外面にタタキ調整がみられる。底部には外反し上げ底にな

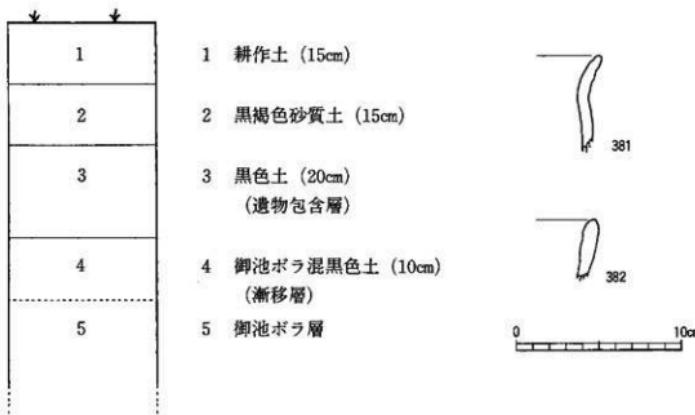
3. D・E・G区の調査

D区は、道路南側のみの調査である。A区から続く平坦面とE～G区の台地上面との境、台地裾部の谷地形となっている。調査時の現状は、盛土により畑地とされていた。2カ所にトレーナーを設定したが、盛土が2m以上にも及び、その下層に谷への流れ込みと思われる漆黒色土が厚く堆積していた。調査区幅が3mと狭小であり、2カ所のトレーナーからも何らの遺構・遺物が確認されなかつたため調査を終了した。

E区は台地上面に続く緩斜面である。道路北側は畑地造成の際に削平を受けており、本来2～3mの厚みで堆積している御池ボラ層の約3分の2が除去されていた。調査は御池ボラ層を除去し、縄文時代中期以前の遺構確認を行ったが、自然の風倒木痕以外は何らの遺構・遺物も見られなかつた。道路南側は道路開削時の法面になつておらず、法面頂部に3カ所のトレーナーを設定したが何らの遺構・遺物も見られなかつた。

G区は宮崎自動車道に接する約43mの範囲である。昭和52年度に宮崎自動車道建設に伴い調査された丸谷第1遺跡の範囲に含まれる。また、前年度に調査を行つたF区では弥生時代終末期の住居跡が確認されている。道路の南北両側に幅約2mの調査区を設定した。御池ボラ層及び上層の黒色土（縄文時代後期以降の遺物包含層）は良好に残存していた。包含層中から弥生時代後期の土器片が数点出土したもの遺構は確認されなかつた。

381は甕の口縁部である。口径が胴部最大径と同じかやや上回るものと思われる。382は鉢である。2点ともに弥生時代終末から古墳時代初頭に比定されよう。

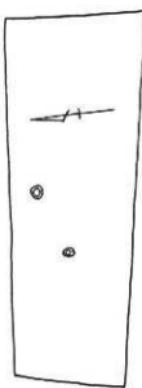


第45図 G区基本土層柱状模式図・出土土器実測図 (1/3)

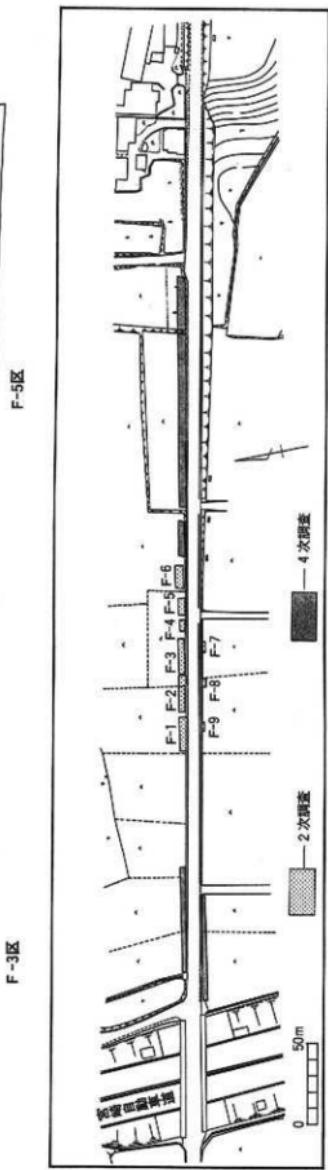
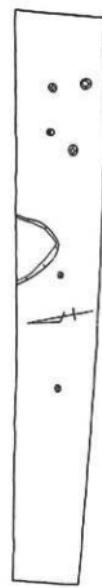


第46図 F区位置図およびJG遺構分布図

F-2区

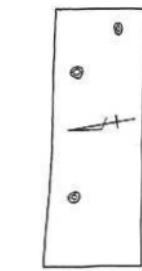
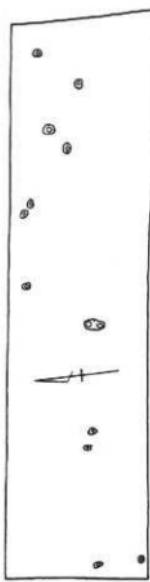


F-4区



F-5区

F-3区



4. F区の調査

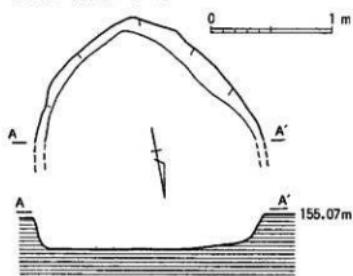
F区は、第2次調査としておこなった。まず南側の部分にトレンチを3本ほど入れたが遺構などは検出できなかった。北側の部分にトレンチを入れた結果、遺構としては竪穴住居跡が1軒検出できたほかは、柱穴群ぐらいであった。

S A 3

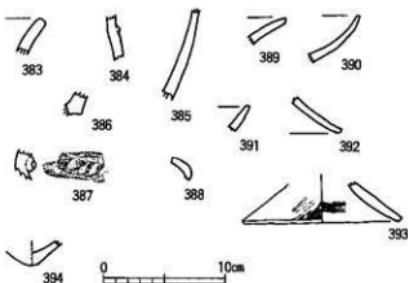
S A 3は、直径2.5mの不整形プランで検出面積が狭いために主柱穴が何本柱か、住居跡内土坑があるかは不明である。

S A 3出土の土器

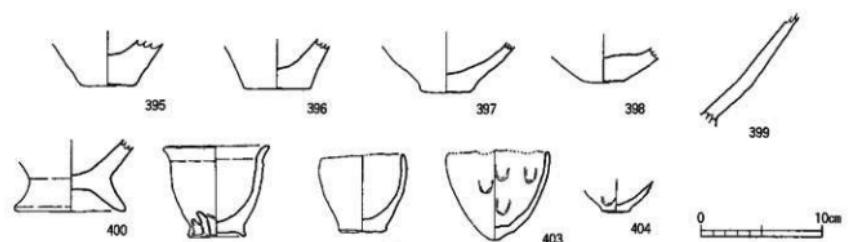
383は、壺の口縁部で頸部から緩やかに外反するもので、内外面ともにナデ調整で色調は、外面が橙と浅黄橙で内面は灰黄褐である。384は、壺の頸部で貼付突帯を有するもので、器面調整は内外面ともに丁寧なナデが施してある。色調は外面が鈍い赤褐と黒褐色で内面が灰褐と褐灰である。385は、壺の胴部のところで貼りの少ないものと思われる。器面調整は、内外面ともにナデで、色調は内外面ともに橙である。386は、壺の底部で平底と思われる。器面調整は内外面ともにナデ調整が施されている。色調は外面が淡黄・褐灰で内面が浅黄である。387は、壺の胴部で刻目貼付突帯をもつものである。器面調整は内外面ともにナデ調整が施されている。色調は内外面ともに橙である。388は、壺の頸部で胴部が丸みをもつタイプのものである。器面調整は内外面ともにナデ調整である。色調は外面が浅黄で内面は灰白である。389は、高坏の坏部と思われ口縁部がやや外反するものである。器面調整は内外面ともにナデ調整である。色調は、内外面ともにナデ調整である。色調は外面が浅黄橙で内面は橙・浅黄橙である。390は、高坏または鉢の口縁部で胴部にかけて緩やかに内湾している。器面調整は外面に工具ナデを施しており内面はナデ調整である。色調は外面が橙・鈍い橙で、内面は明赤褐である。391も高坏または鉢の口縁部で内外面ともにナデ調整が施され、色調は内外面ともに浅黄橙である。392は、高坏の据部でラッパ状を呈するものである。器面調整は、外面に斜めのハケ目が施され横ナデもみられる。393も高坏の裾部でラッパ状を呈するものである。器面調整は、外面に斜めハケ目・縦ハケ目・ナデの調整を持ち、内面がナデ・横ハケ目の調整が施されている。色調は、外面に鈍い黄橙・黄灰で内面が鈍い橙で褐灰である。394は、小型鉢の底部で尖底である。内外面ともにナデ調整で色調は外面が浅黄橙で内面が淡黄である。



第47図 SA3実測図 (1/40)



第48図 SA3出土遺物実測図 (1/4)



第49図 F区出土遺物実測図 (1/4)

F区出土遺物

395は、壺の底部であり、平底で胴部にかけて直線的に立ち上がるるものと思われる。器面調整は内外面ともに丁寧なナデが施されている。色調は外面が鈍い黄橙で、内面は鈍い黄橙と灰黄褐である。396も壺の底部で胴部への立ち上がりは、395と同様と思われる。器面調整は、外面がナデで内面は荒いナデ調整である。色調は、内外面ともに鈍い黄橙である。397は、壺の底部であり平底で胴部にかけて丸みを帯びて立ち上がるものである。器面調整は内外面ともにナデ調整で、色調は外面が淡赤橙で内面が灰白である。398も壺の底部で平底である。器面調整は、内外面ともにナデ調整が施され、色調は外面が褐灰・鈍い黄橙で内面が灰黄褐・鈍い黄橙である。399は、壺の底部付近と思われ胴部にかけてほぼ直線的に立ち上がるものである。器面調整は内外面ともにナデが施され、色調は外面が鈍い橙・褐で内面が鈍い橙と褐である。400は、台付鉢の底部と思われ上げ底である。色調は内外面ともに橙と鈍い橙である。401は、小型鉢の口縁部から底部で口縁部がやや外反するものであり、底部はやや上げ底状である。器面調整は外面にナデや指押さえが施されていて内面に横ナデやナデが施されている。色調は外面が褐色灰や灰黄褐・橙で内面が鈍い褐や橙である。402と403は、小型鉢の口縁部から底部で402は平底で、403は尖底である。内外面にナデや指頭痕を施している。404は、小型鉢の底部で平底でナデや指頭痕を呈するものである。

F区は、出土遺物・遺構とともに少なかったが南の畑地にむかって住居跡等の遺構が残っていると考えられる。

表1 出土遺物観察表(1)

遺物 番号	出土場所 上層部	形態 部位	法 量(cm)			器面調査・手法ほか		色 調		胎 土	備 考
			口径	器高	幅(横)	底径	外 面	内 面	外 面	内 面	
1 A-4	高環 鋤部	-	-	-	(10.8)	横ナデ	横ナデ	にぶい黒	にぶい黒	1mm以下の砂粒	
2 A-4	高環 鋤部	-	-	-	(17.6)	ナデ	ナデ・風化	浅黄褐	浅黄褐	6mm以上の砂粒 2mm以下の半透明の光沢粒	
3 A-1	高環 鋤部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	浅黄褐	浅黄褐	1mm以下の砂粒	透し
4 A-1	高環 鋤部	-	-	-	-	粗いナデ	粗いナデ	淡黄	浅黄褐 にぶい黒	0.5~1.5mmの粗い砂	透し
5 A	高環 山根	-	-	-	-	ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黒 灰褐	黄褐 暗灰褐	1mm以下の砂粒	ナデ工具には草のよ うな植物を使用
6 A-1	高環 鋤部	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ	にぶい黄褐	淡黄	2mm以下の砂粒、透明黒色光沢粒	外面・黒変
7 A-1	高環 鋤部	-	-	-	-	丁寧なナデ 鋼ナデ	丁寧なナデ	浅黄褐	褐褐	2mm以下の砂粒 1mm以下の透明、黒色光沢粒	内面・黒変
8 A	高環 鋤部	-	-	-	-	鋼ナデ	横ナデ	淡黄	淡黄 黄褐	1mm以下の砂粒	
9 A-1	高環 鋤部	-	-	-	-	鋸ナデ ミガキ	ナデ	浅黄褐	浅黄褐	1mm以下の砂粒	
10 A-4	堀 口沿	-	-	-	-	丁寧なナデ 丁寧なナデ	丁寧なナデ にぶい黄褐	浅黄褐 にぶい黄褐	にぶい黄褐 浅黄褐	1mm以下の砂粒	外面・黒変
11 A-1	試掘坑 口沿	-	-	-	-	ナデ	ナデ	淡黄	淡黄	0.5~1.5mmの細円錐と1mm以下の砂粒	
12 A-1	府口鏡又は 高环の环部	-	-	-	-	ナデ	ヨコナデ	橙	橙	1mm以下の砂粒	
13 A	要 頭部	-	-	-	-	横ナデ 斜目安否 スス付着	横ナデ	淡黄 にぶい黄褐	淡黄	1.5~2mmの細円錐含む	外面・刻目の中に布 痕
14 A	要 頭部	-	-	-	-	斜目安否 ナデ	ナデ	淡黄 にぶい黄褐	淡黄	1~3mmの細円錐多く含む	
15 A-1	要 口沿	-	-	-	-	ナデ 春播送文	ナデ	浅黄褐	黄褐	1~3mmの粗い砂粒を含む	
16 A-1	要 口沿	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ	灰褐	浅黄褐	1.5~2mmの細円錐を含む	
17 A-1	要 山根	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ	灰褐	灰褐	1.5~2mmの細円錐を含む	
18 A	要 口沿	-	-	-	-	横ナデ ナデ	ナデ	にぶい黄褐	淡黄	1mm以下の砂粒含む	
19 A	要 頭部	-	-	-	-	丁寧なナデ 丁寧なナデ ナデ・風化	丁寧なナデ 横ナデ スス付着	浅黄褐	浅黄褐	2mm大の細円錐を含む	
20 A	小型要 底部	-	-	-	-	ナデ スス付着	ナデ	浅黄褐 灰黄褐	淡黄	0.5~1.5mmの砂粒を含む 1mm以下の黒色光沢粒と共に目立つ	
21 A-4	小型要 頭部	-	-	-	-	横ナデ スス付着	横ナデ	灰黄褐	浅黄褐	2~3mmの細円錐含む	
22 A	要 頭部	-	-	-	-	板状工具 ナデ	ナデ	浅黄褐	淡黄	1~3mmの細円錐を多く含む	
23 A	要 口沿部	-	-	-	-	横ナデ スス付着	横ナデ	淡黄	浅黄褐	1~3mmの細円錐を含む	
24 A	要 口沿	-	-	-	-	ナデ	ナデ	浅黄褐	浅黄褐	1~3mmの細円錐を多く含む	
25 A-1	一 頭部	-	-	-	-	横ナデ	ナデ	にぶい黒 灰褐	にぶい黄褐	3mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒	
26 A-1	要 口沿	-	-	-	-	ナデ	ナデ	浅黄褐	浅黄褐	1.5mm以下の粗い砂粒	
27 A-1	試掘坑 口沿	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ	にぶい黒	灰白	1.5mm以下の砂粒	内面・黒変

表2 出土遺物観察表(2)

遺物 番号	出土点 出土層別	器種 部位	法 案 (cm)			器面調整・手法ほか			色 調		胎 土	備 考
			口徑	脚高	細部寸法	底径	外 面	内 面	外 面	内 面		
28	A-1	ミニチュア 口桿	-	-	-	-	ナデ	ナデ	に赤い貨幣 灰白	灰状・灰白	0.5~1mmの細い砂粒を含む	
29	A-1	小型彌 底部	-	-	-	(2.0)	ナデ スス付着	—	浅黄褐色 に赤い貨幣	灰	1~3mmの細円粒を多く含む	
30	A-1	彌形・筒形 底部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	浅黄褐色	灰黃	1mm以下の砂粒	外面…輕重感か?
31	A-4	ミニチュア 胸部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	淡黃	—	2mm以下の砂粒 1mm以下の砂粒・透明光沢粒	
32	A-1	小型彌 底部	-	-	-	2.9	ナデ	ナデ	浅黄褐色 淡黃	浅黄褐色	0.5~2mmの粗い砂粒	
33	A-3	ミニチュア 底部	-	-	-	(3.8)	ナデ	ナデ 指ナデ	淡黃 浅黄褐色	—	2mm以下の砂粒 1mm以下の砂粒・透明・無色光沢粒	
34	A-4	彌形・筒形 胸部	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ	灰	灰	粗良	ヘラ跡等? 文様? 凹縫あり
35	A-3	青磁皿 底部	-	-	-	(3.7)	ナデ	—	青青色 灰白	—	粗良	
36	A-1	試作品	蓋の口	-	-	-	—	—	新赤陶	(胎土) 赤青	1mm以下の砂粒	頂口先端部の破片 外面に赤い付着している
37	SAI	要 完形	(26.4)	34.1	24.0	(4.85)	横ナデ 工具ナデ	横ナデ 横ナデ 工具ナデ	浅黄褐色 に赤い貨幣 灰白	馬頭・浅黄褐色 馬頭・浅黄褐色	4.5mm以下の砂粒	頂口先端部の破片 外面に赤い付着している
38	SAI	要 完形	22.5	31.5	21.7	4.8	ナデ・ハケ ナデ・ハケ スス付着	ハケ日 ナデ 工具ナデ	白・灰褐色 灰白・灰褐色 浅黄褐色	5mm以下の砂粒	4.5mm以下の砂粒 3mm以下の半透明・黒色の光沢粒	外側…黒度 内側…黒度
39	SAI	要 完形	(20.1)	-	-	-	ナデ 横ナデ 脚ナデ 脚ナデ	横ナデ 横ナデ 脚ナデ 脚ナデ	に赤い貨幣 灰白	灰白	4mm以下の砂粒	内側…黒度
40	SAI	要 胸部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	新赤陶	—	2mm以下の砂粒	
41	SAI	口沿・彌部	-	-	-	-	ナデ 横ナデ 脚ナデ 脚ナデ	横ナデ 横ナデ 脚ナデ 脚ナデ	に赤い貨幣 灰白	灰白	2mm以下の半透明の光沢粒	
42	SAI	要 胸部	-	-	-	-	ナデ	新ナデ	淡黃	明褐色	4mm以下の砂粒	
43	SAI	盤 彌部・胸部	-	-	-	-	ミガキ 風化	ナデ	浅黄褐色	淡黃・浅黃	3mmの砂粒	
44	SAI	蓋 彌部・底部	-	-	(12.4)	-	絞・斜ミガキ 工具ナデ	絞・斜ミガキ 工具ナデ	粗	浅黄褐色	1mm以下の砂粒	乳房型土器
45	SAI	高坏 完形	(11.3)	8.9	-	(13.1)	ナデ 風化	ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	3mm以下の砂粒	
46	SAI	高坏 坏部	(12.6)	-	-	-	横ナデ ミガキ	横ナデ	淡褐	淡褐	1mm以下の半透明の光沢粒	
47	SAI	高坏 坏部	(14.7)	-	-	-	絞・斜ハケ日	横ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	1mm以下の砂粒	
48	SAI	高坏 脚・底部	-	-	-	15.3	ナデ 横ナデ	上部ナデ ナデ 横ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	4mm以下の砂粒 2mm以下の半透明・透明の光沢粒	外側…黒度 内方通し
49	SAI	高坏 脚・底部	-	-	-	17.6	報ミガキ 工具ナデ	工具ナデ ナデ	灰白・浅黄褐色 灰白	明褐色 灰白	3mm以下の砂粒	
50	SAI	伴 口沿・胸部	(18.5)	-	(19.6)	-	ナデ 風化	ミガキ 横ハケ日	ミガキ 横ナデ	淡黄褐色 灰白	3.5mm以下の砂粒 2mm以下の半透明の光沢粒	
51	SAI	伴 脚・底部	-	-	-	(5.2)	ナデ	ハケ日	灰白	灰白	3.5mm以下の砂粒	
52	SAI	小型筒 ほぼ完形	(8.1)	7.1	8.4	0.85	ナデ	ナデ	淡黃・浅黄褐色 明褐色	淡黄褐色	1mm以下の砂粒	内・外面…黒度 乳房底座部
53	SAI	小型筒 脚・底部	-	-	-	(2.1)	ナデ 指押さえ	ナデ 指押さえ	浅黄褐色	浅黄褐色	2mm以下の砂粒	
54	* SAI	ミニチュア 要・完形	4.9	3.3	-	-	ナデ 指押さえ	指ナデ	淡黃	淡黃	3mm以下の砂粒 2mm以下の黒・灰・褐色の光沢粒	手捏ね
55	SAI	穿孔 上器	-	-	-	2.6	ナデ 工具ナデ	ナデ 横ナデ	淡黃 灰黃褐色	淡黃 に赤い貨幣	2mm以下の砂粒 2mm以下の半透明・黒の光沢粒	
56	SAI	コップ型土器 ほぼ完形	(5.5)	8.5	5.4	5.3	ミガキ ナデ	ナデ	粗 明赤陶	粗	3mm以下の砂粒	丹塗り・黒度

表3 出土遺物観察表(3)

遺物 番号	出土点 山川遺跡	器種 部位	法 尺 (cm)			器軸調整・手括はか		色 調		胎 士	備 考	
			口径	高さ	幅(横幅)	底径	外 面	内 面	外 面	内 面		
57	SA2	要 口絆	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ	にぶい緑	にぶい緑	2mm以下の砂粒、微細な光沢粒	
58	SA2	要 口縁～脚部	-	-	-	-	工具ナデ(後 刷毛等付)赤 朱色(付)	工具ナデ(後 刷毛等付)赤 朱色	桜	桜	2mm以下の半透明の光沢粒	
59	SA2	要 脚部	-	-	-	-	山吹等付ナ デ(刷毛等付) 赤朱色(付)	ナデ	にぶい緑	黒褐色	2mm以下の砂粒、1mm以下の光沢粒	刻目に板状工具痕
60	SA2	要 脚部	-	-	-	-	ナデ	横ナデ	にぶい緑	にぶい緑	2mm以下の砂粒	
61	SA2	要 脚～脚部	-	-	-	-	ナデ(刷毛等付) 赤朱色(付)	ナデ	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	3mm以下の砂粒	内面～墨塗
62	SA2	要 脚部	-	-	-	-	ナデ(刷毛等付) 赤朱色(付)	ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	1mm以下の砂粒	内面～墨塗
63	SA2	要 脚部	-	-	-	-	ナデ	工具ナデ	灰黄褐色	にぶい緑	2mmの砂粒	刻目に工具痕
64	SA2	要 口縁～脚部	(27.2)	-	-	-	斜ハケ(上馬ナ デ(刷毛等付) 赤朱色(付))	斜ハケ(上馬ナ デ(刷毛等付) 赤朱色(付))	桜	桜	7mm以下の砂粒	
65	SA2	要 口縁～脚部	(34.2)	-	-	-	斜目等付(刷 毛等付)	工具ナデ	桜	桜	3mm以下の砂粒	
66	SA2	要 脚部	-	-	-	-	ナデ	斜ハケ(上 馬ナデ(刷毛等 付)赤朱色(付))	灰黄褐色	にぶい緑	2mm以下の砂粒	
67	SA2	要 脚部	-	-	-	-	斜ハケ(上 馬ナデ(刷毛等 付)赤朱色(付))	工具ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	4mm以下の砂粒	
68	SA2	要 底部	-	-	-	8.6	ナデ	工具ナデ	灰黄褐色	にぶい緑	5mm以下の砂粒、1mmの半透明の光沢粒	
69	SA2	盤 口縁	(12.6)	-	-	-	横ナデ	横ナデ	にぶい緑	にぶい緑	3.5mm以下の砂粒	複合口縁、墨塗
70	SA2	要 底部	-	-	-	-	ナデ	横ナデ	桜	桜	2mm以下の砂粒	丸底
71	SA2	小型盤 口縁	(8.4)	-	-	-	ナデ	横ナデ	浅黄色	浅黄色	4mm以下の砂粒	内面～炭化物付
72	SA2	小型丸底 口縁～脚部	(9.9)	-	-	-	工具ナデ(後 丁寧なナデ) 指揮え	横ナデ	桜	桜	2mm以下の半透明 黑色光沢粒	
73	SA2	小型丸底 脚部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	桜	桜	5mmの砂粒	丸底
74	SA2	小型丸底 脚部～底部	-	-	(9.8)	(2.6)	丁寧なナデ	横ナデ 指揮え	桜	桜	3mm以下の半透明、黒褐色光沢粒	丸底
75	SA2	高坏 环部	(22.1)	-	-	-	横ナデ	ナデ	桜	桜	1mm以下の砂粒	墨塗
76	SA2	高坏 环部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	桜	桜	3mm以下の砂粒	
77	SA2	高坏 环部	(14.8)	-	-	-	横ナデ	横ナデ	桜	桜	1mm以下の砂粒	
78	SA2	高坏 脚部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	桜	桜	4mm以下の砂粒 1mm以下の黑色、半透明光沢粒	
79	SA2	高坏 脚部	-	-	-	-	ナデ	横ナデ	桜	桜	3.5mm以下の砂粒 2mm以下の半透明光沢粒	
80	SA2	高坏 脚部	-	-	-	-	工具ナデ	ナデ	にぶい緑	にぶい緑	2.5mm以下の砂粒 黒色光沢粒	
81	SA2	錫	(21.6)	-	-	-	ナデ	斜工具ナデ	灰黄褐色	灰黄褐色	2mm以下の砂粒 1.5mm以下の砂粒	
82	SA2	ミニチュア 先形	5.75	3.3	-	-	指ナデ	ナデ	にぶい緑	開穴	3mm以下の砂粒 1.5mm以下の半透明黑色光沢粒	手捏ね
83	SAT	要 ほほ先形	(23.3)	26.9	(20.9)	(3.2)	ナデ	ナデ 指揮え	灰白 淡赤色	灰白 淡赤色	5mm以下の砂粒 3mm以下の半透明光沢粒	

表4 出土遺物観察表(4)

遺物 番号	出土地 名・位置	器種 部位	法 量(cm)			器内調査・手法はか		色 調		胎 土	備 考
			口径	管高	管底径	外 面	内 面	外 面	内 面		
84	SA7	更 完形	(22.4)	27.2	21.1	4.7	ナデ スス付着	横ハケ目 横ナデ	淡黄 淡黄	4.5mm以下の砂粒 3mm以下の半透明光沢粒	
85	SA7	更 頭部-側部	-	-	-	-	ナデ ナデ	淡黄 淡黄	にぶい橙 黒褐色	5mm以下の砂粒 2mm以下の半透明砂粒	黒度
86	SA7	更 頭部	-	-	-	-	ナデ ナデ	淡黄 淡黄	にぶい橙 黒褐色	5mm以下の砂粒 3mm以下の半透明光沢粒	
87	SA7	更 頭部-側部	-	-	-	-	ナデ ナデ	にぶい橙 黒褐色	灰褐色 灰白	3mm以下の半透明光沢粒	
88	SA7	合符鉢 底部	-	-	-	(10.2)	横ハケ目 横ナデ スス付着	横領丁寧な ナデ	明黄褐 にぶい橙	2mm以下の半透明黑色光沢粒	外壁…黒度 内面…黒度
89	SA7	高体 完形	12.2	9.4	-	13.2	横ナデ 風化 工具痕	横ナデ 工具痕	淡黄 淡黄	にぶい橙 1mm以下の砂粒	
90	SA7	小型鉢 底部	-	-	-	(7.9)	ナデ 風化 スス付着	ナデ ナデ	淡黄 淡黄	1.5mm以下の砂粒 1.5mm以下の光沢粒	
91	SA7	小型鉢 底部	-	-	-	-	工具痕 横ナデ	ナデ 指揮さえ	褐色 褐色	7mm以下の砂粒 1.5mm以下の半透明光沢粒	尖底
93	B-1	更 口縁-側部	-	-	-	-	斜ハケ目 スス付着	斜ハケ目 横ナデ	灰褐色 灰褐色	3mm以下の砂粒 2mm以下の黑色光沢粒	
94	B-1	更 口縫	-	-	-	-	ナデ スス付着	ナデ 横ナデ	淡黄 にぶい黄褐色	8mm以下の砂粒 2mm以下の半透明光沢粒	
95	B-1	更 口縫	-	-	-	-	斜ハケ目 風化物質付着 スス付着	斜ハケ目 横ナデ	灰褐色 灰褐色	2mm以下の砂粒 1mm以下の半透明光沢粒	
96	B-1	更 底部	-	-	-	-	工具による 剥離痕 ナデ	横ナデ 横ナデ	淡黄 淡黄	1mm以下の灰白・黑色砂粒 浅黄褐色	
97	B-1	更 口縫	(20.0)	-	-	-	横ナデ スス付着	横ナデ 横ナデ	淡黄 淡黄	4mm以下の砂粒 2mm以下の半透明黑色光沢粒	
98	B-1	側部	-	-	-	-	横ナデ 剥離物質付着 スス付着	横ナデ 横ナデ	にぶい橙 にぶい橙	2mm以下の半透明光沢粒	側面に布目庄痕
99	B-1	側部	-	-	-	-	ナデ 横ナデ 剥離物質付着 スス付着	横ナデ 横ナデ	にぶい橙 にぶい橙	7mm以下の砂粒 2mm以下の透明黑色光沢粒	
100	B-3	更 側部	-	-	-	-	ナデ 横ナデ 剥離物質付着 スス付着	斜ナデ 斜ナデ	にぶい橙 にぶい橙	6mm以下の砂粒 1mm以下の半透明黑色光沢粒	
101	B-1	更 底部	-	-	-	(7.8)	ナデ 斜ハケ目	ナデ ナデ	にぶい橙 灰褐色	2mm以下の砂粒 1mm以下の半透明黑色光沢粒	黒度
102	B-1	更 底部	-	-	-	(6.2)	ナデ 斜ハケ目	斜ナデ 斜ナデ	淡黄 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒 2mm以下の半透明光沢粒	あげ底 黒度
103	B-1	更 底部	-	-	-	-	ナデ 粗いナデ	粗いナデ 横ナデ	にぶい橙 淡黄褐色	4mm以下の砂粒 2mm以下の半透明黑色光沢粒	
104	B-3	更 底部	-	-	-	6.1	斜ナデ 風化物 軽度なたみ	ハケ目 風化物 スス付着	にぶい橙 程	4mm以下の砂粒 1mm以下の砂粒	
105	B-1	更 口縫	(9.25)	-	-	-	横ナデ 斜ハケ目	横ナデ 横ナデ	淡黄 淡黄	4mm以下の砂粒 2mm以下の半透明黑色光沢粒	口縫部…黒度
106	B	更 口縫	12.8	-	-	-	横ナデ 横ナデ 剥離物質付着 スス付着	斜ナデ 斜ナデ 剥離物質付着 スス付着	程 程	4mm以下の砂粒 1mm以下の砂粒	
107	B-1	更 口縫	(15.9)	-	-	-	横ナデ 横ナデ 剥離物質付着 スス付着	横ナデ 横ナデ	にぶい橙 にぶい橙	2mm以下の砂粒 1mm以下の半透明黑色光沢粒	
108	B-1	更 口縫	(13)	-	-	-	粗い横ナデ	横ナデの痕 横ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	2mm以下の砂粒 2mmの半透明黑色光沢粒	
109	B-1	更 側部	-	-	-	-	ナデ 粘土物質付着 スス付着	斜ハケ目 横ナデ	にぶい橙 灰褐色	3mm以下の砂粒	
110	B-1	小形壺 底部-側部	-	-	-	-	横ナデ 横ナデ	横ナデ 横ナデ	淡黄 淡黄	1.5mm以下の砂粒	
111	B-1	壺 側部	-	-	-	-	貼付物質付着	ナデ ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	3mm以下の砂粒 2mm以下の半透明黑色光沢粒	

表5 出土遺物観察表(5)

遺物 番号	出土品 名	埋 設 位 置	法 基 (cm)			器形調整・手法はか		色 調		黏 土	備 考
			口径	高 さ	細 径	外 面	内 面	外 面	内 面		
112	B-I	並 環一馬頭	-	-	11.2	-	横ナデ ナデ ミガキ スス付輪	灰白 に赤い黄褐色 灰白	灰白 灰黃	1mm以下の砂粒	
113	B-I	高环 环唇	(14.2)	-	-	-	ナデ	ナデ	淡黄 に赤い黄褐色 灰白	4mm以下の砂粒	
114	B-I	高环 环唇	-	-	-	-	ナデ	ナデ	赤黄 灰白	2mm以下の砂粒 2mm以下の透明半透明の光沢粒	
115	B-I	高环 环唇	(11.6)	-	-	-	横ナデ ナデ	横ナデ	橙	橙	1mm以下の砂粒
116	B-I	高环 环唇	-	-	-	-	ナデ	ナデ	に赤い橙 橙	4mm以下の砂粒 2mm以下の半透明光沢粒	
117	B-I	高环 环唇	-	-	-	-	ナデ ミガキ 指輪	ナデ	淡黄 淡黄橙 褐色	4mm以下の砂粒 2mm以下の褐色光沢粒	内部…黒斑
118	B-I	高环 环唇	-	-	-	-	継ミガキ 風化	ナデ ナデ 風化	に赤い橙 に赤い褐色 赤将	3mm以下の砂粒 2mm以下の半透明光沢粒	
119	B	高环 环唇	-	-	-	-	継ミガキ ナデ	丁真ナ 横ナデ 横ナデ	橙 に赤い褐色 褐色	2mm以下の砂粒	
120	B-I	高环 环唇	-	-	-	-	ナデ	ナデ 指輪	橙	淡黄 1mm以下の光沢粒	
121	B-I	小型环 环唇	-	-	-	-	横ナデ	ナデ 指輪底	淡黄 淡黄橙	1mm以下の砂粒	
122	B-I	管台 环唇	-	-	-	-	ナデ	ナデ 横ナデ	淡黄 に赤い黄褐色	5mm以下の砂粒 2mm以下の黒色光沢粒	透かし
123	B-I	高环 环唇	-	-	-	(10.4)	ナデ	工具横ナデ	淡黄 淡黄橙	3mm以下の砂粒	
124	B	管台 器受器	(20.5)	-	-	-	横ナデ ナデ 風化	ナデ、風化	淡黄 淡黄	3mm以下の砂粒 2mm以下の透明半透明の光沢粒	
125	B	管台 器受器	-	-	-	(22.5)	ナデ	ナデ 横ナデ	ナデ、風化	淡黄 に赤い黄褐色	3mm以下の砂粒
126	B-I	高环 环唇	-	-	-	15.2	ナデ	横ナデ	橙 灰 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 1mm以下の黒色光沢粒	
127	B	鉢 口縁一朝期	-	-	-	-	ナデ 工具ナデ	横ナデ ナデ	に赤い橙 褐色	2mm以下の砂粒 2mm以下の透明の光沢粒	外部…黒斑
128	B-I	小型鉢 口縁一形	8.9	7.45	9.95	7.05	指輪ナ ナデ 指輪ナ スス付輪	斜面 斜面 指輪ナ スス付輪	淡黄 淡黄 褐色	3mm以下の砂粒 2mm以下の黒半透明の光沢粒	手捏ね
129	B	小型鉢 口縁一形	6.7	6.3	7.2	-	指輪ナ ナデ スス付輪	指ナデ 丁寧なナデ	淡黄 青 灰白	3mm以下の砂粒 丁寧なナデ	手捏ね
130	B-I	小型鉢 口縁一底部 完形	-	-	-	-	ナデ 風化	ナデ	淡黄 淡黄	4mm以下の砂粒 3mm以下の半透明透明の光沢粒	
131	B-I	ミニチュア7 7号 完形	(6.4)	-	-	-	ナデ 指押さえ	指押ナ ナデ 指押ナ スス付輪	褐色 褐色	2mm以下の砂粒	手捏ね
132	B-I	ミニチュア7 7号 完形	5.1	3.3	-	-	ナデ	指ナデ	橙	1mm以下の砂粒	外部…黒斑 手捏ね
133	B	ミニチュア7 7号 完形	2.8	2.2	-	-	ナデ 指押さえ	ナデ 指押さえ	灰黄褐色 灰黄褐色	2mm以下の砂粒 1mm以下の半透明の光沢粒	手捏ね
134	B-I	ミニチュア7 7号 完形	(3.05)	2.0	-	-	指押さえ ナデ	指押ナ ナデ	灰白 淡黄	2mm以下の砂粒 1mm以下の黒半透明の光沢粒	手捏ね
135	B	ミニチュア7 7号 完形	3.65	2.9	-	1.6	ナデ 指押さえ	横ナデ ナデ	淡黄 灰白	2mm以下の砂粒 2mm以下の黒の光沢粒	手捏ね
136	B	ミニチュア7 7号 完形	4.0	2.9	-	1.5	ナデ 指押さえ	ナデ 指押ナ	に赤い橙 褐色	1mm以下の砂粒 1mm以下の黒半透明の光沢粒	手捏ね
137	B	ミニチュア7 7号 完形	4.4	3.1	-	-	ナデ 指押さえ	ナデ	淡黄 褐色	1mm以下の砂粒 1mm以下の黒半透明の光沢粒	手捏ね
138	B	ミニチュア7 7号 完形	(5.4)	2.65	-	-	横ナデ	ナデ	淡黄 に赤い黄褐色	1mm以下の砂粒 1mm以下の半透明の光沢粒	手捏ね

表6 出土遺物観察表(6)

遺物 番号	出土地 点&通 路	種類 部位	法 量 (cm)			器面開閉・手法ほか		色 調		胎 土	備 考	
			口径	脚高	側取扱	底径	外 面	内 面	外 面	内 面		
139	B-4	單孔 土器	-	-	-	3.3	ナデ 風化	ナデ	黄 浅黄	棕	3mm以下の砂粒 1mm以下の無、透明の光沢粒	内面…黒度
140	B-1	單 口縁-底部	(8.0)	(0.1)	-	(7.1)	横ナデ ヘラ切り 持ナデ	横ナデ 持ナデ	黄 浅黄	棕	1mm以下の砂粒	上部器
141	B-1	圓形 土製品	-	-	(3.75)	-	ナデ	ナデ	明赤黄、褐 褐灰、灰白	棕	2mm以下の砂粒 1mm以下の透明、半透明の光沢粒	ベンガラ使用
142	B	單 口縁	-	-	-	-	ナデ、施釉	ナデ、施釉	灰オリーブ 灰オリーブ	稍黄		青祖、墨反り裏
143	SAA	單 口縁	(22.3)	-	-	-	横ナデ-ナデ スス付着	横ナデ ナデ	に赤い黄 褐灰	に赤い黄 5mm以下の砂粒	1mm以下の半透明の光沢粒 5mm以下の砂粒	
145	SAA	火 附器	-	-	-	-	工具ナデ 點打突器(頭)	工具ナデ 點打突器(頭)	黄灰 褐黑	に赤い褐 に赤い褐	2mm以下の砂粒	割目に赤目底
147	SAA	火 附器	-	-	-	-	鶴ハケ目 スス付着 點打突器(頭)	鶴ハケ目	に赤い褐 褐灰	2mm以下の砂粒 透明の光沢粒	透明の光沢粒	割目に赤目底
148	SAA	火 底盤	-	-	-	4.7	ナデ	ナデ	浅黄	褐灰	5mm以下の砂粒、半透明の光沢粒 2mm以下の黒色光沢粒	
149	SAA	小腹盤 底部			(3.2)	-	ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	2mm以下の粒 飛散な光沢粒	
150	SAA	火 口縁	(10.7)	-	-	-	ナデ	ナデ	棕 に赤い褐 に赤い黄	棕	3mm以下の砂粒	
151	SAA	豎 口縁	-	-	-	-	構造波状文	ナデ	浅黄	浅黄	2mm以下の砂粒	後合口縫
152	SAA	豎 口縁	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ	浅黄	浅黄	4mm以下の砂粒 4mm以下の透明、半透明の砂粒	後合口縫
153	SAA	豎 圓形	-	-	-	-	ナデ 點打突器(頭)	ナデ	に赤い褐	褐	3mm以下の砂粒 2mm以下の半透明の光沢粒	割目に赤目底
154	SAA	束 底部	-	-	-	-	ナデ 點打突器(頭)	工具による ナデ	に赤い褐	褐	3mm以下の砂粒 1mm以下の透明、半透明の光沢粒	割目に赤目底
155	SAA	束 底盤	-	-	(5.0)	工具ナデ	ナデ	に赤い黄	褐	4mm以下の砂粒 2mm以下の透明、半透明の光沢粒		
156	SAA	豎 頭部-副部	-	-	-	-	工具ナデ	ナデ	棕 に赤い黄	棕	4mm以下の砂粒	
157	SAA	豎 頭部-副部	-	-	-	-	ナデ	ナデ 指押さえ	明黄褐 褐	4mm以下の砂粒 1mm以下の光沢粒		
158	SAA	束 頭部	-	-	-	-	風化 スス付着	ナデ	灰褐	浅黄	3mm以下の砂粒 半透明の光沢粒	
159	SAA	束 底盤	-	-	-	3.8	ナデ	ナデ	に赤い黄	褐灰	4mm以下の砂粒 3mm以下の透明、半透明光沢粒 2mm以下の黒色光沢粒	平底
160	SAA	小型束 底盤	-	-	-	5.4	ナデ スス付着	ナデ 工具痕	浅黄	棕	2.5mm以下の砂粒、黑色光沢粒 2mm以下の透明光沢粒	平底
161	SAA	小型大底盤 先形	8.0	10.2	10.0	-	ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	明黄褐	棕	1mm以下の砂粒 黒の光沢粒	丸底、ヘラ記号か?
162	SAA	小型大底盤 頭部-底部	-	-	9.8	-	丁番ナナデ	工具ナデ	浅黄、淡黄 浅黄	浅黄	2mm以下の砂粒	外側…黒底
163	SAA	小型大底盤 頭部-光部	-	-	9.4	-	丁番ナナデ	ナデ	浅黄	浅黄	3mm以下の砂粒、光沢粒	
164	SAA	小型丸底盤 頭部	-	-	(13.75)	-	ナメル付着	横ナデ 灰灰斑	に赤い黄 灰灰斑	棕	2mm以下の砂粒	
165	SAA	高环 环部	(23.0)	-	-	-	ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	3mm以下の砂粒 透明半、透明の光沢粒	内面…墨底
166	SAA	高环 环部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	2mmの粒	
167	SAA	高环 环部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	赤	1mm以下の砂粒	内面…丹地り	

表7 出土遺物観察表(7)

遺物 番号	出土点 土層部	種類 部位	法量(cm)			器形測定・手法はか		色調		胎 土	備 考	
			口径	器高	側面幅	底径	外 面	内 面	外 面	内 面		
168	SAA	高环 ほぼ完形	(16.8)	13.8	—	(10.2)	ナデ 横ナデ	ナデ	淡黄褐 淡黄褐	程 浅黄褐	1mm以下の砂粒	
169	SAA	高环 脚部	—	—	—	—	ナデ	横ナデ	淡黄褐 にぶい程	淡黄褐 淡黄	2mm以下の砂粒	
170	SAA	高环 脚部	—	—	—	—	丁寧なナデ	ナデ	にぶい黄褐	程	1mm以下の砂粒	
171	SAA	高环 脚部	—	—	—	—	ミガキ	丁寧なナデ ナデ	淡黄	淡黄褐 にぶい程	3mm以下の砂粒 1mm以下の光沢粒	外面…黒斑
172	SAA	高环 ほぼ完形	19.4	13.6	—	13.4	ナデ ミガキ	ナデ 指ナデ	淡黄褐 淡黄	淡黄褐 にぶい程 黄灰	1mm以下の砂粒	
173	SAA	高环 脚部	—	—	—	—	風化	ナデ	淡黄褐 程	淡黄褐 灰白	1mm以下の砂粒	
174	SAA	高环 脚部	—	—	—	—	ナデ	ナデ	淡黄 淡黄褐	淡黄 淡黄	2mm以下の砂粒、透明の光沢粒	
175	SAA	高环 脚部	—	—	—	—	ナデ	ナデ	淡黄褐 黄褐	淡黄褐 黄灰褐、程	5mm以下の砂粒、半透明の光沢粒	
176	SAA	高环 脚部	—	—	—	—	ミガキ	ナデ 指ナデ	淡黄褐 淡黄褐	淡黄褐 にぶい程	2mm以下の砂粒	透し
177	SAA	高环…脚部	—	—	—	15.7	ヨコナデ ナデ	ナデ 指ナデ	淡黄褐 程	程 淡黄褐	4mm以下の砂粒 1mm以下の半透明光沢粒	
178	SAA	高环 脚部	—	—	—	14.7	ナデ	横ハケ目	ナデ	淡黄 淡黄	灰白 2mm以下の砂粒	
179	SAA	小型高环 脚部	—	—	—	—	横ハケ目 筋ハケ目	ナデ	淡黄	淡黄	1mm以下の光沢粒	
181	SAS	要 頭部…脚部	—	—	(24)	—	ナデ スリ付着 粘付着(複数) 指押さえ	丁寧なナデ 灰黄	淡黄 淡黄	淡黄褐 淡黄	2mm以下の砂粒	刻目に布目痕
182	SAS	食 口縁	(9.1)	—	—	—	横ナデ 横ミガキ	にぶい程 にぶい黄褐	にぶい程 にぶい程	1mm以下の砂粒		
183	SAS	食 頭部	—	—	—	—	ナデ スリ付着 粘付着(複数) 指押さえ	丁寧なナデ 横ナデ	にぶい程 横ナデ	2mm以下の砂粒 2mm以下の透明、黒色光沢粒		頭部に布目痕
184	SAS	食 頭部	—	—	—	—	ナデ スリ付着 粘付着(複数) 指押さえ	丁寧なナデ にぶい程	にぶい程 にぶい程	2mm以下の砂粒 1mm以下の黑色、透明光沢粒		刻目に布目痕
185	SAS	高环 環…脚部	13.2	—	—	—	ナデ 横ナデ ミガキ	横ナデ 横ミガキ	程 横	程 にぶい程	1mm以下の砂粒	内面…黒斑
186	SAS	高环 脚部	—	—	—	—	ミガキ スリ付着	横ナデ ナデ	淡黄 灰黄	2mm以下の砂粒	2mm以下の砂粒	外面…黒斑
187	SAS	高环 脚部	—	—	—	(10.05)	横ナデ	横ナデ 工具痕ナデ	程 程	2mm以下の砂粒 1mm以下の透明、半透明の光沢粒		
188	SAS	高环 環…脚部	—	—	—	—	横ナデ 斜ナデ	横ナデ 指押さえ	程 程	2mm以下の砂粒		
189	SAS	ニチュア 完形	6.1	3.4	—	—	ナデ	ナデ	淡黄褐 淡黄褐	2mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒、半透明黒色光沢粒	手捏ね	
190	SAS	要 口縁	—	—	—	—	横ナデ 工具痕ナデ ナデ	横ナデ 工具痕ナデ	淡黄褐 淡黄褐	4.5mm以下の砂粒 3mm以下の砂粒	3mm以下の半透明、黒色光沢粒	
191	SAS	要 口縁	—	—	—	—	見開(口唇) ナデ	ナデ	淡黄	淡黄	3mm以下の砂粒、透明光沢粒	
192	SAS	要 山根	—	—	—	—	横ナデ 工具痕ナデ ナデ	工具痕ナデ	淡黄褐	淡黄褐	3mm以下の砂粒、半透明光沢粒	
193	SAS	要 口縁	—	—	—	—	横ナデ	丁寧な横ナデ 丁寧なナデ	にぶい程 にぶい程	2mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒、1mm以下の砂粒		内面…黒斑
194	SAS	要 口縁	—	—	—	—	横ナデ	横ナデ	にぶい程 にぶい程	2mm以下の砂粒 2mm以下の透明、黒色光沢粒		
195	SAS	要 口縁	—	—	—	—	ナデ 横ナデ	横ナデ ナデ	にぶい黄褐 淡黄	2mm以下の砂粒 1mm以下の半透明光沢粒		

表8 出土遺物觀察表(8)

遺物 番号	出土 所	器種 部位	法 量(cm)			器面調整、手法はか		色 調		胎 土	備 考	
			口径	器高	開口幅	底径	外 面	内 面	外 面	内 面		
196	S46	束 口盤・胴部	-	-	-	-	ナデ 横ナデ 縦横ナデ	ナデ	灰褐	に赤い 青	3mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒、半透明、黒色光沢粒	斜目に赤目灰 内面・黒皮
197	S46	束 頭部	-	-	-	-	横ナデ 縦横ナデ スズメナデ	横ハケ日	褐灰	褐灰	5.5mm以下の砂粒、4mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒、1mm以下の黒色光沢粒	
198	S46	束 頭部	-	-	-	-	横ナデ 縦横ナデ 横工具柄	横ナデ 指押さえ	灰黄	灰黄、褐灰	2mm以下の砂粒 黒色半透明光沢粒	内面・黒皮
199	S46	束 頭部・胴部	-	-	-	-	横ナデ、ナデ 縦横ナデ スズメナデ	ナデ	灰褐 赤褐色 赤褐色 に赤い 青	灰褐 に赤い 青 に赤い 青	3mm以下の砂粒 半透明黒色光沢粒	
200	S46	束 頭部・胴部	-	-	-	-	横付付帯 新ハケ日	新ハケ日	橙	褐灰	6mm以下の砂粒、4mm以下の砂粒 2.5mm以下の半透明光沢粒、1.5mm以下の黒色光沢粒	
201	S46	束 頭部	-	-	-	-	新ハケ日 横付付帯	新ハケ日 横ナデ 横ナデ	灰黄褐	灰褐	4mm以下の砂粒 2.5mm以下の砂粒	帶に添って 横方向に爪の跡
202	S46	束 頭部	-	-	-	-	横ナデ 横付付帯 ハケ日	ハケ日	灰褐	に赤い 青	3.5mm以下の砂粒、2mm以下の砂粒 1.5mm以下の半透明、黒色光沢粒	斜目に赤目灰
203	S46	束 頭部	-	-	-	-	ナデ 横ナデ 横付付帯	ナデ	浅黄	灰黄	3mm以下の砂粒 1.5mm以下の砂粒、黒色光沢粒	斜目に赤目灰
204	S46	束 底部	-	-	5.0	-	新ハケ日 横付付帯 ナデ スズメナデ	新ハケ日 横ナデ 指押さえ	に赤い 青 に赤い 青 指押さえ	灰褐 褐灰	6mm以下の砂粒、3mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒、黒色光沢粒	外街・黒皮 底部・黒皮
205	S46	束 底部	-	-	5.65	-	ハケ日 スズメナデ スズメ付帯	ナデ スズメ付帯	に赤い 青 に赤い 青	灰黄	7mm以下の砂粒 1mm以下の半透明光沢粒	
206	S46	束 底部	-	-	(6.95)	-	ナデ 指押さえ	ナデ 工具柄	に赤い 青 に赤い 青	浅黄	3mm以下の砂粒 2mm以下の半透明黒色光沢粒	
207	S46	束 底部	-	-	(5.4)	-	新ハケ日 工具柄 黒いナデ	新ハケ日 工具柄 黒いナデ	指押さえ 工具柄	浅黄	4mm以下の砂粒 2mm以下の半透明光沢粒	
208	S46	小型束 底部	-	-	2.6	-	ナデ スズメ付帯 指押さえ	ナデ	灰白 褐灰	灰白 褐灰	2mm以下の半透明、黒色光沢粒	
209	S46	古付束 底部	-	-	11.6	-	横ナデ 横ナデ 指押さえ	横ナデ ナデ 指押さえ	浅黄 指 灰褐	4mm以下の砂粒 2mm以下の半透明光沢粒		
210	S46	束 口盤	(14.7)	-	-	-	丁寧なナデ 丁寧なナデ	丁寧なナデ	指	指	1mm以下の半透明、黒色光沢粒	
211	S46	束 口盤部	-	-	-	-	横ナデ 横横ナデ	横ナデ	淡黄	淡黄	3mm以下の砂粒 2mm以下の半透明光沢粒	複合口線
212	S46	束 山根	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ	灰白	灰白	6mm以下の砂粒 1mm以下の半透明黒色光沢粒	
213	S46	束 崩根	-	-	-	-	ナデ	横ナデ	に赤い 青 に赤い 青	4mm以下の砂粒 3mm以下の半透明黒色光沢粒		
214	S46	束 崩根・胴部	-	-	(28.2)	-	工具ナデ 縫目目打帶 指押さえ	横ナデ	浅黄 指 指	浅黄 明黄色	4mm以下の砂粒 1mm以下の半透明黒色光沢粒	
215	S46	束 底部	-	-	(7.6)	-	黒いナデ 工具柄 風化	丁寧なナデ	に赤い 青 に赤い 青	灰褐	2mm以下の砂粒	
216	S46	束 底部	-	-	(7.05)	-	工具ナデ ナデ	ナデ	に赤い 青 明黄色	に赤い 青 明赤色	5.5mm以下の砂粒 3mm以下の半透明黒色光沢粒	外面・黒皮 あけ底
217	S46	束 底部	-	-	-	-	ナデ	工具ナデ	指 に赤い 青 に赤い 青	指 に赤い 青 に赤い 青	2mm以下の砂粒 2mm以下の半透明黒色光沢粒	丸底
218	S46	束 崩根・底部	-	-	-	-	ハケ日 ミガキ	工具ナデ ミガキ	に赤い 青 に赤い 青 に赤い 青	3mm以下の砂粒 2mm以下の半透明、透明の光沢粒	外面・スズメ付 丸底	
219	S46	小型丸底束 崩根	-	-	-	-	ナデ	黄灰 橙	指 青	1mm以下の砂粒 1mm以下の砂粒	1mm以下の砂粒 1mm以下の砂粒	
220	S46	小型丸底束 口盤・崩根	(6.9)	-	-	-	横ナデ 新ハケ日 横ナデ	横ナデ 指ナデ	指 に赤い 青	2mm以下の砂粒		
221	S46	小型丸底束 底部	-	-	-	-	ナデ、工具柄 横ナデ	横ナデ 横ナデ	浅黄 指押 に赤い 青	2mm以下の砂粒 1mm以下の砂粒		
222	S46	小型丸底束 崩根・底部	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ 指押さえ 横ナデ	指 青	2mm以下の砂粒 2mm以下の半透明黒色光沢粒	外面・黒皮	

表9 出土遺物観察表(9)

遺物 番号	出土地點 出土層	器種 部位	法 量 (cm)		留出調整・手法はか		色 調		胎 土	備 考
			口径	器高	側面	内面	外 面	内 面		
223 SA6	小型丸底盤 LII期→底部	(10.8)	5.6	—	—	丁寧なナデ 風化	丁寧なナデ	淡黄 黄褐色 黄褐色	淡黄 黄褐色 黄褐色	1mm以下の砂粒
224 SA6	窓環 耳部	(21.2)	—	—	—	横ナデ	横ナデ	橙	橙	2mm以下の砂粒 外層…黒茶 内面…黒茶
225 SA6	窓環 耳部	—	—	—	—	斜工具痕 風化	斜工具痕	黄褐色 灰黃褐色	黄褐色 明褐色	1mm以下の砂粒 1mm以下の透明光沢粒
226 SA6	窓環 耳部	—	—	—	—	後・横ミガキ	丁寧なナデ	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	5mm以下の砂粒
227 SA6	窓環 耳底部	—	—	—	—	ナデ	ナデ	橙	にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒 2mm以下の黒、透明の光沢粒
228 SA6	窓環 耳底部	—	—	—	—	ナデ	ナデ	橙 にぶい赤褐色	橙	1mm以下の砂粒
229 SA6	窓環 耳部	—	—	—	—	ナデ 風化	ナデ 風化	にぶい橙 淡黄褐色	橙	3mm以下の砂粒
230 SA6	窓環 耳部	—	—	—	—	横ナデ 「手」字ナデ 横工具痕	横ナデ 横工具ナデ	淡黄褐色、淡黄褐色	淡黄褐色、淡黄褐色	2mm以下の砂粒、半透明、光沢粒
231 SA6	窓環 耳部	—	—	—	—	横ナデ 風化	横ナデ 風化	淡黄褐色	橙	2mm以下の砂粒、半透明光沢粒
232 SA6	窓環 耳部	—	—	—	—	ナデ 横工具ナデ 「手」字ナデ	横ナデ	淡黄褐色	淡黄褐色	1mm以下の砂粒 造り
233 SA6	窓環 耳部	—	—	—	—	横ミガキ	指押さえ	橙	橙	4mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒、透明光沢粒
234 SA6	窓環 耳部	—	—	—	—	ナデ 風化	ナデ、風化	淡黄褐色 淡黄褐色	2mm以下の砂粒	丹塗りか?
235 SA6	窓環 耳部	—	—	—	(14)	斜ミガキ ナデ	横ナデ	橙、淡黄褐色	橙	2mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒
236 SA6	窓環 耳部	—	—	—	(11.4)	横ナデ	横ナデ	橙	にぶい橙	1mm以下の光沢粒 丹塗りか?
237 SA6	LII期→頭部	24.6	—	—	—	横・縦・斜・ハ クダナケ日 スス付着	横・縦・斜・ハ クダナケ日 スス付着	にぶい赤褐色 にぶい赤褐色	橙	2mm以下の砂粒 1mm以下の砂粒、透明光沢粒
238 SA6	窓 口縁→頭部	(26.6)	—	—	—	横ナデ スス付着	横ナデ スス付着	黒 灰褐色	橙	6.5mm以下の砂粒 2mm以下の半透明、黒色光沢粒
239 SA6	林 口縁	—	—	—	—	斜ハケ日	横ナデ	橙	2.5mm以下の砂粒、1.5mm以下の 半透明光沢粒、1mm以下の砂粒	外層…黒茶
240 SA6	小型鉢 底部	—	—	—	1.4	ナデ	ナデ	淡黄 灰白	淡黄 2mm以下の黒茶、透明光沢粒	
241 SA6	ミニュアル 完形	4.9	2.9	—	—	粗いナデ 指押さえ	ナデ 指押さえ	にぶい黄褐色 明褐色	2mm以下の砂粒 1mm以下の黒茶、半透明の光沢粒	手捏ね
242 SA6	ミニュアル 完形	4.5	2.8	—	—	ナデ 指押さえ	ナデ 指押さえ	淡黄 灰白	2mm以下の砂粒 2mm以下の黒茶、透明の光沢粒	手捏ね
243 SA6	ミニュアル 完形	3.0	2.2	—	—	指押さえ 粗いナデ	粗いナデ 指押さえ	淡黄褐色 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒 3mm以下の半透明の光沢粒	手捏ね
247 SAB	窓 口縁→頭部	(24.5)	—	—	—	横ナデ 「手」字ナデ スス付着	横ナデ 「手」字ナデ スス付着	灰褐色	橙	4mm以下の砂粒 2mm以下の透明、茶色光沢粒
248 SAB	窓 口縁	(12.7)	—	—	—	横ナデ 動作痕跡(横) 工具痕	横ナデ 動作痕跡(横) 工具痕	にぶい橙 ナデ	4mm以下の砂粒 3.5mm以下の砂粒	
249 SAB	窓 口縁	—	—	—	—	動作痕跡(横) 工具痕	動作痕跡(横) 工具痕	淡黄褐色 淡黄褐色	3mm以下の砂粒 2mm以下の半透明、黑色光沢粒	
250 SAB	窓 口縁	(20.2)	—	—	—	ナデ 横ナデ	ナデ 横ナデ	淡黄 淡黄	2mm以下の茶色、半透明の光沢粒	
251 SAB	窓 頭部	—	—	—	—	ナデ 貼付痕跡(無)	ナデ 貼付痕跡(無)	黄褐色	にぶい橙	4mm以下の砂粒 2mm以下の黒茶、半透明の光沢粒
252 SAB	窓 頭部	—	—	—	—	ナデ 貼付痕跡(無)	ナデ 貼付痕跡(無)	淡黄褐色 にぶい黄褐色	橙	2mm以下の砂粒 1.5mm以下の半透明、黑色光沢粒

表10 出土遺物観察表(10)

遺物 番号	出土地點 出土遺物	器種 形態	法 量(cm)			器面調整・手法はか		色 調		胎 土	備 考
			口径	器高	側面状況	底径	外 面	内 面	外 面	内 面	
253	SAB	甕 底部	-	-	-	-	ナデ 粗いナデ	粗いナデ にぶいナデ	にぶい緑 にぶい緑	4mm以下の砂粒	
254	SAB	甕 口縁	(13.9)	-	-	-	横模波状文 横ナデ+ナデ	指押さえ 横ナデ	浅黄緑 浅黄緑	3mm以下の砂粒 1.5mm以下の半透明、黒色光沢粒	複合口縁
255	SAB	甕 口縁付近	-	-	-	-	横模波状文 工具痕+ナデ	ナデ	浅黄緑 淡黄	4mm以下の砂粒 3mm以下の半透明、黒色光沢粒	複合口縁
256	SAB	甕 肩部	-	-	-	-	ナデ 斜ナデ	ナデ 風化	浅黄緑 浅黄緑	4mm以下の砂粒 3mm以下の半透明、透明、黒色光沢粒	
257	SAB	甕 底部	-	-	-	-	粗いナデ 窓	粗いナデ 窓	にぶい緑 浅黄緑	4mm以下の砂粒 2mm以下の半透明、黒色光沢粒	外面部-黒度
258	SAB	小型甕 胴部	-	-	-	-	丁寧なナデ	ナデ	にぶい緑 窓	2mm以下の砂粒 1mm以下の透明、黒色光沢粒	
259	SAB	高环 耳部	-	-	-	-	横ナデ	ナデ 風化	淡黄 浅黄緑	3mm以下の砂粒 2mm以下の黒、透明の光沢粒	
260	SAB	小高环 耳部	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ	窓 窓	1mm以下の砂粒 1mm以下の透明の光沢粒	
261	SAB	高环 耳部	-	-	-	-	ナデ	ミガキ	浅黄緑 窓	2mm以下の砂粒 1mm以下の黒、透明の光沢粒	
262	SAB	高环 脚部	-	-	-	-	ナデ	工具ナデ	浅黄緑 明黄緑	3mm以下の砂粒 2mm以下の透明、黒色光沢粒	
263	SAB	高环 脚部	-	-	-	-	横ナデ	斜-横ナデ 指ナデ	浅黄緑 にぶい黄緑	1mm以下の砂粒	
264	SAB	高环 脚部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	浅黄緑 浅黄緑	1mm以下の砂粒	透し
265	SAB	ミニチュア瓶	-	-	-	-	ナデ	ナデ 指痕	淡黄 浅黄緑	2mm以下の砂粒 1mm以下の透明の光沢粒	手捏ね
266	SAB	甕 口縁	-	-	-	-	横-斜ハケ目	横-斜ハケ目	灰白 灰白	2.5mm以下の砂粒 3mm以下の半透明、黒色光沢粒	
267	SAB	甕 口縁	-	-	-	-	ナデ	ナデ	窓 灰緑	1.5mm以下の砂粒 1.5mm以下の透明、黒色光沢粒	
268	SAB	甕 脚部	-	-	-	-	ナデ スス付着	ナデ	淡黄 淡黄	2.5mm以下の砂粒 1.5mm以下の半透明光沢粒	
269	SAB	甕 脚部	-	-	-	-	ナデ 横ハケ目 點斑痕(300)	横ハケ目	にぶい緑 にぶい緑	5mm以下の砂粒 1.5mm以下の半透明、黒色光沢	網目+布目痕
270	SAB	甕 脚部	-	-	-	-	ナデ+横ナデ 横ナデ+横ナデ	ハケ目	灰白 灰白	2.5mm以下の砂粒 1.5mm以下の半透明、黒色光沢粒	
271	SAB	甕 脚部	-	-	-	-	ナデ 横ナデ 點斑痕(300)	ナデ	灰白 灰白	5mm以下の砂粒 1mm以下の半透明、黒色光沢粒	
272	SAB	甕 口縁	(11.1)	-	-	-	横ナデ	横ナデ	灰白 灰白	5mm以下の砂粒 2mm以下の半透明、黒色光沢粒	
273	SAB	小型丸底甕 胴部	-	-	-	-	ナデ+横ナデ 風化	斜工具ナデ 横ナデ	浅黄緑 浅黄緑	2.5mm以下の砂粒 1mm以下の半透明、黒色光沢粒	
274	SAB	高环 口縁	-	-	-	-	ナデ	粗いナデ 横ナデ	にぶい黄 にぶい黄	1.5mm以下の砂粒 1mm以下の半透明、黒色光沢粒	
275	SAB	鉢 底部	-	-	-	(7)	ナデ	ナデ 軸上の紋り	灰白、褐灰 褐灰	5mm以下の砂粒 2mm以下の半透明、黒色光沢粒	内外両一面黒
276	SAB	小型鉢 底部	-	-	-	(2.4)	ナデ	ナデ	淡黄 黄灰	1mm以下の砂粒	内面-黒度
278	SA10	甕 口縁	-	-	-	-	斜工具ナデ 點斑痕	横ナデ 工具痕	褐灰 褐灰	3mm以下の砂粒 2mm以下の半透明、黒色光沢粒	
279	SA10	甕 脚部	-	-	-	-	斜ハケ目 點斑痕	斜ハケ目	浅黄緑 灰白	3mm以下の砂粒 1mm以下の半透明、黒色光沢粒	
280	SA10	台付甕 又は鉢	-	-	-	-	ナデ	ナデ	にぶい緑 灰白	2mm以下の半透明、黒色光沢粒	外面部-黒度

表11 出土遺物観察表(1)

遺物 番号	出土地點 出土遺物	器種 部位	法 量 (cm)			器形調査・手法ほか		色 調		胎 土	備 考
			口径	高さ	幅(横)大径	底径		外 面	内 面		
281	SA10	壺 底部	-	-	-	-	ナデ 工具ナデ	ナデ 工具痕	浅黄褐色 浅黄褐色	3mm以下の砂粒 2mm以下の半透明、黒色光沢粒	
282	SA10	高环 両部	-	-	-	-	ミガキ 粗い質ナデ	暗赤褐色 暗褐色	1.5mm以下の砂粒 1.5mm以下の光沢粒		
283	SA10	高环 両部	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ	浅黄褐色 浅黄褐色	3mm以下の砂粒 1.5mm以下の半透明光沢粒	
284	甕 口縁	(25.0)	-	-	-	-	ナデ スス付着	ナデ スス付着	浅黄褐色 浅黄褐色	5mm以下の砂粒 3mm以下の半透明、黒色光沢粒	
285	SA11	甕 口縁～側部	(22.8)	-	-	-	ナデ スス付着	ナデ 指揮さえ	浅黄褐色 浅黄褐色	4mm以下の砂粒 2mm以下の半透明、黒色光沢粒	
287	SA11	小型甕 ほか充填	14.15	14.3	-	4.3	ナデ 横へラ形状 工具ナデ	ナデ 指揮ナデ	浅黄褐色 浅黄褐色	5mm以下の砂粒 2.5mm以下の半透明、黒色光沢粒	外面・黒変
288	SA11	甕 底部	-	-	-	-	ナデ 粘付付着(剥離) スス付着	ナデ	浅黄褐色 浅黄褐色	4mm以下の砂粒 2mm以下の半透明、黒色光沢粒	
289	SA11	甕 側部	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ	灰青	2mm以下の砂粒 2mm以下の半透明、黒色光沢粒	
290	SA11	甕 側部	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	4.5mm以下の砂粒 1.5mm以下の半透明光沢粒	剥離に布目痕
291	SA11	甕 側部	-	-	-	-	ナデ 粘付付着 スス付着	ナデ	灰青褐色 褐灰色	4mm以下の砂粒 1.5mm以下の半透明光沢粒	
292	SA11	甕 底部	-	-	-	(6.4)	ナデ	ナデ	淡黄 褐灰色	4mm以下の砂粒 2mm以下の半透明光沢粒	
293	SA11	甕 側部	-	-	-	-	粘付付着(剥離) 横ナデ	ナデ	浅黄褐色 浅黄褐色	2mm以下の砂粒 2mm以下の半透明、黒色光沢粒	
294	SA11	甕 側部	-	-	-	-	ミガキ	ナデ	浅黄褐色 灰白、褐灰色	3mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒、1mm以下の砂粒	外面…被剥離か?
295	SA11	甕 底部	-	-	-	5.8	ナデ	横ナデ ナデ 指揮さえ	浅黄褐色 褐灰色	3mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒	外面…黒斑
296	SA11	小型甕 側部	-	-	-	-	ナデ 粗い質ナデ	ナデ 横ナデ 横ナデ 工具でこみ込み	浅黄色 浅黄色	3.5mm以下の砂粒、2.5mm以下の砂粒 2mm以下の半透明、黒色光沢粒	外面…黒斑
297	SA11	高环 両底部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	灰白 灰白	1.5mm以下の砂粒 1mm以下の黒色、半透明光沢粒	
298	SA11	高环 両部	-	-	-	-	八角形工具ナデ	ナデ	浅黄褐色 灰白	2.5mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒、透明光沢粒 1.5mm以下の黒色光沢粒	
299	SA11	高环 両部	-	-	-	-	工具ナデ ミガキ ミガキ	工具ナデ	浅黄褐色 浅黄褐色	1mm以下の砂粒	
300	SA11	高环 両部	-	-	-	(13)	横ナデ	横ナデ	にぶい褐色 にぶい褐色	1mm以下の砂粒	
301	SA11	高环 両部	-	-	-	-	ナデ 横ナデ	横ナデ	浅黄褐色 淡黄	1.5mm以下の砂粒 黒色光沢粒	
302	SA11	小型甕 口縁～側部	(11.6)	-	-	-	ナデ	ナデ	浅黄褐色 褐灰色	2.5mm以下の砂粒、半透明光沢粒 1.5mm以下の砂粒 1mm以下の黒色光沢粒	外面…黒変 内面…灰変
305	SA11	小胴体 完全	(9.4)	-	-	-	ナデ 横ナデ	横ナデ	浅黄褐色 淡黄	1mm以下の砂粒	尖底 底面付着
306	SA11	錐型又は 七輪?					—	—	灰白色 黒褐色	2mm以下の明褐色を含む	スス付着
306	SA12	甕 完全	(34.95)	28.2	(23.5)	(4.1)	ナデ スス付着	ナデ	浅黄褐色、褐 浅黄褐色、褐	4mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒	
307	SA12	甕～側部	(15.3)	-	-	-	横の付着ナデ スス付着	横ナデ ナデ 八角形工具ナデ	淡黄 淡黄、褐	3mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒	
308	SA12	甕 口縁	-	-	-	-	ナデ 剥離付着	ナデ	淡黄 淡黄	3mm以下の砂粒 黑色透明光沢粒	
309	SA12	甕 底部	-	-	-	5.25	ナデ	ナデ 指揮さえ	淡黄 浅黄褐色	1~6mmの砂粒、3mm以下の砂粒 2mm以下の黒色、透明光沢粒	

表12 出土遺物観察表(1)

遺物 番号	出土場所 北土道選	器種 部位	法量 (cm)			器面調整・手法はか		色 調		胎 土	備考	
			口径	器高	側壁 thickness	底径	外 面	内 面	外 面	内 面		
310	SA12	高环 平底	—	—	—	—	ナデ・素ナデ 丁度なナデ	ナデ・素ナデ イギキ 素ナデの後 ナデ	浅黄 にぶい黄	浅黄 にぶい黄	2mm以下の砂粒	
311	SA12	高环 圓部	—	—	—	—	銚子・ガキ 前・後ヒコ	ナデ・素ナデ	浅黄 にぶい黄	浅黄 にぶい黄	2mm以下の砂粒 1mm以下の砂粒	
312	SA12	小型体 ほぼ完形	(8.6)	5.4	—	1.1	ナデ	ナデ	淡黄 浅黄	浅黄 浅黄	2mm以下の砂粒 1mm以下の砂粒	
313	SA12	小型体 ほぼ完形	8.1	4.45	—	2.5	工具ナデ 番ナデ	ナデ	淡黄 浅黄	浅黄 浅黄	1mm以下の砂粒	外面…黒度 内面…黒度
314	ST1	堀 口縁	—	—	—	—	ナデ 横ナデ	ナデ	浅黄 にぶい黄	浅黄 浅黄	2mm以下の砂粒・半透明光沢粒	
315	ST1	堀 口縁	—	—	—	—	銚子・ケ日	横ナデ	黒褐	にぶい褐	3mm以下の砂粒	
316	ST1	堀 端部	—	—	—	—	工具横ナデ 横ナデ付着 スヌ付着	ナデ	褐 黒褐	にぶい褐	2mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒・半透明	
317	ST1	堀 底部	—	—	—	—	ナデ 工具	ハケ日	にぶい褐	にぶい褐	2mm以下の砂粒	1mm以下の透明・半透明・黒色光沢粒
318	C-7	堀 口縁	—	—	—	—	銚子ナデ・ナデ	横ナデ	褐	にぶい褐	3mm以下の砂粒	
319	C-7	堀 口縁	—	—	—	—	銚子ナデ・ナデ スヌ付着	横ナデ	浅黄 浅黄	明闇灰 浅黄	2mm以下の砂粒 半透明・黒色光沢粒	
320	C-6	堀 口縁	—	—	—	—	銚子ナデ付着 風化	横ナデ・ナデ	浅黄 にぶい黄	浅黄 にぶい黄	3mm以下の砂粒 黒色・半透明の光沢粒	
321	C-6	堀 口縁	—	—	—	—	ナデ・銚子ナデ ナデ	風化	浅黄	浅黄	3.5mm以下の砂粒 半透明・透明の光沢粒	
322	C-7	堀 口縁	—	—	—	—	工具横ナデ スヌ付着	ナデ	灰黄褐	浅黄	2mm以下の砂粒 黑色・透明の光沢粒	
323	C-7	堀 口縁	(36.3)	—	—	—	ナデ	銚子ナデ	浅黄	浅黄	4mm以下の砂粒 2mm以下の透明・黒色光沢粒	
324	C-7	堀 口縁	—	—	—	—	銚子(山根) ナデ	ナデ	にぶい褐 浅黄	浅黄	3mm以下の砂粒	
325	C-7	堀 口縁	—	—	—	—	銚子(口縁) ナデ	ナデ	にぶい褐	浅黄	2mm以下の砂粒 透明・半透明の光沢粒	
326	C-6	堀 口縁	—	—	—	—	銚子ナデ・ハケ日 銚子(山根)	ハケ日	灰白	浅黄 にぶい黄	4mm以下の砂粒 2mm以下の透明・黒色光沢粒	内面…黒度
327	C-6	堀 口縁・底部	(13.6)	16.65	14.2	—	銚子ナデ 工具ナデ スヌ付着	銚子ナデ 工具ナデ スヌ付着	浅黄 にぶい褐 にぶい黄	浅黄 にぶい褐 にぶい黄	3mm以下の砂粒 2mm以下の黒色・透明の光沢粒	
328	C-6	堀 底部・側部	—	—	—	—	ナデ 銚子(山根)(周) スヌ付着	ナデ	褐 にぶい黄	黄 1.5mm以下の砂粒	1mm以下の黒色・透明の光沢粒	
329	C-6	堀 底部・側部	—	—	—	—	ナデ 銚子(山根)(周) スヌ付着	ナデ	灰褐 灰褐	にぶい黄 にぶい褐	3mm以下の砂粒 灰褐	
330	C-5	堀 側部	—	—	—	—	ナデ・銚子ナデ 銚子(山根)(周) スヌ付着	ナデ	灰黄 褐	褐 にぶい褐	2mm以下の砂粒	細目に布目灰
331	C-6	堀 側部	—	—	—	—	ナデ 銚子(山根)(周) スヌ付着	長・横ナデ	褐 褐	にぶい黄 にぶい褐	2mm以下の砂粒	
332	C-7	堀 側部	—	—	—	—	銚子(山根)(周) スヌ付着 長い日 紅茶・山根	横ナデ 工具横ナデ	浅黄 にぶい褐	4mm以下の砂粒・1mm以下の砂粒 3mm以下の黒色光沢粒		
333	C-7	一 穴密	—	—	—	—	銚子目	ナデ	浅黄 浅黄	浅黄 浅黄	4mm以下の砂粒	
334	C-6	堀 側部	—	—	—	—	タクタ	ハケ日	灰褐・灰褐 灰白・灰褐	灰褐 灰白	3mm以下の砂粒 2mm以下の透明光沢粒	
335	C-6	堀 側部	—	—	—	—	タクタ スヌ付着	銚子ナデ	淡黄	淡黄	3mm以下の砂粒 半透明・黒色光沢粒	
336	C-6	堀 側部	—	—	—	—	タクタ スヌ付着	ハケ日	にぶい褐 灰褐	3mm以下の砂粒 2mm以下の透明・黒色光沢粒		

表13 出土遺物観察表(13)

遺物 番号	出土場所 出土層	器種 部位	法 量 (cm)		器物倒置・手法はか		色 調		胎 土	備 考
			口径	脚高	脚縫幅	底径	外 面	内 面		
337	C-7	茎 底部	-	-	-	(6.3)	ナデ・T具ナデ 指揮さえ	ナデ 風化	淡黄 浅黄	4mm以下の砂粒 2mm以下の半透明・黒色光沢粒
338	C-6	茎 底部	-	-	-	(4.4)	ナデ	——	淡黄	——
339	C-7	茎 底部	-	-	-	(3.7)	ナデ	ナデ	淡黄 明褐	4mm以下の砂粒 2mm以下の透明白光沢粒
340	C-6	台付茎 底部	-	-	-	7.1	ナデ	ナデ	橙	橙
341	C-6	茎 口縁	-	-	-	-	横搭波状文 ナデ	ナデ・横ナデ	淡黄	淡黄 2mm以下の砂粒・半透明の光沢粒
342	C-7	茎 肩部	-	-	-	-	ナデ	ナデ・工具ナデ にぶい赤褐色	明赤褐	4mm以下の砂粒
343	C-7	茎 頭部	-	-	-	-	横ナデ	ナデ・直角2人 指揮さえ	にぶい橙 淡黄	2mm以下の砂粒・黒色光沢粒
344	C-6	茎 口縁～基部 (11.4)	-	-	-	-	横ナデ ナデ	横ナデ にぶい橙	にぶい橙 にぶい橙	2mm以下の砂粒・黒色・透明光沢粒
345	C-6	茎 基部～一部	-	-	(18.4)	2.2	丁寧なナデ	工具類ナデの後 記121792ナデ	橙	にぶい橙 6mm以下の砂粒、4mm以下の砂粒、 3mm以下の砂粒・半透明・光沢粒
346	C-7	茎 肩部	-	-	(17.3)	-	横ミガキ スス付着	ナデ 指揮さえ	にぶい橙 にぶい橙	2mm以下の砂粒 1mm以下の砂粒・光沢粒
347	C-6	茎 底部	-	-	-	4	ナデ	ナデ・横ナデ 指揮さえ	淡黄 明褐	3mm以下の砂粒、2mm以下の半透明光沢粒、 1.5mm以下の黒色光沢粒・砂粒
348	C-6	茎 底部	-	-	(8.5)	-	指ナデ	にぶい橙	にぶい橙 1.5mm以下の砂粒・光沢粒・砂粒	
349	C-7	茎 底部	-	-	(5)	長いナデ	ナデ	にぶい橙 灰黄	2mm以下の砂粒 1mm以下の砂粒・半透明光沢粒	内面…黒斑
350	C-6	茎 底部	-	-	(4)	-	ナデ・工具類 風化物付着	ナデ・直角2人 にぶい橙	灰黄	2mm以下の砂粒 1mm以下の砂粒・黒色・半透明光沢粒
351	C-6	茎 底部	-	-	-	-	ナデ	淡黄	淡黄 6~7mm以下の砂粒、3mm以下の砂粒、 2mm以下の砂粒・黒色・透明光沢粒	丸底
352	C-7	小型丸底盤 脚部～脚部	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ	灰白 淡黄	1mm以下の砂粒
353	C-7	小型丸底盤 脚部	-	-	(10.8)	-	ナデ	ナデ・直角2人	橙	2mm以下の砂粒 1.5mm以下の半透明・透明白光沢粒
354	C-7	高环 环口凹部 (13.2)	-	-	-	-	丁寧なナデ 横・斜ミガキ	横ナデ	橙 明黄	2mm以下の砂粒・透明白光沢粒
355	C-7	高环 口縁	-	-	-	-	横ナデ	横ナデ スス付着	淡黄 にぶい橙	1mm以下の砂粒・黒色・透明白光沢粒 にぶい橙
356	C-7	高环 环部	-	-	-	-	ミガキ ナデ	ミガキ ナデ	にぶい橙 淡黄	2mm以下の砂粒 1mm以下の透明白光沢粒
357	C-7	高环 年輪	-	--	-	-	ナデ	工具類ナデ 工具斜ナデ	淡黄 にぶい橙	3mm以下の砂粒、2mm以下の砂粒、 1mm以下の半透明・黒色光沢粒
358	C-6	高环 环部	-	-	-	-	ナデ スス付着	ナデ	橙	1mm以下の砂粒
359	C-6	高环 肩部	-	-	-	-	ナデ	T工具ナデ	淡黄 淡黄	3.5mm以下の砂粒、2mm以下の砂粒、 1mm以下の半透明・黒色光沢粒
360	C-6	高环 肩部	-	-	-	-	ナデ	淡黄	淡黄 淡黄	1mm以下の砂粒
361	C-7	高环 肩部	-	-	-	-	ナデ	丁寧なナデ 長いナデ	橙 淡黄	1mm以下の砂粒・黒色・透明白光沢粒
362	C-6	高环 肩部	-	-	-	-	ナデ 直角2人ナデ 指揮ナデ	直角2人ナデ 指揮ナデ	淡黄 明褐	3.5mm以下の砂粒、2mm以下の砂粒、 1.5mm以下の半透明・黒色光沢粒
363	C-6	高环 肩部	-	-	-	-	斜ミガキ ナデ	斜ミガキ 工具ナデ	淡黄 明褐	2mm以下の砂粒 1mm以下の砂粒・透明白光沢粒

表14 出土遺物観察表(1)

遺物 番号	出土場所 及土層 部位	路種 部位	法 量 (cm)			器面調整・手法ほか		色 調		胎 土	備 考
			口径	高さ	側面大きさ	底径	外 面	内 面	外 面		
364	C-7	高环 脚部	-	-	-	-	風化	ナデ	黄橙	黄橙	3mm以下の砂粒
365	C-7	高环 脚部	-	-	-	-	ナデ	低い横ナデ 側振痕	浅黃緑	にぶい黄 にぶい緑	2mm以下の砂粒・透明光沢粒
366	C-7	高环 脚部-瓶部	-	-	-	(14.6)	ナデ	ナデ・横ナデ 側ナデ	橙	橙	4mm以下の砂粒・2mm以下の砂粒、 1mm以下の透明・黒色光沢粒
367	C-6	高环 脚部	-	-	-	-	ナデ スス付着	ナデ	浅黃緑	浅黃緑	1mm以下の砂粒
368	C-7	小型高环 脚部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	にぶい黄	橙	2mm以下の砂粒
369	C-6	小型高环 脚部	-	-	-	-	ナデ	横ナデ	淡黄	淡黄	1mm以下の砂粒 内面…爪形状工具による刺痕
370	C-7	高环 坏部	(14.3)	-	-	-	ナデ スス付着	ナデ	浅黃緑	浅黃緑	1mm以下の砂粒・黒色光沢粒
371	C-6	鉢?	(13.4)	-	-	-	ナデ・横ナデ 丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい黄緑 黒褐	にぶい黄緑	1mm以下の砂粒 内面…茎皮
372	C-7	鉢 口縁	-	-	-	-	横ナデ ナデ	横ナデ ナデ	にぶい黄緑 灰青緑・黒褐	にぶい黄緑	4.5mm以下の砂粒 2mm以下の半透明・黒色光沢粒
373	C-7	小型壺または 壺底部	-	-	(3.3)	-	ナデ・指ナデ	ナデ	淡黄	淡黄	2mm以下の半透明光沢粒・砂粒 外面…茎皮
374	C-7	小型壺または 壺底部	-	-	-	3.2	ヘラ状工具 瓶ミガキ	指頭ナデ	淡黄	淡黄	2mm以下の半透明光沢粒・砂粒
375	C-7	Lニコア型 環-底部	-	-	-	2.1	丁寧なナデ	ナデ	淡黄 淡黄緑	淡黄	1mm以下の砂粒
376	C-6	小型鉢 口縁-側縁	-	-	-	-	斜ハケ目 側面洗拭	横ナデ	明黄緑	淡黄緑	1mm以下の透明光沢粒
377	C-6	小型鉢 底部	-	-	(1.45)	ハケ目・ナデ	ナデ	にぶい黄 褐色	淡黄緑 にぶい黄緑	1mm以下の砂粒	乳房状底部
378	C-7	小鉢鉢 底部	-	-	-	1.2	ナデ・風化	ナデ	浅黄緑	浅黄緑	1mm以下の砂粒 1mm以下の透明光沢粒
379	C-7	小鉢鉢 底部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	淡黄	淡黄緑	1mm以下の砂粒 乳房状底部
380	C-6	變? 崩部	-	-	-	-	靴子付タキキ	灰	灰白	暗灰	領忠器
381	G	変 口縁部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	淡黄 淡黄緑	1mm以下の暗色粒・3mm以下の乳白色 2mm以下の半透明光沢粒・1.5mm以下の乳白色 光沢粒	黒化ぎみ
382	G	鉢 口縁部	-	-	-	-	剥皮文 ナデ	ナデ	橙	にぶい黄	4mm以下の黒褐光沢粒・3.5mm以下の赤褐色 2mm以下の黒色光沢粒
383	SAJ	變 口縫	-	-	-	-	ナデ	ナデ	橙 浅黄緑	灰青緑	微細な砂粒 2mm以下の透明・黑色の光沢粒
384	SAJ	變 瓶部	-	-	-	-	丁寧なナデ 距子穴斧	丁寧なナデ	にぶい青緑 黒褐	灰褐・褐灰	3mmの砂粒・微細な光沢粒
385	SAJ	變 刷毛片	-	-	-	-	ナデ	ナデ	橙	橙	2mm以下の砂粒
386	SAJ	變 底部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	淡黄 淡黄	淡黄	1mm以下の砂粒・透明・黑色の光沢粒
387	SAJ	變 腹部	-	-	-	-	ナデ 點突起(周辺)	ナデ	橙	橙	2mm以下の砂粒 1mm以下の透明・黑色の光沢粒
388	SAJ	小型壺 腹部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	浅黄	灰白	微細な砂粒
389	SAS	高环 环部	-	-	-	-	ナデ	ナデ	浅黄緑	橙	2mm以下の砂粒・1mm以下の光沢粒
390	SAS	高环 坏部	-	-	-	-	工具ナデ	ナデ	橙 にぶい橙	明赤褐	1mm以下の砂粒・透明の光沢粒

表15 出土遺物観察表(5)

遺物番号	出土点 出土基準	器種 部位	法 番 (cm)			器面調査・手法ほか		色 調		胎 土	備 考	
			口径	器高	最大幅	底径	外 面	内 面	外 面	内 面		
391	SA3	高环 器部	—	—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	1mm以下の砂粒・光沢粒	
392	SA3	高环 器部	—	—	—	—	斜ハケ目 横ナデ	横ハケ目 にぶい墨	褐	褐	2mm以下の半透明光沢粒	
393	SA3	高环 器部	—	—	—	(12.4)	斜ハケ目 墨ハケ目・ナデ	ナデ・墨ハケ目 黄灰	にぶい黄褐色 にぶい墨	2mm以下の砂粒・透明の光沢粒		
394	SA3	小型鉢 底部	—	—	—	—	ナデ	ナデ	浅黄褐色	浅黄褐色	1mm以下の砂粒	失底
395	C	甌 底部	—	—	—	(4.5)	丁寧なナデ	丁寧なナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒 灰黄褐色	3mm以下の砂粒 2mm以下の黒色・半透明の光沢粒	平底
396	C	甌 底部	—	—	—	(5.5)	ナデ	粗いナデ	にぶい黄褐色 にぶい黄褐色	3mm以下の砂粒 灰黄褐色	3mm以下の砂粒 2mm以下の黒色・半透明の光沢粒	平底
397	C	甌 底部	—	—	—	4.0	ナデ	ナデ	淡赤褐色 灰白	3.5mm以下の砂粒 灰白	3.5mm以下の砂粒 2mm以下の黒色・半透明光沢粒	
398	C	甌 底部	—	—	—	3.3	丁寧なナデ	ナデ	黄灰褐色 にぶい黄褐色	2mm以下の砂粒 2mm以下の砂粒	2mm以下の砂粒・透明・黒色の光沢粒	外縁…黒底
399	C	甌? 底盤付近	—	—	—	—	ナデ	ナデ	にぶい黄褐色 にぶい墨	2mm以下の砂粒・透明・黒色の光沢粒		
400	C	台付鉢? 底部	—	—	—	8.8	ナデ	ナデ	褐 にぶい墨	3mm以下の砂粒 2.5mm以下の黒色・半透明光沢粒	内部…灰化物付有 2.5mm以下の黒色・半透明光沢粒	
401	C	小型鉢 口縁～底部	(8.5)	7.45	7.6	4.8	ナデ 指捺えき	横ナデ ナデ	浅黄褐色 褐	にぶい黄褐色 3mm以下の砂粒	内面…黒底	
402	C	小型鉢 口縁～底部	(8.6)	6.5	—	3.9	ナデ	ナデ	褐灰褐色 灰灰褐色	にぶい墨 2mm以下の砂粒	2mm以下の砂粒	
403	C	小型鉢 口縁～底部	(8.2)	7.4	—	0.35	ナデ 指捺痕	ナデ 指捺痕	淡黄・灰黄 指捺痕	淡黄・灰白 2mm以下の砂粒	2mm以下の砂粒	失底
404	C	小型鉢 底部	—	—	—	(2.4)	ナデ・墨ナデ 指捺痕	ナデ	褐灰褐色 2mm以下の砂粒	2mm以下の砂粒		

表16 出土勾玉観察表

遺物番号	出土点 出土基準	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	色 調	備 考
344	SA6	勾玉	3.615	1.16	1.45	6.6	にぶい黄褐色、淡黄	土質

表17 出土石器観察表

遺物番号	出土点 出土基準	器 種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重 量 (g)	石 材	備 考
36	A-1	石砍未製品	2.7	2.5	1	6.4	赤色砂岩	
37	A表揮	石斧丁	(2.05)	(3.25)	(0.4)	(3.4)	頁岩	
92	SA7	砾石	14.7	5.75	19.0	195.0	頁岩	研磨痕あり
143	B	砾石	16.85	7.8	4.85	739.7	砂岩	研磨痕あり
144	B	燧石製品	10.2	7.15	3.4	57.4	—	穿孔 3
180	SA4	砾石	19.0	8.8	4.7	1,230	砂岩	研磨痕あり
245	SA5	砾石	11.1	3.85	3.1	160.9	砂岩	研磨痕あり
246	SA5	磨石?	4.35	3.5	3.3	71.0	砂岩	磨痕あり
277	SA9	砾石	14.25	6.45	4.35	616.2	砂岩	研磨痕あり
284	SA10	砾石	17.55	7.1	3.1	545.8	砂岩	研磨痕あり
304	SA11	輕石製品	6.8	7.25	3.85	38.9	—	加工痕あり

()は現存計測値

第5章 まとめ

今回、道路整備事業に伴う調査ということで、道路幅のみの調査のため遺跡全体を把握するまでには至らず、遺跡の一部分を垣間見る程度にとどまった。また調査方法についても前述のとおり非常に制約の受けた形での調査になり、遺構の規模および形態等についての把握をかなり困難なものにした。

そのなかで弥生時代終末～古墳時代前半にかけての住居跡12軒をはじめ、地下式横穴墓等多くの遺構および遺物が確認されたことは、今後、丸谷地区遺跡群の全体像を検討していく上で貴重な資料を提示できることになった。ここでは遺構・遺物について簡単にまとめを述べていきたい。

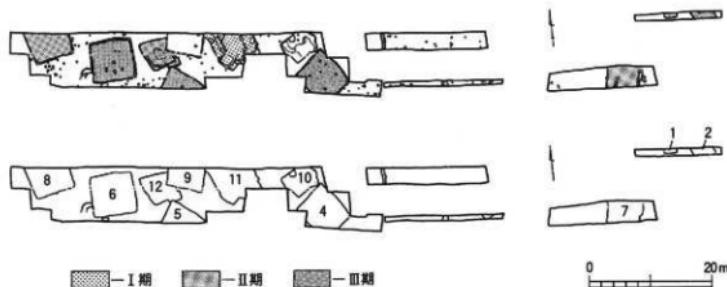
土器について

主に堅穴住居跡の出土遺物についてみていくと時期は大きく分けて3時期に分けることができる。
I期はSA11において出土している。

壺は胴部から底部にかけて不明であるが、頸部のくびれが明確で口縁部が「く」の字に外反し、胴部は上半部が張るもの(285)、もしくは胴部があまり張らないもの(286)である。壺では偏球形の胸部片(276)が出土しており、丸底もしくは乳房状の底部になるものと思われる。これと類似するものが源藤遺跡⁽¹⁾でもみられ弥生時代終末期に比定される。

II期はSA1・SA7・SA8・SA12において出土している。

壺はSA1・SA7・SA12においてほぼ完形のものが多く出土している。底部は上げ底もくしは平底がみられる。口縁部は緩やかに外反し、頸部には明確な稜をもち、胴部は上半部が張るもの、頸部に明確な稜をもたず、胴部は上半部が張るものがある。壺では複合口縁壺の拡張部が内傾し、横描波状文が施されているもの(254)や底部が尖底状になるもの(44)がみられる。また高坏に関しては、SA1において腕状の坏部に裾部が内湾しながら聞くもの(45)やSA7では腕状の坏部に脚部が「ハ」の字に聞くもの(89)、そのほか、SA1およびSA8において脚住部が直線的に伸び、裾部が内湾ぎみに聞き、屈曲部に透かしがはいるもの(48・49・262)などがみられる。45・89の形態は布留並行期にみられ、254・44や底部が乳房状になる小形の鉢(52)等もこの時期まで残る傾向にあることから、古墳時代初頭に位置付けられる。



第50図 集落変遷図 (1/800)

しかし、SA 8 では、頸部のくびれがなく口縁部が緩やかに外反しながら伸び、胴部があまり張らず、頸部には断面三角形の貼付突帯をもつ甕（247）が出土しており、この甕は薩摩・大隅半島系からの影響を色濃く受けたものと思われ、妙見遺跡において類似するものが須恵器と共伴して出土しており時期的に下る要素をもつ。このため壺・高坏等とセットとして捉えることに疑問が残るが、ニタ元遺跡でも同様の例がみられることから今後、類例の増加を待ちたい。

Ⅲ期は SA 2・SA 4・SA 5・SA 6 で出土している。

甕は SA 4 において、頸部のくびれがなく口縁部が緩やかに外反しながら伸び、胴部はあまり張らないものの（145）または SA 2・SA 6 の甕は貼付突帯をもち、頸部がくびれ、口縁部は外反する。胴部上半部もしくは中位が張るもの（64・65・199・200）がある。壺には SA 4・SA 6 において偏球形の胴部を有し、頸部には刻目の貼付突帯をもち、口縁部は「く」の字に外反するものと推定されるもの（156・157・214）または複合口縁壺では拡張部が直立するもの（69）がみられる。底部には平底および丸底がみられる。また、この時期には小形丸底壺がみられ、SA 6 では小形丸底壺の影響を受けているものと思われる口縁部が内湾ぎみに大きく開き、頸部はわずかにくびれ体部が浅くなるもの（223）がみられ、古い様相をもつ。SA 2 では口径が胴部最大径を上回り、口縁部は外方に開くもの（72・73）がみられ、SA 4・SA 6 では口径が胴部最大径を下回り、口縁部が短く開くもの（161・220）がみられ、底部は丸底と平底に近い丸底がある。これらは新しい様相をもち、八幡上遺跡の堅穴住居跡で出土している小形丸底壺と同時期か若干下るものと思われる。

高坏では屈曲部に稜をもち、口縁部は外反しながら開く坏部をもつ。脚部は直線的な脚柱部をもち、屈曲して裾部が短く開くもの（168）や屈曲部に明瞭な稜をもたず、口縁部は内湾しながら開く坏部をもつ。脚部はやや湾曲する脚柱部をもち、屈曲して裾部が短く開くもの（172）がある。また SA 4・SA 6 では脚柱部がエンタシス状に膨らみ、透かしがはいるもの（176・232）と SA 2 では透かしがはいらないもの（80）もみられる。

これらの様相より古墳時代前半に位置付けられる。

遺構について

堅穴住居跡は合計で12軒検出されており大きく分けて3群（SA 1・SA 2・SA 7）、（SA 4～SA 6・SA 8～SA 12）、（SA 3）に分けることができる。そのうち4軒は切り合い関係（SA 5・SA 9・SA 11・SA 12）をみせている。調査区が限定されており、東西方向においてのみの確認で断定できないが時期の変遷について若干触れていくたい。

I期は SA 11 のみの確認に終わったが、調査区幅が狭く断定できないが方形基調の花弁状住居の可能性があり、大型である。調査区外にも同時期の堅穴住居跡の存在の可能性があり、ある程度の空間を保って分布していたのであろうか。

II期は SA 1・SA 7・SA 8・SA 12 の4軒で、そのうち SA 7 は調査区の関係上、プランが不明瞭であるが、住居跡中央部が一段低くなり、周りがベット状造構になる可能性があることから花弁状住居になる可能性がある。SA 12 も同様で、この時期には祝吉遺跡でも確認されており、花弁状住居は依然として存続する傾向にある。主軸は北西方向を示すもの、北方向を示すものの2グループに分かれ。

III期は SA 2・SA 4・SA 5・SA 6 の4軒で、ほとんどが方形プランと推定され、主軸もほぼ北西方向を示している。また SA 2 を除き、規模が大型化（最大で 42.16m²）し、II期と比べ西側部分に集中する傾向にある。SA 5・SA 6 はかなり近接するが、土器の様相より若干時期差があるもの

と思われる。なお、SA9については遺物量が少なく時期決定に欠けるが、SA12→SA9の切り合
い関係によりⅢ期に近い時期と推定される。

山ノ田第1遺跡の付近には前畠遺跡⁽¹⁾が立地し、堅穴住居跡26軒が確認されており、近い時期での切
り合い関係が認められ、当遺跡と同様の様相を持つことから今後検討を要する。

地下式横穴墓は1基のみ確認され丸谷川の左岸では初例である。その規模より小児用と推定され
る。遺物は堅坑内で土器片が数点程見られたが、堅坑を埋め戻す際に流れ込んだものと思われ時期を
確定する要因にはならない。しかし、遺跡周辺では対岸に築池地下式横穴墓群⁽²⁾が所在し、6世紀代を
中心に構築されたとみられ、それらに近い時期であろうと思われる。このことよりある時期を境に集
落が衰退し、〈生活の場〉から〈埋葬の場〉へと移行していく様子が窺い知ることができよう。

本書を作成するにあたり、石川悦雄、谷口武範、吉本正典、東憲章（以上 県文化課）、乘畠光博
(都城市教育委員会)の諸氏に御指導・御教示を頂いた。筆者の理解不足のため不十分な内容になっ
たが、整理しなおして今後に備えたいと思います。

(注)

- (1) 「源藤遺跡」 宮崎市教育委員会 1987
- (2) 「野久首遺跡 平原遺跡 妙見遺跡」九州縦貫自動車道（人吉一えびの間）建設工事にともなう
埋蔵文化財調査報告書第2集 宮崎県教育委員会 1994
- (3) 平成7年度発行予定。乘畠光博氏御教示。
- (4) 「七又木地区遺跡 八幡上遺跡 七又木遺跡 銀代々追跡」宮崎県新富町教育委員会 1992
- (5) 「祝吉遺跡」 都城市文化財報告書第1集 都城市教育委員会 1981
- (6) 「上大五郎遺跡 前畠遺跡」 都城市文化財報告書第26集 都城市教育委員会 1994
- (7) 「築池地下式横穴墓群」『宮崎県史』資料編 考古2 1994 など

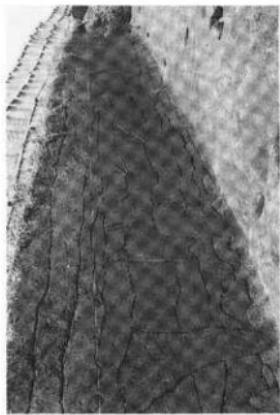
参考文献

- 「丸谷第1遺跡」「九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告」(3) 宮崎県教育委員会 1980
「桶田遺跡」宮崎県東郷町教育委員会 1992
「内野々遺跡」宮崎県教育委員会 1992
「前原北遺跡」「宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書」第四集 宮崎県教育委員会 1988
石川悦雄「宮崎平野における弥生土器編年試案 一素描(Mk II)」「宮崎考古」第9号
石川悦雄「宮崎における弥生時代堅穴式住居の展開」「宮崎県史研究」
「ムラと地域社会の変貌—弥生から古墳へ」発表趣旨資料 埋蔵文化財研究会 1995
吉本正典「宮崎平野出土の土師器に関する編年的考察 一須恵器出現以前の資料を中心として」
『宮崎考古』第14号 1995

報告書抄録

フリガナ	ヤマノタダイイチイセキ
書名	山ノ田第1遺跡
副書名	県道高城・山田線緊急道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編集者	日高広人 他
発行機関	宮崎県教育委員会
所在地	宮崎県橋通東1丁目9-10
発行年月日	1996年3月31日

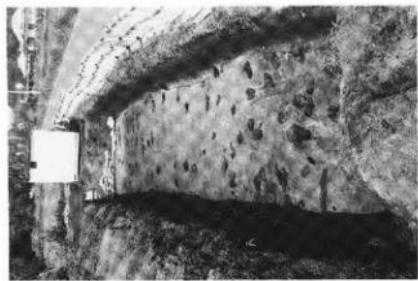
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因
やまのただいいち 山ノ田第1	都城市 丸谷町字山ノ田 ほか	31°48'39" 付近	131°5'15" 付近	19940721 ↓ 19940908 ↓ 19950907 ↓ 19951031 ↓ 19960221 ↓ 19960415 ↓ 19960904 ↓ 19960920	1,711	道路整備事業
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
集落跡 墓	弥生時代 古墳時代	堅穴住居跡 12 地下式横穴墓 1 溝状遺構 3 土坑 2	弥生土器 土師器 土製勾玉 石器	など		



A-1区北壁土層断面の状況

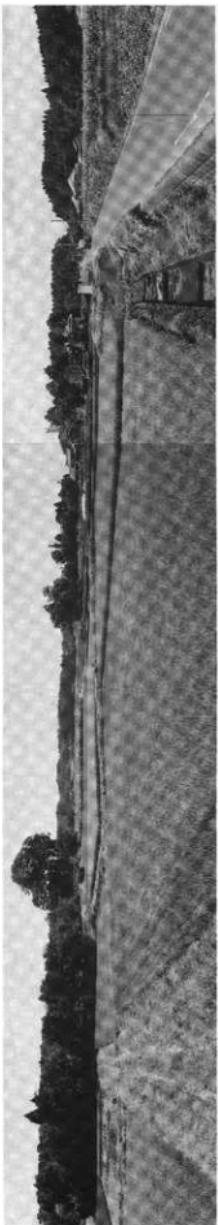


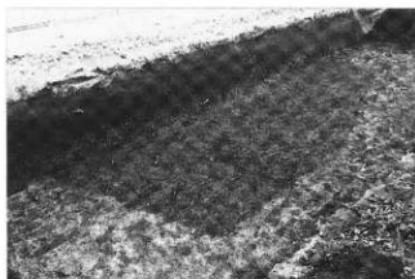
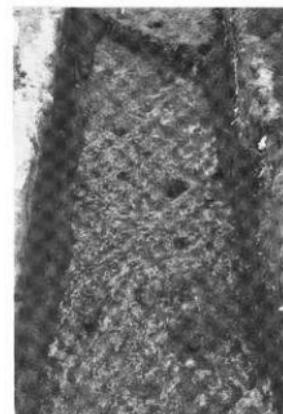
前畠遺跡(弥生末～古墳初期の住居址、中世の居館跡)



← A-1区北東隅部の遺物出土状況

山ノ田第1遺跡





S A 6 検出状況



S A 6 (C-7区)



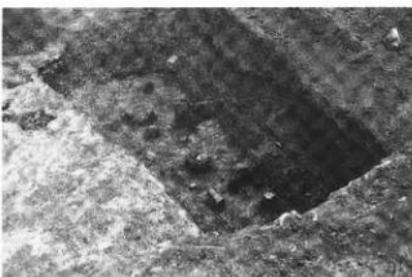
S A 6 遺物出土状況



S A 6 (C-5区)



S A 7



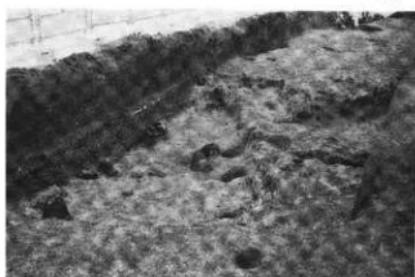
S A 8



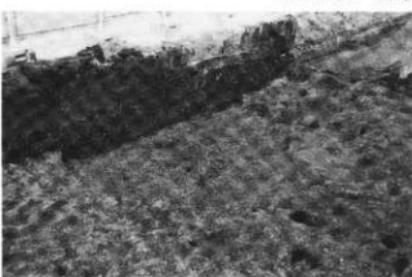
S A 10



S A 11 (C-7区)



S A 12



S A 11 (C-5区)



S T 1 閉塞状況



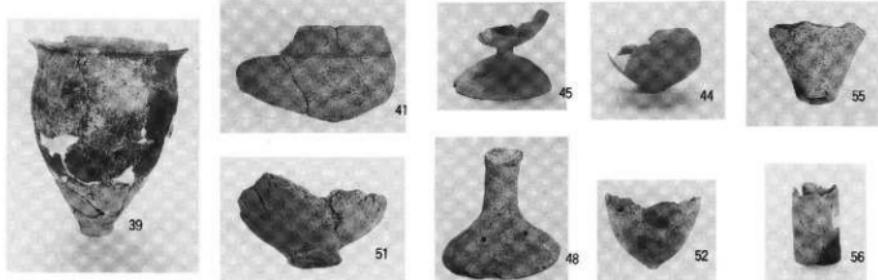
S T 1-1



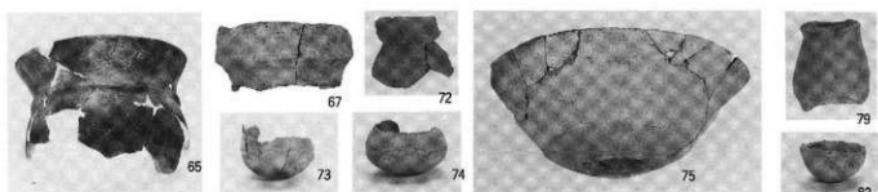
S T 1 - 2



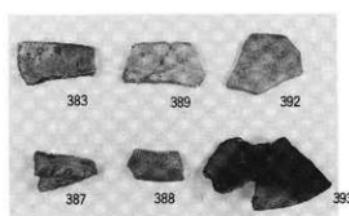
作業風景



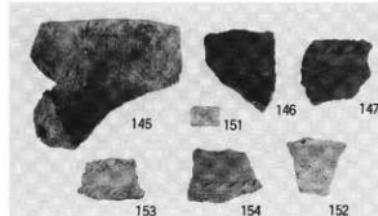
S A 1 出土遺物



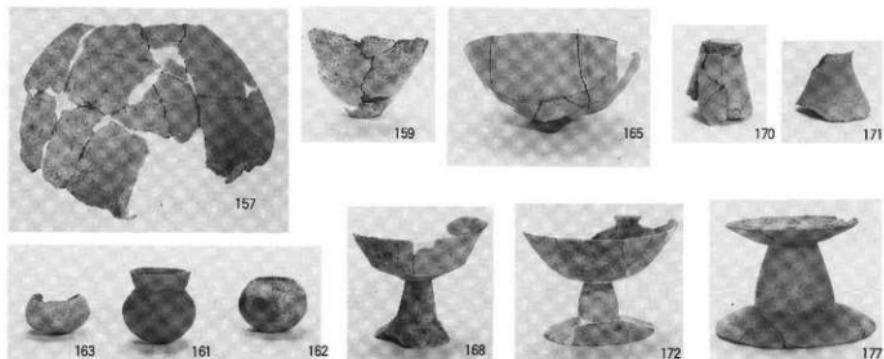
S A 2 出土遺物



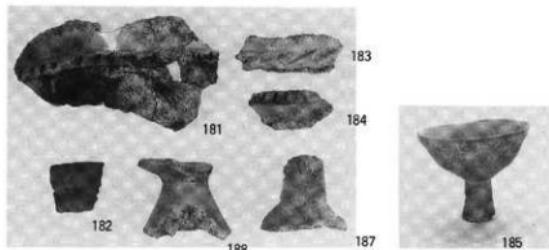
S A 3 出土遺物



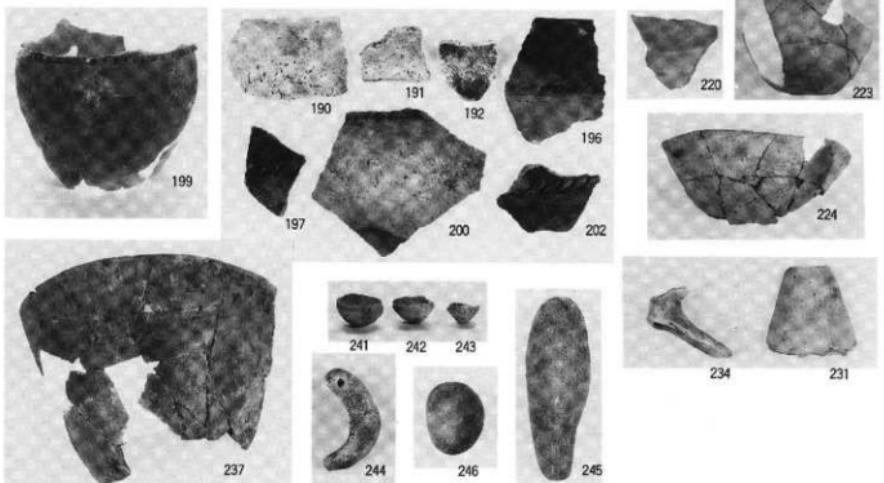
S A 4 出土遺物 - 1



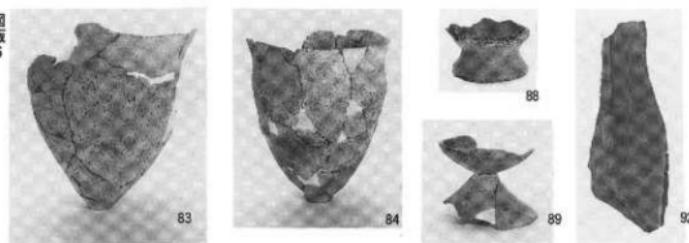
S A 4 出土遗物—2



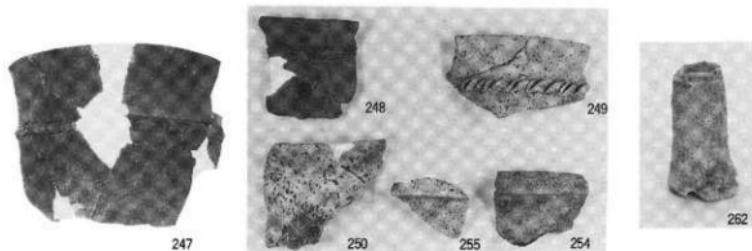
S A 5 出土遗物



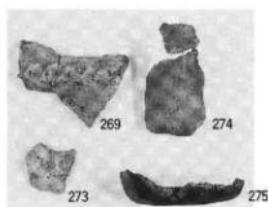
S A 6 出土遗物



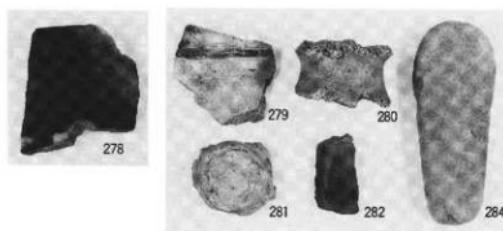
S A 7 出土遺物



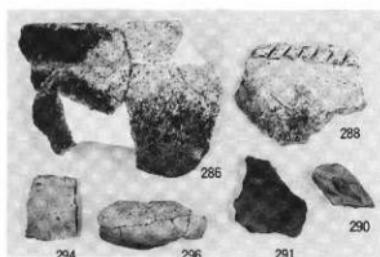
S A 8 出土遺物



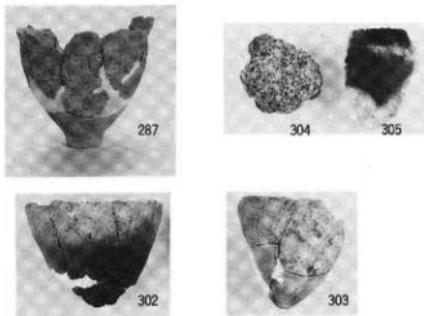
S A 9 出土遺物

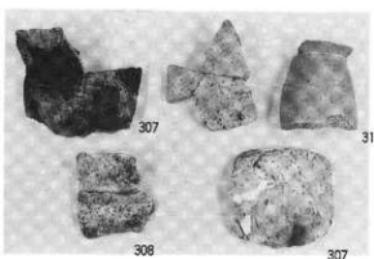
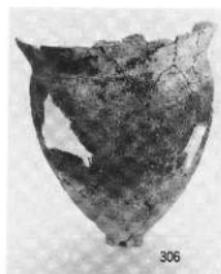


S A 10 出土遺物

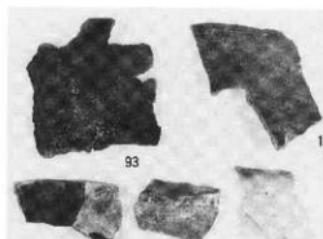
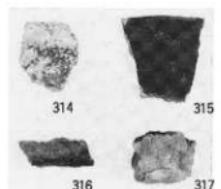


S A 11 出土遺物

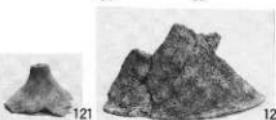
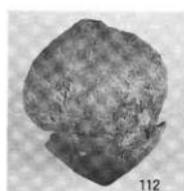




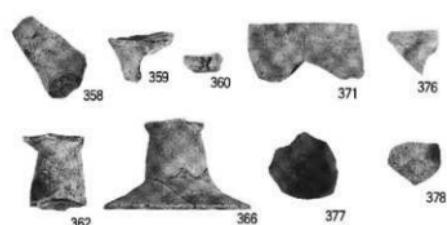
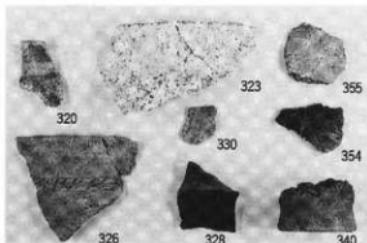
S A 12出土遺物



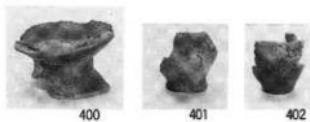
S T 1出土遺物



B区出土遺物



C区出土遺物



F区出土遺物

山ノ田第1遺跡

県道高城・山田線緊急道路整備事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成8年3月

編集 宮崎県教育委員会
発行 〒880 宮崎市橘通東1丁目9-10

印刷 株式会社都城印刷
〒885 宮崎県都城市早鉢町1618番地